

中部大学国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光 2021^{年度}



CHUBU UNIVERSITY

中部大学国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光2021^{年度}

2022年2月18日(金) 13:00-17:30
オンライン開催

中部大学国際人間学研究所シンポジウム 持続可能な観光2021^{年度}

2022年2月18日(金) 13:00-17:30 オンライン開催

Opening Address : 持続可能な観光プロジェクトの趣旨説明、SDGs・ポストコロナのJNTO 取組方針
柳谷啓子(中部大学国際人間学研究所長・人文学部長)1

Keynote Speech : エスプリの効いた観光
細田衛士(中部大学副学長・経営情報学部長)5

Case Reports

- The Development Dilemma and Countermeasures of COVID-19's Tourism Industry in Inner Mongolia
Wurihan(内モンゴル大学蒙古歴史学系非常勤講師)10
- Sustaining Tourism in the Post Covid-19 : the Case of Malaysia
Badaruddin Mohamed(マレーシア科学大学建築学部教授)14
- 恵那市の伝統芸能を取り巻く現状と課題
吉村新悟(恵那市生涯学習課文化振興係長)18
- 高山市におけるコロナ禍の影響とポストコロナの持続可能な観光
永田友和(高山市飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長)22
- 稚内市の2020-2021年度の観光状況について
牧野竜二(稚内市建設産業部観光交流課主任・稚内北星学園大学非常勤講師)26

Question-and-Answer Session29

Project Reports

- 東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト :
コロナ禍における恵那市地歌舞伎保存会の活動と伝統芸能継承の試みについて
永田典子(中部大学人文学部日本語日本文化学科教授)
嘉原優子(中部大学人文学部日本語日本文化学科教授) 37
- 飛騨高山の歴史観光都市としての伝統を支える人々が暮らす社会空間研究プロジェクト :
コロナ禍における歴史文化観光地域の現状 : 高山市と犬山・郡上市の城下町
末田智樹(中部大学人文学部歴史地理学科教授)41
- 地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築プロジェクト : 音声データ収集
終和佑(中部大学人文学部コミュニケーション学科准教授)45
- 春日井市姉妹都市ケローナ(カナダ)におけるワイン・ハスカップ観光プロジェクト
松本建夫・足立晃久・飯田知恵子・野上秀之・野田美智子・脇田宏司
(中部大学アクティブアゲインカレッジ国際羽後ゼミ)49
- アジアのオルタナティブツーリズム研究プロジェクト :
コロナ禍における「ニューツーリズム」の考察
澁谷鎮明(中部大学国際関係学部国際学科教授)51

Mid-way Closing Remarks

羽後静子(国際人間学研究所副所長)53

Poster Session & Free talk

■ 東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト	
嘉原優子 (中部大学人文学部日本語日本文化学科教授)	
永田典子 (中部大学人文学部日本語日本文化学科教授)	56
自由懇談	58
■ 東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト：記録映像撮影とデジタルアーカイビング	
荒川杏菜 (人文学部コミュニケーション学科4年)	
安永知加子 (国際人間学研究科言語文化専攻2年)	
柳谷啓子 (人文学部コミュニケーション学科教授)	62
自由懇談	63
■ 岐阜県高山市における歴史文化観光地域の成立背景及び現状と課題	
塩屋木雲 (人文学部歴史地理学科4年)	
古川穂高 (人文学部歴史地理学科4年)	
鵜飼要 (人文学部歴史地理学科4年)	
末田智樹 (人文学部歴史地理学科教授)	69
自由懇談	71
■ 自律型移動ロボットによる稚内市の地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築プロジェクト	
柊和佑 (人文学部コミュニケーション学科准教授)	79
自由懇談	80
■ 春日井市姉妹都市ケロウナ (カナダ) におけるワイン・ハスカップ観光プロジェクト	
松本建夫 (中部大学アクティブアゲインカレッジ国際羽後ゼミ)	
羽後静子 (国際関係学部国際学科教授)	89
プレゼンテーション	91
■ コロナ禍におけるニューツーリズムの考察：中部地方の宿泊施設と「ワーケーション」	
澁谷鎮明 (国際関係学部国際学科教授)・呼春 (国際人間学研究科博前1年)	94
■ 中部地方におけるインバウンド観光の季節的変動に関する一考察：台湾からのバスツアーを中心に	
澁谷鎮明 (国際関係学部国際学科教授)	95
自由懇談	97
■ 中国周縁地域からの訪日観光に関する研究：内モンゴル自治区を事例として	
呼春 (国際人間学研究科博前1年)	105
プレゼンテーション	106
■ 高山市におけるコロナ禍の影響とポストコロナの持続可能な観光	
永田友和 (高山市飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長)	109
自由懇談	111

開会挨拶：研究所プロジェクトの概要、SDGs・ポストコロナの JNTO の取り組み方針等



柳谷 啓子 YANAGIYA, Keiko

中部大学人文学部コミュニケーション学科教授

中部大学国際人間学研究所長、人文学部長

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。文学修士。専門分野は、社会言語学、英語学、談話分析。研究テーマは、メディアと表現の関係、デジタルアーカイブなど。主な訳書・著書に『読みのプロトコル』『スクールの文学講義：テキストの構造分析にむけて』『エーコの読みと深読み』（以上岩波書店）『<はかる>科学：計・測・量・謀：はかるをめぐる12話』（中央公論新社）。

これから、国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2021 年度」を始めさせていただきます。私は、当研究所所長の柳谷啓子と申します。どうかよろしくお願い申し上げます。本日は、年度末のお忙しいところ、当シンポジウムにご参加くださいます、ありがとうございます。まず、当研究所のミッションステートメント、現在進行中の研究所のプロジェクト群、そして、SDGs への貢献とポストコロナ時代の持続可能な観光の推進に向けての JNTO 取組方針などについて少しお話しさせていただきたいと思います。

国際人間学研究所は、2004 年にできた新しい研究所で、国際関係学部と人文学部の上にまたがって設立されております国際人間学研究科の所属教員を主な所員としております。地域活性化（localization）を基盤とした国際共生社会（globalization）の実現を目指すことをミッションとしておりまして、文理融合の研究プロジェクトを推進し、それを通して国際人間学研究科を活性化させ、ひいては中部大学の存在意義を高めようということをやってきました。

私が所長となりました 2019 年度より、当面 3 年計画で、歴史、文化、政治、経済、情報、生態系などの文理融合の視座からの研究を進めるにあたって、ローカルなフィールドとして、春日井市、高山市、恵那市を中心とした東濃地域を含む従来の研究対象であった伊勢・三河湾流域圏と高山市などの隣接地域、および、ちょっと飛び地をしましてご縁のある稚内市を対象としました。また、グローバルなフィールドとしては、本学の学術交流協定校のマレーシア科学大学があるマレーシア、本研究科の学術交流協定校である内モンゴル大学がある内モンゴル自治区、春日井市の姉妹都市であるカナダのケローナという 3 地域を対象としました。

これらをあわせて、SDGs 達成に寄与すべく、「持続可能な観光」を共通の切り口としつつ、当初、7つのプロジェクトを立てて研究を開始いたしました。詳細は後ほど各プロジェクトのリーダーのみなさんから活動報告がありますので、そちらに譲ることにいたします。

2019 年より 3 年計画で開始した「持続可能な観光」プロジェクトでしたが、2019 年度末より蔓延し始めた新型コロナウイルスによる感染症拡大により、海外をフィールドとする研究は文献研究に切り替えざるを得なくなり、また国内におきましても、県境を跨ぐ行き来がしにくくなり、例えば東濃の地芝居調査保存プロジェクトなどは、ご高齢者の多い保存会のみなさんとの交流を遠慮したり、定期公演が軒並み中止になったりして、活動がすっかり滞ってしまいました。

そこで、本来ならば 2021 年度末、つまり今年度末を以て終了するはずだった「持続可能な観光」プロジェクトをもう 1 年延長して、何とかもう少し成果を形にできるようにしたいと考えて、2022 年度をプロジェクトの最終年度とすることにいたしました。2020 年度からは、「Sustainable

heritage tourism in Malaysia 研究プロジェクト」と「モンゴルにおける草原観光の季節的変動研究プロジェクト」を合体させて、オルタナティブツーリズム・プロジェクトといたしました。また、春日井市の商工会議所と連携して実施していた「まちゼミ」活動を中心とする地域活性化プロジェクトは、プロジェクト・リーダーの退職に伴って終了いたしました。したがって、現在は、5つのプロジェクトが走っております。

さて、観光政策では多少出遅れた感のありました日本ですが、昨年6月によりやく日本政府観光局（JNTO : Japan National Tourism Organization）が「SDGs への貢献と持続可能な観光＝サステナブル・ツーリズム＝推進に向けての取組方針」を策定して発表しました。2021年6月に配布されたプレスリリース（日本政府観光局 2021）によれば、推進する取り組みは、サステナブル・ツーリズムに取り組む日本の地域や観光コンテンツ（アクティビティや観光・飲食・宿泊施設等）の海外向け情報発信、国内関係者への国内外の先進事例の情報提供、海外の旅行者に対する「責任ある旅行者としての行動の奨励、人種や国籍、民族や宗教、ジェンダーや年齢、障害の有無等に関係なく全ての旅行者が日本において快適で安全・安心な旅行ができるようなユニバーサル・ツーリズムに資する情報発信などということです。

特徴としては、SDGs とポストコロナの状況を強く意識していることが挙げられると思います。

まず、中心となる SDGs のほうですが、JNTO による持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の定義は、まず、その観光が地域の「環境」を守り育むものであること、すなわち、環境負荷に配慮した観光コンテンツなど環境資源を最適な形で観光に活用している事例を情報発信し、自然や生物多様性の保全等に貢献すること。また、その観光が地域の「文化」を守り育むものであること、つまり、日本が古来育んできた地域の有形無形の伝統・文化資産等を魅力ある形で海外に発信し、外国人旅行者による体験等を通じて、その保存・継承に貢献すること。さらに、地域の「経済」を守り育むものであること、すなわち、特定の地域や時期に偏ることなく日本全国各地への外国人旅行者の安定した誘客・滞在を目指すとともに、地域ならではの体験や特産品などの購入を促進することで、地域経済の活性化と安定的かつ長期的な雇用を創出し、住んで良し・訪れて良しの地域づくりに貢献することであるとしています（日本政府観光局 2021）。

具体的な SDGs との関連で言いますと、「目標 8 : 働きがいも経済成長も」、それから、「目標 12 : つくる責任つかう責任」、さらに「目標 14 : 海の豊かさを守ろう」の 3 つのゴールにおいて「観光」の役割が明記されたターゲットが設定されています。しかし、JNTO の指摘を待つまでもなく、観光はすべてのゴールに対して直接的あるいは間接的に貢献する力があり、重要な役割を担っていることは明らかです。

より明確にイメージできるように、JNTO は、例えば環境保全に配慮した取組について、さらに具体的な推奨例を挙げています：プラスチック使用の削減（ペットボトル等の使用削減・タンブラー等への代替、紙製／生分解性プラスチックのストローへの代替、マイバッグの持参促進）、紙の宣伝印刷物等の削減（デジタル・パンフレットやデジタル・アンケートへの代替）、環境に配慮したギブアウェイ（販売促進を狙った無料の配布物やグッズ）の作成（FSC 認証＝「適切な森林管理」認証＝の紙等の再生紙の使用、繰り返し使用できるギブアウェイの作成）、再利用可能な備品等の積極的な利用（デジタルサイネージや LED 照明器具の使用、ウォーターサーバーの活用）、イベントにおけるフードロスの削減、などです。

今回の JNTO の取組方針のもう一つの特徴がポストコロナを見据えた持続可能性です。前回、当研究所の「持続可能な観光 2019 年度」シンポジウムが滑り込みセーフで開催された 2020 年初

頭ごろから、瞬く間に新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延して人の移動が制限されたことで、観光業界は大きな打撃を受けました。

一方、私たち旅行者のほうも、コロナ禍を経て旅行に対する意識が変化しつつあるように思います。例えば、宿を選ぶにしても、どのような感染症対策が行われているのかを調べたり、宿が出す情報は真実かを口コミでチェックしたり、食事が個室か否か、万一感染した場合に、受け入れてくれる医療機関と連携体制が組まれているかなどを調べるようになりました。また、感染のリスクが低いアウトドアの活動、例えばハイキングやキャンプなどがブームとなっています。

こうした変化に伴い、交通機関や宿泊・観光施設等の旅行関係業界の業界団体が構成される「旅行連絡会」は、国土交通省・観光庁の協力を得て、従来の日本の文化・習慣などに関する情報発信活動に加え、日本を旅行する際に新型コロナウイルス感染拡大防止のために旅行者に求められる行動をまとめた「新しい旅のエチケット」（図1～図6）を多言語で海外に向けて発信し、外国人旅行者が責任ある旅行者として行動することを奨励しています。その具体的な行動の例には、例えば、ソーシャル・デスタンス確保の実施と混雑の回避、訪問地の文化や慣習、マナー等（例えばマスクの着用）の尊重などが挙げられています。みなさんも以下のポスター（旅行連絡会 2021）をごらんになったことがあるかもしれません。

かくして、本日のシンポジウム「持続可能な観光 2021 年度」のサブタイトルは、コロナ禍下における観光、およびポストコロナの持続可能な観光、ということになりました。本日は、学術交流協定校であるマレーシア科学大学と内モンゴル大学から、そして連携協定を結んでいる高山市と恵那市、さらに、本学人文学部教員2名のフィールドで古巣の稚内市から発表者をお迎えしております。研究所のプロジェクト・リーダーのみなさんによる活動報告や、学生たちが参加するポスターセッションと自由討論もありますので、どうか最後までよろしくお願い申し上げます。



図1. 「新しい旅のエチケット」
観光施設・ショッピング編



図2. 「新しい旅のエチケット」
旅の飲食編



図3. 「新しい旅のエチケット」
宿泊編



図4. 「新しい旅のエチケット」
交通編



図5 「新しい旅のエチケット」
全体版（日英語版）



図6. 「新しい旅のエチケット」
全体版（日英語版）

参考文献

- 日本政府観光局 (2021) 「SDGs への貢献と持続可能な観光（ステナブル・ツーリズム）の推進に係る取組方針」
https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/20210622.pdf
 旅行連絡会 (2021) 「旅程場面毎『新しい旅のエチケット』」(協力：国土交通省・観光庁)
https://www.jata-net.or.jp/virus/211122_tabietiquette.html

基調トーク：エスプリの効いた観光



細田 衛士 HOSODA, Eiji

中部大学副学長、経営情報学部長・教授、慶應義塾大学名誉教授、香蘭女学校理事・評議員など。専門分野は環境経済学。研究テーマは資源循環利用の経済分析。

ABSTRACT

In order to practice sustainable tourism, it is important to learn from past cases of failure. The "Comprehensive Recreation Area Development Law" (the so-called "Resort Law"), for example, lead to development without any fixed principle and resulted in destruction of the natural environment. Development that ignores the natural environment, history / tradition, society / culture, and local activities that are unique to the region does not bring about sustainable tourism. In this paper, we will consider how to bring about sustainable tourism with the two words of "regionality" and "esprit" as keywords.

1. 失敗から学ぶ

1987 年、政府は「総合保養地域整備法」いわゆる「リゾート法」を制定した。この法律の狙いは、リゾート産業の振興と発展を促すとともに、より多くの国民が余暇の時間を持ち生活を楽しむようにすることである。民間セクターを積極的に利用することで観光ビジネスを活性化し、リゾート施設を総合的に整備することも本法律の目的の 1 つである。確かに民間セクターの力を利用し、観光ビジネスが盛んになれば、国民も従来よりもいっそう余暇を楽しむことができるに違いない。

しかしながら、リゾート法は成功したとは言えない。無定見な開発によって自然環境が破壊された例は枚挙にいとまがない。この法律の下でなされた開発そのものが失敗だったともいわれている。地域に大きな資本が投下されることによって地域が潤うはずであったが、実際、そうはならなかったのである。その典型例は宮崎県のシーガイアの破綻であろう。同様の例は他にもある。開発予定企業の撤退などによる跡地の処分問題を残すだけ、というケースが相次いだ。

リゾート法によるものだけではなく、こうした資本投下による観光開発には 1 つの特長がある。観光ビジネスによる収益に重点を置いた観光開発は、往々にして地域固有の自然、歴史や伝統、地域社会と文化、地域の日々の営みなどを無視して行われる。そして金太郎あめの用なのっぺりとして地域性に欠けた観光施設が立ち並ぶことになる。確かに、短期的に地域が経済的に潤うこともあるが、長期的には持続可能ではない。

2. 観光のビジネス化

ただ、私はあらゆる観光のビジネス化を否定しているわけではないことを強調しておきたい。ビジネス化された観光すべてが悪いわけでもないし、非持続的であるということもない。事実、ビジネスによって持続可能な観光が実現されるケースも多く見られる。そもそも、観光によって地域経済が潤わないと持続可能な観光と言っても「絵に描いた餅」になってしまう。

問題は、地域の自然環境、地域の伝統と歴史や文化、地域の日々の生活の営みと経済をいかにバランスさせるかということである。リゾート法による開発は、こうしたバランスがほとんどと

られていなかったといえる。あまりにも「経済性」すなわち「利益」が優先されたためであると考えられる。地域性を大切にする「エスプリの効いた観光や旅」が地域経済社会を持続的なものにするのではないだろうか。

ここで、地域性を大切にしながらビジネスを取り入れた観光の例を1つ取り上げてみよう。それは小樽市の例である。

昭和 50 年代、小樽市は運河の埋め立て問題で議論が2分されていた。既に経済機能を失いかけている上、水質汚濁で悪臭を放っていた運河の埋め立て・道路建設案が市から提案されたのである。小樽の運河は町の情緒を映し出し、小樽市の象徴的な存在ではあったものの、当時の社会的雰囲気から言えば「開発」が有力な道筋であり、小樽市もその例から漏れなかったのである。運河をつぶしてその上にバイパスを通せば小樽市に一定の経済効果がもたらされる。当然市民の多くが運河の埋め立て、バイパスの建設に賛成した。

しかし一方、運河の利用に長く携わってきた人々、芸術家、小樽の文化と伝統をこよなく愛する市民たちが集まり、運河の埋め立てに対して反対運動を起こした。地域共同体の内部、知っている者同士のあいだで賛成・反対の議論が起きるのは決して好ましい状況ではなかったに違いない。議論は10数年に及んだという

結果から言うと、小樽市の運河の全面埋め立ては回避され、一部のみが埋め立てられた。そればかりではない。運河沿いの街並みを整備することによって観光スポットになったのである。運河沿いにはガス灯が備えられ、石造りの倉庫群はそのままレストランや土産物屋として使われている。

運河という小樽市の歴史遺産を捨て去ることなく、その元々の経済機能を変えることによって観光のビジネス化を成功させたのである。バイパスという一時の経済的誘惑ではなく、地域性とビジネスを両立させた観光を成功させたのである。言うまでもなく、この観光は十分持続的でもある。

3. 開発か保全か

観光とビジネスをめぐるのは「開発か保全か」という問いがすぐに浮かんでくる。確かに、リゾート法の例でも分かるように、往々にして私たちはよく開発と保全を二律背反のように考えてしまう。高度経済成長の時代には、人々はどちらかという物質的な豊かさにあこがれていたから、近代的な観光施設に囲まれた場所を選びがちであった。その場合、保全よりも開発ということになる。

しかしながら、現在の日本人の嗜好は高度経済成長期のそれとは大きく異なっている。内閣府の調査からもわかるように、既に1977年（昭和52年）には日本人はモノの豊かさよりも心の豊かさを求めるようになってきている。現在では、60%以上の人々が心の豊かさをもとめていて、モノの豊かさの方を志向するものは30%程度に過ぎない。そのような状況にあって、「開発か保全か」という二律背反的問によって観光とビジネスの関係を考えるのは時代遅れである。

加えて、「開発も保全も」というウインウインのやり方が十分実現可能であることが、小樽市例からも十分理解できるだろう。次の節でそのような例をいくつか出すが、現代の知恵を活かせば開発と保全のウインウインが実現可能なことは明らかであろう。その道を選び取るかどうかは私たちの精神的態度いかんによるのである。

しかしそうはいっても、現実には問題解決は容易ではない。小樽市の場合でもそうだが、街にはそこに住み、生活を営んでいる人がいる。物質的にも精神的にも豊かになりたいというのが人

間なのである。また人によって何を選び取るか大きく異なる。運河の雰囲気を楽しむ人もいれば、臭いから埋めて欲しいと思う人もいる。ましてそこにお金が絡んでくるとなると、問題は自然と紛糾することになる。小樽市の運河問題が 10 数年をかけて解決されたという事態を見てもよくわかる。

時代の変化とともに街にも変化があるのは当然のことである。好ましいものを残し、好ましくないものを捨ててゆくことができればよいのだが、それは難しい。今述べた通り、何が好ましく何が好ましくないが、それがそもそも人によって異なるからである。人によっては自然環境に重きを置きたろうし、人によっては経済的な面に重きをおく。それを民主主義的なプロセスで解決しなければならない。小樽市のような例は、持続可能な観光という面からも、それを決定した議論のプロセスの面から、高く評価されるべきである。

4. ザルツブルクの例

観光と開発を両立させ、持続可能を成功させた例を海外から選んでみよう。それは、私がとても好きな場所であるオーストリアのザルツブルクである。ザルツブルクと言えばザルツブルク音楽祭やモーツァルトの生家ということで有名な観光地である。私と同じ世代の人だと、ジュリー・アンドリュース主演の『サウンドオブミュージック』の場所として記憶していることだろう。

ザルツブルクは有名な観光地ではあるものの、当地の地域性、文化・伝統、市民生活を同時に大切にしている。地域に根付いた観光地なのである。古い家屋は、市の許可がないと修復さえできないという。市の中央を流れる川ザルツアッハ川に橋 1 つかけるにしても侃々諤々の議論の末ようやくできることになる。

一方でザルツブルクはビジネスのコンベンションセンターなどもあり、多くのビジネスコンファレンスの場所にもなっている。古い街並みを大切にしながらも新しいビジネスの流れに乗り遅れていない。旧市街にあるゲトライデガッセ（穀物通り）を歩くと、ザルツブルクの歴史と伝統・文化の匂いを存分に楽しむことができるが、一方新市街に行くと新しいビジネスの流れを感じ取ることができる、そんな街なのである。

また、郊外に行くと実に魅力的な自然環境が待ち受けている。例えば、ザルツカンマーグートに行くと、息をのむような美しい多くの湖があり、保養地として絶好の場所である。保養地としての賑わいは大変なものであるが、自然環境を大切にしている点は言を俟たない。ここでも、自然環境とビジネスがうまく両立しているのである。観光で地域経済が潤っていることも強調に値する。

5. 身近な観光

しかし私がここで述べたかったことは、もう 1 つ別のところにある。すなわち、身近な場所の観光である。普段何気なく見ているのだが、見過ごしているもので、持続的な観光の対象となるものがある。

それに気づくためにはエスプリが必要である。すなわち、何気ないものを面白がる、そして当意即妙にそれを表現する精神である。物質にこだわらず、精神性に喜びを見出す、そのような観光はそもそも持続的であるに違いない。そもそも物質にこだわらないからである。

例えば、飛騨高山にある国分寺、もちろん観光スポットの古刹であるが、私はそこに限りない心の安らぎを感じる。もちろんその三重塔は美しさにおいて群を抜いている。それだけではない、そこには日々生きる人々がいて、歴史と伝統の中に「何気なく」生きていることが感じられる。

それに加えて、この古刹の歴史を知ると、一層親しみを覚え、繰り返し訪れることになる。観光空間でありながら生活空間でもある。そのバランスが、単なる観光地とは異なる魅力を放っている。

もっと身近な場所を見てみよう。私は横浜市緑区長津田に住んでいるが、周囲をよく見てみると何気ない観光の場所があることがわかる。例えば、我が家のすぐそばにある庚申塚である。私もそうだったが、多くの住民が庚申塚を見ることもなく通り過ぎてゆく。しかし庚申塚が何であるが知っている人は少ない。道教に基づく土俗信仰であり、江戸時代から広まったということである。庚申塔ともいわれるが、気を付けてみると、地藏と同様色々なところを見つけることができる。土俗信仰とは無縁な生活を送っている私たちではあるが、エスプリを効かせてみると、当時の人々の生活のありようが心に浮かんでくる。

もう1つ、私の家の近くには大林寺という曹洞宗の寺がある。地元の人々にとってはもちろんよく知られているのだが、この寺の由緒について知るものは少ないのではないか。1570年の建立、当時の地元の有力者岡野家の菩提寺として創建された。江戸時代には旗本になった岡野家の菩提寺というのだから、地元にとって歴史的意義はとても大きいわけである。

もちろん、地元の人々の日々の営みとも深くつながっている。春には桜を楽しめる。夏には盆踊りやお祭りの場所として人々に親しまれている。大みそかには除夜の鐘、そしてお払いの場所として、新年には初詣の場所として、地元の人々にはなくてはならない場所である。つまり、歴史や伝統と地元の人々の日々の生活がつながっているのだ。

そこにエスプリが加わると、それは一段と輝きを増してくる。生活空間がそのまま観光空間になってくるのだ。そう考えただけでワクワク感が出てくる。大林寺だけではなく、そのような場所は他にも多くある。長津田周辺でいうと、王子神社、福泉寺、隋流院、などもそうである。その他、近くを流れる岩川にある「堰」のあとも水稻耕作の歴史と絡めてみると極めて興味深い。

6. おわりに

持続可能な観光の実現は、地域固有の自然環境、歴史・伝統、文化・社会、そして地域に生きる人々の生活の営みを抜きにして考えることができない。いくら大資本を投入しても、地域性を無視すると、リゾート法に基づいた観光開発がそうであったように、開発は非持続的になるのが落ちである。地域固有の自然環境や文化伝統、歴史を抜きにした開発のみがまかり通ってしまうのだ。生活空間の「匂い」も消し去られてしまう。

もとより、ビジネスと観光を両立させることは可能で、そのようなやり方でも持続的慣行は実現可能である。小樽市やザルツブルクの観光開発が示すように、地域の象徴的存在（この場合は運河や歴史的史跡）を大切に作り上げた街並みは、長期的には人を引き付けることになる。

しかしそれよりもなによりも、身の回りにある場所や建築物を観光の対象として捉えると、それは限りなく持続的な観光になる。日常に織り込まれた観光になるからである。だが、それを観光たらしめるにはエスプリが必要である。ものではなく心、あるいは精神性を重視した周囲への注目、これが身近な観光になるのではないだろうか。改めて自分の周りにあるものをエスプリをもって見直すことが必要である。

Case Reports

海外の学術交流協定校の所在地や中部大学と関連の深い自治体における
コロナ禍下での観光状況の報告

The development dilemma and countermeasures of COVID-19's tourism industry in Inner Mongolia



WURIHAN ウリハン

BSc in Physics, Inner Mongolia Normal University; MSc in Physics and Business Management, University of Leeds; Part time lecture of Inner Mongolia University. CBO of Inner Mongolia Zhongxin Zhilian Engineering Project Management Co. Ltd.

ABSTRACT

Tourism is an environment-sensitive and vulnerable to domestic and foreign events, which may lead to downturn and crisis. Compared with other dangerous events, the outbreak of infectious diseases poses the most widespread threat to the industry [1]. COVID-19 has brought a great impact on China's tourism economy, witnessing substantial decline. Now the epidemic has been put under control. What confronting most tourism enterprises is how to resume the tourism industry and what approaches to be adopted. This report gives a discussion on development of tourism and marketing creativity of tourism in the post epidemic era based on available public reports. Some references for the recovery of tourism in Inner Mongolia are also offered.

China adopts a dynamic zero-COVID policy rather than reduce infection to zero in the era when epidemic becomes a new normal. Liang Wannian, head of the COVID-19 response expert group of China's National Health Commission (NHC), said that the policy aims to prevent virus from spreading to communities and to identify and treat patients in a timely manner [2]. In the early stage of the outbreak, China put forward the initiative of "not getting out unless it's necessary", under which the traffic was suspended for a time, and some industries were seriously impacted [3].



Figure 1. Map of Inner Mongolia

Source: Journal of my 2013 China Expedition Part VIII (Inner Mongolia)

With a population of 2.4 million, Inner Mongolia has a large area which stretched across the northern edge of China. Situated in the northern part of China, Inner Mongolia has itself connected to the rest regions of China with highways, high-speed railways, and airlines until the pandemic led to close down of airlines. Since the COVID-19 broke out, it registered 1,191 confirmed cases. Most of the

confirmed cases were found in Hulun Buir League, Alxa League, and Xilingol League. The state immigration administration also required the border ports to strengthen the management of overseas flights and charter flights. The policy of no boarding and no staying is implemented for overseas ships. Trucks shall take designated routes to cross the borders. Non coronal mode shall be adopted to prevent the transmission of the virus through imported goods or related personnel [4]. China has started promoting COVID-19 vaccination among

children aged between 3 and 11. Immunologists working on vaccine R&D have assured that the vaccines proved to be safe among the population of this age.

Since the beginning of 2021, the tourism industry in Inner Mongolia has gradually resumed its growth with increased tourists and tourism income. From January to June, the region received 40.437 million domestic tourists, returning to 61.12% of the same period before the epidemic with an increase by 4.5 percentage over the first quarter; the domestic tourism revenue reached RMB 59.702 billion, returning to 41.68% of the income level in the same period before the epidemic with an increase by 2.3 percentage over the first quarter. However, due to the COVID-19 and the lack of innovative tourism products, there are many urgent problems confronting Inner Mongolia's tourism industry.

1. Characteristics of tourists and scenic spots (from January to June 2021)

(1) Self-driving travel has become the first choice

Self-driving tourists accounted for 56.2% of domestic tourists in the region, which was 16.4 percentage higher than the same period last year and 12.2 percentage higher than that from January to March.

(2) Most tourists choose to travel independently with families or relatives

34.726 million tourists, accounting for 85.9%, chose to travel together with individuals, families, or friends. The number of trips organized by units (arrangements) reached 5.237 million, accounting for 13.0%.

(3) The occupational composition of tourists is diversified

There is diversified occupation distribution of tourists received in the whole district. The tourists from enterprises and institutions account for 23.0%; professional and technical tourists accounted for 12.0%.

(4) Weibo and WeChat have become important information channels for tourists

There are 14.24 million tourists, accounting for 35.2%, learned about Inner Mongolia's tourism resources through social media such as Weibo and WeChat. 1.239 million tourists learned it from through friends and relatives, accounting for 30.6%; 10,303,000 tourists learned it from advertisement, accounting for 25.5%.

2. Major problems

(I) Continuous decline of tourist consumption

In 2019, domestic tourists spent RMB 2,359.9 per person; In 2020, the number was RMB 1924.1; from January to June of 2021, the average spending of domestic tourists in the region was RMB 1,476.6 per person, and the spending of tourists demonstrated a continuous decline.

(2) Declined outside tourist sources

Due to lack of innovative marketing and new tourism products etc., the outside tourists of Inner Mongolia are declining. For instance, from January to June 2020, outside tourists in Inner Mongolia accounted for 42.6%; in 2020, the outside tourists accounted for 41.5%.

(3) Serious homogeneity and fierce competition in the tourism market

In recent years, in despite of rapid development of tourism in Inner Mongolia, there is a serious problem of homogeneity, which is mainly reflected in single identical project, purchase of products without originality, grave shortage of "entertainment" project and intense mutual competition. For instance, in 2020, the district attractions were 4.1 times that of 2010 over the same period, while the district tourism revenue was 3.3 times that of 2010 3.3. The growth rate of tourist attractions was higher than that of tourism revenue.

3. Countermeasures and Suggestions

(1) Regional travel as an alternative form of tourism

In view of the long duration of COVID-19, the United Nations World Tourism Organization has issued global guidance on reopening and restoring tourism in a safe manner. As to restoration of tourism, researchers believe that regional tourism, health tourism, and rural tourism may become new models of tourism. The geographical advantages of Inner Mongolia can give full play to this. Moreover, Inner Mongolia has vast grasslands which is favorable for rural tourism and homestays.

(2) Further exploration of boutique tourism with distinctive characteristics

At present, the Inner Mongolia tourism is mining grassland culture and promoting grassland and desert view spots [5]. A breakthrough is expected from the grassland to the desert due to insufficiency. Pictures in contrast with local ethnic cultures should be explored. It is believed that the grassland food culture, fashion and characteristic construction can be skillfully fused into tourism consumption. The local traditional famous food was packed to provide tourists with clean, healthy and original Mongolian food culture.

(3) Enhancement of marketing innovation in Inner Mongolia tourism

With the "Belt and Road" initiative, the cooperation with well-known scenic spots and travel agencies at home and abroad has been strengthened to promote the popularity and reputation of Inner Mongolia in the tourism industry; furthermore, the favorable opportunity of western development should be seized to plan and hold online tourism exchange meeting and invite well-known painters, writers, photographers, influencers to Inner Mongolia, thus promoting the tourism in Inner Mongolia. The model of "influencer + short video + live

streaming" should be adopted to promote the characteristic tourism resources of Inner Mongolia.

After the epidemic, sustainable tourism in Inner Mongolia is suggested to create a more relaxed atmosphere, strengthen tourism publicity, and attract regional tourists who like to relieve pressure and maintain mental health. Due to the short travel distance, tourists can use the time saved during the trip to integrate into the local life and carry out in-depth leisure travel. So as to gradually attract external tourists according to the situation of the epidemic, tourism products can be promoted through the current popular way of live streaming.

Reference

- [1] Tang, Z. (2020) 'COVID-19: 'Crisis and Opportunity for China's Tourism Industry' ,31 March. Available at: <https://www.ceibs.edu/new-papers-columns/covid-19-crisis-and-opportunity-china%E2%80%99s-tourism-industry> (Accessed: 31 March 2019)
- [2] China's Dynamic Zero-Case Policy Proves Effective in Preventing Viral Transmission in Communities: NHC Expert (2021). *Global Times*. Available at: <https://www.globaltimes.cn/page/202111/1238888.shtml> (Accessed: 14 November 2021)
- [3] Yu Q. 俞群慧. (2021) '后疫情时代文化旅游营销创意研' . *Tourism Today*, Volume (19), p. 62
- [4] China Strengthens Border Management to Prevent Imported Cases Amid Recent Flare-Ups. *Global Times*. Available at: <https://www.globaltimes.cn/page/202111/1238105.shtml> (Accessed: 04 November 2021)
- [5] Admin. (2014). 'Journal of my 2013 China Expedition Part VIII (Inner Mongolia) ', 30th July, Available at: <http://www.travelcities.net/category/china/china-expedition-part-viii-inner-mongolia/> (Accessed: 30 July 2014)

Sustaining Tourism in the post COVID-19: the case of Malaysia



Badaruddin, Mohamed バダルッディン モハメッド

Dr. Badaruddin Mohamed is a professor in Tourism Planning and Development at the School of Housing, Building & Planning, Universiti Sains Malaysia (USM). He is also the founder of Sustainable Tourism Research Cluster (STRC) at the university. He obtained his Bachelor degree from University of Northern Iowa, majoring in Environmental Planning. He later completed his Masters and PhD at Rikkyo University, Tokyo in the field of Tourism Planning & Development. He is a visiting professor to Rikkyo University (Tokyo), Maejo University (Chiang Mai), and National Institute of Development Administration (Bangkok), as well as to the Management Science University (Malaysia). He was the former President of Tourism Educators Association of Malaysia (TEAM) and had led many researches, including as the program leader for two long term researches focusing on Sustainable Tourism, urban planning and also Local Knowledge. He has involved in many consultancies for international, state and federal projects. His latest projects include the Tourism Master Plan for the state of Penang and the Johor Malay Civilization Hub Master Plan.

ABSTRACT

Early 2020 marked the dramatic changes in the tourism sector as a result of the spread of the COVID-19. Tourism was the first sector to be badly affected and the World Tourism Organization projects that this sector will only be fully recovered by the 2025. The impacts have been phenomenal and unprecedented. Industries within tourism have been severely impacted due lockdowns and the ban on cross border travels as well as interstate movements. Most news focus on the closure of hotels and resorts, airlines going red, travel agencies had to close down, loss in jobs among tourism related works and businesses, and others. The COVID -19 had brought about many challenges to the Malaysian tourism landscape, but at the same time has also presented a window of opportunities for paradigm change on the way we manage tourism. The way people travel has been changed which will affect the way host destinations position themselves to ensure sustainable tourism in the future. This paper presents how Malaysia manages the impacts of the pandemic, and strategizes its way to navigate the challenges to revitalise and eventually sustain its tourism sector.

Up until the end of 2019, tourism was the second most important sector the Malaysian economy after manufacturing. The number of tourists arriving in Malaysia grew from a modest 13 thousand visitors in 1959, to more than 30 million by the end of 2019, bringing income of 100-billion-ringgit Malaysia to the national economy. The Malaysian tourism sector grew leap and bound after the success of Visit Malaysia Year 1990 and 1994 campaigns, that positioned the country among world's top destinations. Malaysia was preparing to launch another Visit Malaysia Year 2020 when the world was alarmed by the spread of COVID -19 in early 2020.

COVID-19 has been an unprecedented and the impacts have been farfetched globally. Tourism is said to be one of the most affected sectors and the pandemic has resulted in \$2.0 trillion loss in revenue in 2021 (AFP, 2021). The recovery was supposed to be swift or first but the arrivals of variants after variants have caused World Tourism Organization (WTO) to predict that full recovery of tourism will only can be realized by 2025.

Malaysia, like most countries across the globe, was brought into a standstill when it closed down the whole country and its international borders to most flights (Foo, et.al. 2021). The Malaysia's Ministry of Tourism, Arts and Culture, reported a loss of 90% of its international

visitors and also income. Today, Malaysia is slowly recovering from impacts of COVID-19, and starts to accept the fact that perhaps we have to live with COVID-19. Taking cue from the development of surrounding south east Asian countries like Thailand, Vietnam and Indonesia, Malaysia had started to evaluate our readiness to welcome international tourists again anytime soon. This announcement was made amid the growth in the COVID-19 numbers, spurred by the spread of the new variants- Omicron.

All these whiles, Malaysia has been taking a very cautious approach in its efforts to revive tourism. In the early phase of the pandemic, it had thrown the proposal to introduce green bubbles between the country and selected Asian countries with low COVID counts, such as Singapore and Brunei. This proposal, however, did not materialize as different countries have different level of standard operating procedures (SOP) as well quarantine regulations. The acceptance of vaccination certification differs from country to country. The case where thirteen Malaysians stranded at Manila airport when their COVID-19 vaccination certification was not accepted illustrates that ASEAN has a long way to go in term of working as one (The Sun Daily, 2022).

The Malaysian tourism sector will be more challenging than ever. It can be expected that traveling groups will be smaller than before. People will prefer solo or duo travels again compared to group travels. Due to heightened awareness on hygiene and health issues, we can expect that golden age tourists will refrain themselves from traveling for the time being. Mass destinations, such as popular sites like the Cameron Highlands and major cities like Penang and Kuala Lumpur are the targets before they start venturing into remote territories. Since the outbreak of the pandemic, the Malaysian government has taken back the leadership of tourism with policy intervention, financial support and guidelines. Supports from the financial institutions have managed to soften the impacts of the COVID-19 on the general public by giving out moratorium and also soft loans.

What have we learnt from COVID-19 in term of tourism? By the end of 2019, destinations across the globe were coping with the detrimental impacts of over tourism. Phuket, Bali, or even the hill resort of Cameron Highlands in Malaysia, had started to feel the ill impacts of tourism, such as pollution, congestions, and over development. While in George Town (Penang), the local NGOs were complaining against the takeover of many old shophouses by foreigners, which resulted in the outflow of the local population from the UNESCO's world heritage inner-city (Petace, 2021). Over dependent on tourism can be a bane to the economy as those destinations heavily dependent on tourism suffer the most during the spread of the virus. This calls for more diversification in the local economy. The island of Langkawi, a baby island of the former Prime Minister Mahathir Mohamad, which has been strongly depending on tourism as its main economic sector, has announced its intention to expand its economic base to education as well as agriculture (LADA, 2021).

COVID-19 also taught us to appreciate the value of domestic tourists. The sustainability of any tourism lies on a vibrant domestic tourism, as proven in countries like China, Indonesia, Japan, Korea, Spain, and the United States. Malaysia often overlooks at its own traveling

citizens, and focuses more the arrivals of the international tourists. The local tourists, however, are the savior of many tourist fronts as they become the sole consumers of the products offered. They must therefore not to be treated like second class tourists but must be accorded with the same level of hospitality as their international counterparts. The notions of carrying capacity or limit of acceptable change have been put forward by WTO when introducing the concept of sustainable tourism. These notions, however, had been literally ignored by many destinations in the world and also in Malaysia, leading to the various detrimental impacts on the environment and also on local communities. COVID-19 has brought us back to the fundamental of carrying capacity when destinations are now advised to set the number of visitors that can visit the places as well as to observe social distancing.

The first phase in opening up the tourism sector in Malaysia is to induce confidence among travelers. This is done by communicating to the market that everything is in order and the destinations are safe and adhere to the strict safety measures. Before the state borders were opened, the Malaysian tourism industry tried to lure travels among the local communities in the form of local tourism. Many hotels offered discounted rates for mid and long term stays for those tired of working from home due to the lock downs. During this phase, many local residents took the opportunity to enjoy discounted local attractions, those were not accessible during the hay day of tourism.

Technology know-how and innovations are important for sustainability. Even before the spread of COVID-19, tourism entrepreneurs must equip themselves to knowledge in technology to stay competitive. For example, small hotels that jumped on booking platforms like Agoda, hotels.com, and Trip.com enjoyed better business than those depending upon walk in customers or booking via phone calls.

Tourism entrepreneurs must also constantly innovate to remain unique and attractive. As 90% of the domestic visitors are repeat visitors, destinations must keep on improving their services and to introduce new things in order to attract loyalty. COVID-19 has somewhat changed the tourists' behavior and market segments. Safety, cleanliness and health indicators have become part of travel indicators. To ensure sustainability and revival of tourism, all major stakeholders must play their roles. The government has been playing its steering role. The tourism businesses must join in forces to establish a stronger fundamental to deliver better quality products. The tourists must be more responsible, and encouraged to spend on value for money products, while the local communities must learn to smile again, to genuinely welcome back the visitors, regardless whether they are domestic or international.

In conclusion, a vibrant tourism ecosystem is crucial to ensure sustainability. COVID-19 has proven that tourism is indeed a fragile sector, the first to be affected and perhaps, the last to recover. It calls upon us to revisit on what we had done wrong in developing our tourism sector – from its infrastructure, the products and the way we deliver our products. We also realize that some industries within this sector is more resilient compared to others. The food industry (except the F&B section in hotels) for example, took the hit well and somewhat survive. It also clearly shows that big brands, like the Starbuck and McDonalds, that have

built in resiliency against calamities are more adaptable than the rest. Finally, COVID-19 is a call for us to correct things and to tilt the balance toward equilibrium among the environment, culture and economy- that the costs and benefits of tourism should be shared equally.

Reference

- AFP. "Pandemic to cost global tourism 2.0 trillion in 2021." November,29, 2021. <https://www.france24.com/en/live-news/20211129-pandemic-to-cost-global-tourism-2-0-trillion-in-2021-un>.
- LADA. "Development and Implementation of Langkawi Economic Recovery Action Plan." Oct., 5. 2021. <https://www.lada.gov.my/en/development-and-implementation-of-langkawi-economic-recovery-action-plan-ptpel/>
- Lee-Peng Foo, Mui-Yin Chin, Kim-Leng Tan & Kit-Teng Phuah (2021) The impact of COVID-19 on tourism industry in Malaysia, *Current Issues in Tourism*, 24:19, 2735-2739, DOI: 10.1080/13683500.2020.1777951.
- Petace. Penang Tourism Master Plan 2021-2023. George Town. Petace, 2021.
- The Sun Daily. "Report: M'sians Stranded in Manila, Digital Certs Not Recognised." February, 13, 2022. <https://www.thesundaily.my/home/report-m-sians-stranded-in-manila-digital-certs-not-recognised-BJ8856333>.

恵那市の伝統芸能を取り巻く現状と課題



吉村 新悟 YOSHIMURA, Shingo

恵那市教育委員会事務局生涯学習課文化振興係長

恵那市職員。平成4（1992）年に旧岩村町職員として採用。平成16（2004）年の市町村合併により恵那市職員となる。事務職員として主に公共用地の取得や施設建設、幼児教育などを担当し、現在の生涯学習課に配属。教育委員会事務局は8年目、うち生涯学習課文化振興係は4年目で、係長として、伝統芸能の保存継承、芸術文化の振興、先人顕彰事業などを担当する。

ABSTRACT

Due to the COVID-19 pandemic, the number of tourist visitors to Ena City, which was 4.09 million in 2018, dropped to 3.07 million in 2020, seriously affecting the tourism industry. The local Kabuki preservation societies, the practitioners of one of the most important tourism resources, were no exception, since most of the regular performance events were canceled or postponed. To relieve this situation, the two historic playhouses utilized city subsidies to refurbish stage equipment and prepared for post-pandemic events. Gifu Prefecture, also in anticipation of tourism in the post-COVID-19 era, released a museum website that archives information on traditional performing arts in the region. In addition, Gifu Prefecture produced a series of Local Kabuki Group Performances in infection-controlled environment in 2021, sometimes without audience, so that 27 groups of the local Kabuki preservation society in the prefecture were able to perform onstage. The performances were filmed and sent to the whole world via YouTube. As a result, the momentum for revitalizing the local Kabuki tradition has increased, and movements that will lead to the reinvigation of the region have begun to appear.

1. はじめに

恵那市は岐阜県の南東部に位置し、愛知県、長野県に隣接する。人口は48,297人（令和4（2022）年2月1日現在）、面積は504.24平方キロメートルで、その76.6%を山林が占める。市内には木曽川や矢作川など、多くの河川が流れ、自然豊かな地域である。生活圏である名古屋市都心からは約60kmである。

恵那市の観光資源は「自然、歴史、文化、食」と大きく4つに分けられ、歴史文化の学びや、四季折々に表情を変える風景、また旬な食べ物を求めて全国各地から観光客が訪れる。主要な観光地は、日本百名城の一つ岩村城跡（図1）、重要伝統的建造物群保存地区の岩村町本通り、国内初の発電用ダムとして造られた大井ダムによる人造湖の恵那峡（図2）、蚕糸を地場産業としていたころの町並みを保存した日本大正村などがある。



図1. 岩村城跡



図2. 恵那峡

当市は昭和・平成の合併前の旧町村を単位とする13の地域自治区によって地域づくりを進めている。観光についても、賑わいと活力があり、愛着と誇りの持てる個性豊かで魅力的な観光交流都市を実現するため、平成19（2007）年に『恵那市観光まちづくり指針』（恵那市2007）を

策定し、令和2（2020）年2月には『恵那市観光ビジョン』を策定し、13地域の資源を活かした多様性・多面性のある観光地づくりを推進し、稼ぐことができる持続可能な観光地を目指してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により平成30（2018）年度に409万人あった観光入込客数は、令和2（2020）年度には307万人に落ち込み、宿泊施設や飲食店などの観光業界は深刻な状況が続いている。

今回、恵那市教育委員会生涯学習課が受け持つ伝統芸能を新たな観光資源として活用するための取り組みについて紹介する。

2. 新たな観光資源を目指す伝統芸能の現状

恵那地方の地芝居が盛んになったのは江戸時代も終わりに近づいた文化・文政年間（1804年～1830年）で、中山道大井宿には、旅芸人一座が往来するなど、諸芸能に触れる機会も多く、娯楽として地芝居が盛んであった。地元にも地歌舞伎の振付師や浄瑠璃を語る太夫、三味線弾きが誕生し、その後神社の拝殿を舞台形式に建て直すなど地芝居が根付いてきた。江戸時代末期から明治にかけて、各地域の神社の拝殿を使用したり、舞台構えの芝居小屋が造られたりするなど、各地で地芝居が盛んに上演されるようになってきた。その後は村民の集会場・公会堂設置の動きの中で舞台の増改築という形がとられてきた（恵那市1989、1993）。現在は舞台形式の拝殿・籠殿は改修された形跡が残るものの、飯地町の五毛座（図3）（昭和26年建築）と三郷町の宮盛座（昭和28年建築）を残すのみとなった。

市内の伝統芸能には地歌舞伎（図4）、獅子芝居、文楽などが保存会として活動し、その中には県重要無形民俗文化財、市無形民俗文化財として受け継がれている芸能もある。毎年2月に恵那市伝統芸能大会を開催し、市内の芸能を披露している（令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止）。他にも市内13地域それぞれの文化祭や発表会が行われ、多くの市民が参加し交流を深めている。



図3. 五毛座



図4. 地歌舞伎

地歌舞伎団体は岐阜県内に32（休会中の団体含む）あり、その多くが東濃地方に集中し、恵那市内には9団体97名が活動している。

3. 恵那市の伝統芸能の課題

恵那市の伝統芸能の課題として、下記3点がある。

- ① 伝統芸能を含む文化活動全般で継承者が高齢化している。
- ② 後継者が不足し、伝統芸能が途絶の危機に面している。
- ③ コロナ禍による発表の中止、活動の制限。

活動するすべての団体に共通する課題であり、市内の地歌舞伎保存会の中でも、休止や保存会同士が協力して上演するなど、会員の高齢化と後継者不足は深刻な問題である。さらに新型コロ

ナウイルス感染症拡大防止のため発表会が中止され、集まつの稽古もできないことから、少し気力も失われているように感じられる。このまま地域の宝である伝統芸能が衰退しないよう、行政と市民、また様々な団体が協同・連携しながら、恵那の伝統文化の保存継承と地域コミュニティの活性化について施策を考える必要がある。

4. 恵那市の施策

平成 28（2016）年に、恵那市総合計画の教育分野におけるマスタープランである『ふるさと・ひとそだて恵那プラン』が策定され、令和 3（2021）年度より後期計画が始まっている（恵那市 2021）。これは【恵那市教育大綱】、【教育振興基本計画】であり、「ふるさとを愛し、学び続ける人を育てる恵那の教育」を基本理念に、幼児教育から学校教育へと 12 年間を途切れなく「主体性、社会性、郷土愛」の育成を図る。このプランの基本目標の一つとして「ふるさとを愛し、誇りに思う心を育む」を掲げ、伝統文化・芸術の伝承により、生まれ育ったふるさとを愛し、誇りに思う心を育む教育を推進している。

伝統芸能に携わる方の裾野を広げ、さらなる後継者の育成を図るための具体的な取り組みを紹介する。

各伝統芸能保存会の会員が、学校のクラブ活動や郷土文化の学習の講師として、児童、生徒に伝統文化を教え、体験する機会を与えている。指導にあたる保存会会員も代々受け継がれてきた芸能を、この先も途切れることなく、次代へ受け継いでくれることを切に願っている。指導者として、恵那市山岡町出身の大歌舞伎俳優、中村いてう氏の存在が大きい。同氏は幼少から祖父で地歌舞伎振付師の故六代目松本団升氏（岐阜県重要無形文化財保持者）などから地歌舞伎を学び、平成 12（2000）年に国立劇場 15 期歌舞伎俳優研修を終了後、平成 13（2001）年に五代目中村勘九郎（十八代目中村勘三郎）に入門した。令和 2（2020）年には恵那観光大使に就任している。いてう氏の協力により、子どもたちを対象に歌舞伎体験講座や学校のクラブ活動での直接指導や、ビデオ・WEB 会議アプリケーションを活用した意見交換会を行った。子どもたちが、大歌舞伎で活躍する先輩の姿に刺激を受け、引き続き地歌舞伎を学び、継承していくことを心から期待したい。

先に紹介した地芝居小屋の五毛座と宮盛座は、花道を備えた舞台や、客席の平土間や棧敷席を設け、公民館機能を兼ねた地芝居小屋である。五毛座については平成 22（2010）年 1 月 15 日に国の登録有形文化財に登録されている。この地芝居小屋はそれぞれの地域で管理しているが、地芝居等が演じられる機会は非常に少ない状況である。行政としての歴史的価値のある 2 棟の地芝居小屋を適切に保存・活用できるよう、地域の代表者や地歌舞伎保存会と協議を行い、令和 2（2020）年に新たな補助事業として、地芝居小屋を活用した観光客誘致と地域の活性化を目的とした事業に対し、事業費の一部を支援することとした。令和 2（2020）年度には、芝居小屋を所有する 2 つの地域が補助金を活用して、舞台の幕や、照明・音響器具を新調し、新型コロナウイルス感染症収束後の地芝居小屋でのイベント開催を見据えた準備を行った。これにより地域の芝居小屋活性化に向けた機運も高まり、あわせて地域の活性化にも繋がる動きが出始めている。

今後も行政としても、芝居小屋を PRするとともに、施設を活用できるような仕組みを市民と共に考えていきたい。

5. 岐阜県、中部大学との連携と支援

(1) 岐阜県からの支援

岐阜県は、県内の伝統芸能の情報をまとめたウェブサイト「地芝居大国ぎふWEBミュージアム」(<https://jishibai.pref.gifu.lg.jp>)を令和2(2020)年度に製作・公開した。県内の自治体と伝統芸能保存会が県へ情報提供し、上演した地芝居等の動画や、各保存会が所有する道具・衣装、芝居小屋等の情報をアーカイブスとして紹介している。

また、令和2(2020)年1月～令和3(2021)年11月にかけて「清流の国ぎふ2020 地歌舞伎勢揃い公演」がコロナウイルスの蔓延により日程の変更や延期をしながらも行われ、県内の地歌舞伎保存会27団体が出演し、披露の場を得ることができた。公演では芝居の内容を解説するイヤホンガイドを採用し、初心者にも分かりやすくするなど地歌舞伎の裾野を広げる活動をしている。また、コロナ禍により無観客開催となることもあったが、公演の様子はYouTubeにより全国、全世界へと発信された。この他にも、県内で活動する伝統芸能の各協議会が行う公演会や後継者育成などの活動に対しても、きめ細やかな支援をしている。

(2) 中部大学との連携

令和2(2020)年1月29日に恵那市は中部大学と包括的な連携協定を結んだ。これに基づき、中部大学は「東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト」により国際人間学研究所の柳谷啓子所長、人文学部日本語日本文化学科の永田典子教授、嘉原優子教授、地域連携センター国際・地域推進部地域連携課の簗島智子課長を中心に、市内の歌舞伎小屋や歌舞伎保存会の調査研究として、過去のVHSテープに記録された映像のデジタル化や、内容分析を行った。また中部大学放送部の撮影協力により、市立三郷小学校の歌舞伎クラブの活動や、大歌舞伎俳優中村いてう氏の歌舞伎体験講座の記録保存ができた。今回の連携により中部大学の皆様の視点から、地歌舞伎の資料調査・研究、データ保存が行われ、後世に残る貴重な資料となった。

6. おわりに

伝統芸能は人と人とのつながりにより生まれ、それぞれの地域にしっかりと根付いてきた。地域の伝統文化に誇りをもちつつも、時代や社会の変化、また観光客などのニーズにも応えながら柔軟に対応しながら継続する必要がある。

現在では人口減少、高齢化により活動の継続が困難になりつつある。後継者育成には、引き続き子供たちが学び、体験する活動を進めるとともに、SNSなどを活用して地芝居の魅力を発信して、新たなファンを獲得しなければならない。また拠点となる地芝居小屋の保存・活用を伝統芸能保存会だけでなく、地域、利用者が一体となって考えることで新たな方策が生まれると考えられる。恵那市の伝統芸能を楽しみに、多くの方が訪れるようになれば、伝統芸能保存会、地域の活力にもなり、後継者の育成そして伝統芸能の保存継承へとつながる。今後のアフターコロナ、ウィズコロナの活動も踏まえ、恵那市の伝統芸能が、新たな観光資源の一つとなるよう、皆様と共に考えて行動に移していきたい。

主要参考文献

恵那市(1989)『恵那市史(通史編)第二巻』
恵那市(1993)『恵那市史(通史編)第三巻(一)下 近現代』
恵那市(2007)『恵那市観光まちづくり指針』
恵那市(2016)『ふるさと・ひとそだて 恵那プラン』
恵那市(2020)『恵那市観光ビジョン』
岐阜県『地芝居大国ぎふWEBミュージアム』最終更新日不明 閲覧日 2022年3月3日 <https://jishibai.pref.gifu.lg.jp>

高山市におけるコロナ禍の影響とポストコロナの持続可能な観光



永田 友和 NAGATA, Tomokazu

高山市飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長

平成 8（1996）年高山市役所入庁。平成 27（2015）年に観光庁派遣、平成 29（2017）年に日本貿易振興機構派遣後、平成 31（2019）年商工観光部商工課商工係長。令和 3（2021）年 4 月より現職。

海外戦略課は、インバウンドの促進、海外販路の開拓、多様な国際交流の促進の 3 つを柱とした活動を行っている。

ABSTRACT

Within Takayama, a flourishing hub of the tourism industry, COVID-19 has greatly impacted the city's economy with local businesses struggling amidst harsh financial conditions. In addition to introducing past as well as present issues and initiatives involving Takayama, this report will also cover the challenges which the city must tackle in the wake of COVID-19 as well as the necessary measures to be implemented.

1. 高山市の概要

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、大野郡白川村、長野県、富山県、福井県、石川県に囲まれている。平成 17（2005）年の市町村合併により、高山市は、東西に約 81km、南北に約 55km となり、面積は 2,177.61 k m² の日本一広い市となった。面積の約 92.1% は森林で占められ、山や川、溪谷、峠などで地理的に分断され、標高差も 2,000m を超えるなど、地形的に大きな変化に富んでいる。

市の人口は、市町村合併当時、96,000 人を超えていたものの、令和 3（2021）年 4 月 1 日現在、85,000 人台にまで落ち込んでおり、65 歳以上の高齢者の割合が約 40% となるなど、高齢化が進んでいる。

観光産業が盛んであり、古い町並や春と秋に行われる高山祭などの歴史的文化資源のほか、豊かな自然や温泉資源、飛騨牛や日本酒などの食文化、飛騨春慶や一位一刀彫をはじめとする伝統工芸や匠の技が生きる飛騨の家具、四季ごとに開催されるイベントなど、多彩な魅力に惹かれ、多くの観光客が訪れている。



図 1. 古い街並

2. 高山市の新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症の拡大以前においては、高山市を訪れる観光客は、平成 31（2019）年に 470 万人を超えていたものの、令和 2（2020）年には、230 万人、令和 3（2021）年には、200 万人を割り込んでおり、観光関連産業を中心に、市内経済へ大きな損失を与えている。特に外国人観光客の減少が著しい。平成 31（2019）年に 61 万人を超える宿泊数を記録していたものの、令和 2（2020）年には 10 万泊、令和 3（2021）年には 3 千人弱にまで数字を落としている。

また、コロナ禍以前、人手不足が深刻であったが、有効求人倍率は平成 31（2019）年の 1.66 倍から令和 2（2020）年の 1.1 倍と下げている。特に観光業に深く関連する「調理」関係の業種は、コロナ禍以前は 2 倍を超えていたが、現在は 1.06 倍にまで下がっている。

3. コロナ禍以前までの観光施策とその課題・対応について

コロナ禍以前までの高山市の主な取り組みについて紹介する。高山市では、平成 8（1996）年から平成 23（2011）年にかけてモニターツアーを実施することで、障がいを持たれた方や外国人から生の声を聞き、行ける場所を探すのではなく、行きたい場所へ行ける観光地を目指し、まちづくりに活かしてきた。

また、官民連携による活動も高山市の特徴であり、飛騨高山観光客誘致推進協議会による JR 駅での誘客活動や新宿駅南口地下にある京王モールにある中部地方インフォメーションプラザ in 京王新宿に出展し、PR を行っている。世界最大級の旅の祭典であるツーリズム EXPO ジャパンへの出展や百貨店における物産展（飛騨高山展）での地場製品の販売とあわせた観光ブースを設置し、PR を行っている。

飛騨地域一体を PR するため、岐阜県、高山市、飛騨市、下呂市、白川村で構成する飛騨地域観光協議会による活動を行っているほか、長期滞在が主となり、様々な都市を訪れる外国人観光客を主なターゲットとして、複数の都市で連携し魅力あふれるルートを PR する広域連携も、北陸・飛騨・信州 3 つ星街道観光協議会や杉原千畝推進ルート推進協議会などを構成し、活動している。

四季を通じた各種観光イベントを開催している。市の中心部を流れる宮川で、赤い中橋のライトアップや、起伏に富んだコースを最長 100km 走破する飛騨高山ウルトラマラソンなど、魅力的なイベントを開催している。

高山市では中長期的な総合計画を策定しており、現在は、平成 26（2014）年から令和 5（2023）年までを対象とする第八次総合計画の後期にあたる。平成 31（2019）年に見直しを行い、観光に関連する重点的事業として、次のとおり位置付けている。

① 教育旅行に係る調査の実施

旅行者を対象とした調査により、若年層の高山の認知度が他の年齢層よりも低いという結果出ている。教育旅行の誘致は、将来のリピーター獲得や移住につながる取り組みとして期待されることから、学校や旅行会社を対象に、教育旅行に関する調査を実施した。

② サイクルツーリズムの推進

観光客が古い町並及びその周辺に集中する傾向があることから、支所地域（市中心部の周辺地域）への誘客と周遊性向上を狙い、サイクルツーリズムの推進を図る。

③ 飛騨民俗村再整備事業

飛騨民俗村（飛騨の里）の入込は平成 30（2018）年に 154,000 人であり、最盛期の 1/5 となっている。開設から 45 年が経ち、施設の老朽化がすすんでいることから、再整備が必要となっている。平成 31（2019）年に飛騨民俗村整備構想を策定し、令和 2（2020）年から令和 11（2029）年までの 10 年間にかけて、遊歩道や家屋等の施設整備、体験メニューの充実に取り組む予定としている。

④ 奥飛騨温泉郷活性化事業

奥飛騨温泉郷における宿泊者数は、減少傾向にある。奥飛騨温泉郷が持続可能な地域となるため、奥飛騨温泉郷が持つ強みと自然エネルギーのポテンシャルを活かし、環境に配慮した魅力的な観光地として活性化が図られるよう、令和 3（2021）年度中に奥飛騨温泉郷活性化基本構想の策定を予定している。

⑤ スキー場のあり方の検討結果に基づく対応

市営スキー場は、温暖化のため営業日数の減少による集客数の減少や施設の老朽化、そのほかスキー場を取り巻く環境の変化等から、今後の市営スキー場の目指す姿が求められている。隣接する2つの市営スキー場の現状と課題を整理し、廃止したスキー場の地域を中心とした地域振興策を検討していく。

4. コロナ禍における課題とポストコロナに向けた持続可能な観光について

新型コロナウイルス感染症の影響は、令和2（2020）年2月中頃から国内外の観光客が途絶えはじめ、観光関連産業をはじめとする市内産業に大きな打撃を与えている。高山市では、市内事業者を支援するため、様々な経済支援を行ってきたが、観光関連産業に関する一例として、次のような施策を打ち出している。

① 産業団体等消費活性化策支援事業補助金

市内産業団体等が主体となって取り組む消費活性化策を支援する補助金。各産業団体等による発案で、様々な取り組みを行うことができる。例として、土産品組合の在庫一掃セールへの割引や、旅館ホテル協同組合の市民への宿泊割引等に利用するなど、様々な用途に利用された。

② 教育旅行誘致促進事業補助金

コロナ禍において、学校側の教育旅行先、時期の変更が生じており、この機会に高山へ訪れてもらえる取り組みとして実施。宿泊で来訪する学生等（引率者を含む）に1人あたり1千円のクーポン券を配布し、市内での消費喚起を促す。岐阜県による「教育旅行の宿泊に1人あたり2千円を助成」する制度と併用可であり、相乗効果を狙っている。

③ 体験プログラム利用促進事業

観光客の滞在時間を延ばし、観光の質の向上を図るため、市内事業者における体験プログラムの造成を促進する目的で実施。市内に宿泊した観光客に対し、1人あたり3千円（外国人は6千円）の体験プログラムを使用できるクーポン券を発行する。外国人については、本国に対してSNS等で、高山の魅力を発信いただくことを促すため、倍となる6千円で設定している。

世界的に、特に欧州において、持続可能性への関心が高まるなか、持続可能性をアピールできる旅行商品であることの重要性が高まっている。高山市としても、持続可能な観光に取り組むことが必要と考えており、広大な自然、伝統ある文化、魅力ある食、豊富な温泉資源などを観光に更に活用していく必要があると考え、次のような取り組みを行うこととしている。

① 松本高山 Big Bridge 構想

中部山岳国立公園の地域資源を最大限活用し、上質で多様な利用と滞在を提供する「世界水準のデスティネーション」目指すため、環境庁、岐阜県、長野県、高山市、松本市、両市内の観光協会、バス事業者、山小屋事業者等で組織を構成する組織を立ち上げ、国内外からの観光客が訪れる滞在型観光の整備に取り組む。

② 魅力ある観光地づくり調査



図2. 乗鞍スカイライン

コロナ禍により、観光客の行動変容等が生じているため、調査を行うことで、短期、中長期的な観光戦略の基礎資料とするもの。内容としては、GAP 調査（旅行者と地域の意識の差、旅前と旅後の差、移動手段、滞在時間など）、観光客の受入体制（宿泊施設の適正なキャパシティ、泊食分離のニーズなど）などを予定している。

5. インバウンドについて

外国人観光客が訪れないなか、次の3つの視点に分けて、インバウンドに取り組んでいる。

① Dreaming アクション

高山への訪問を想起させる、高山を忘れさせない取り組みとして、徹底した情報発信を行っている。具体的には、Facebook 等 SNS による継続的な情報発信のほか、YouTube 動画の作成や、特設ページを開設し誘導するための広告、JNTO（日本政府観光局）と連携した動画によるライブ配信などを行った。

② Planning アクション

高山市への訪問のために計画させる取り組みとして、オンライン商談会への積極的な参加等を行っている。アメリカ、イタリア、フランス、台湾等の旅行会社とのオンライン商談を行い、観光地として高山の魅力を訴えている。

③ Welcoming アクション

訪問した時にがっかりさせない受入環境の整備に向けた取り組みとして、高山が安全で安心な観光地であることを実感させるための取り組みを行っている。徹底的な感染予防対策の推進のため、新型コロナウイルス対策感染防止・おもてなし支援事業補助金を令和2年度に実施し、店舗でのアクリル板購入や、空気清浄機の導入、消毒液の購入といった感染予防対策へ補助した。また、外国人向けの医療に関する相談を受け付けるワンストップ医療相談窓口について、実証実験を行っている。

6. 飛騨高山ブランド戦略について

現在、高山市では、飛騨高山ブランドを推進しており、飛騨高山ブランドのコンセプトは、「飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物。それが『飛騨高山ブランド』」と定義している。飛騨高山ブランドを浸透させるためには、外に向けて飛騨高山の良さを発信するアウトブランディングと、市民・事業者・行政が本来の飛騨高山の魅力や価値を再認識するインナーブランディングが重要と考えており、連携して課題の克服に取り組むことが必要である。飛騨高山の魅力・価値を表現するキーワードとして、伝統、癒し、人情、匠の4つを飛騨高山ブランド戦略に位置付けている。持続可能な地域を形成していくうえで、自身の地域に誇りを持たせるインナーブランディングへの取り組みは、大切であると考えている。

7. 最後に

高山市は、令和3（2021）年5月に、国の「SDGs 未来都市」に認定され、同年8月に「高山市 SDGs 未来都市計画」を策定した。市として SDGs への取り組みは、まだ、日が浅く、今後一層の勉強が必要と考えている。観光面では、持続可能な観光が、世界的な潮流から見ても、旅行商品の差別化の一因となるなど、ますます重要な視점에位置付けられており、高山市として持続可能な観光地としての強みや課題を整理し、PR していくことが大切と考えている。

稚内市の 2020-2021 年度の観光状況について



牧野 竜二 MAKINO, Ryuji

稚内市建設産業部観光交流課 主任・稚内北星学園大学 非常勤講師
北海道旭川市出身。稚内市職員。稚内市建設産業部観光交流課に所属し、主に観光入込分析、観光客誘致宣伝業務に従事している。放送大学大学院修士課程修了。専門分野は映像制作、地域メディア、地方議会のデジタル化など。本職の傍ら、稚内北星学園大学において地域情報のアーカイブ化と発信、映像制作等を指導している。

ABSTRACT

Wakkanai is the northernmost city in Japan, whose main industries are fishing, dairy and tourism. During the COVID-19 pandemic, the city's tertiary industry, especially group tour businesses were affected. Before the pandemic, characteristics of the city's tourist attraction were: 1) concentration in the first half of the FY (April-September), 2) 70% were out-of-Hokkaido tourists, and 3) about 50% were overnight tourists. Under the pandemic, changes occurred in the second and the third characteristics. Due to restrictions on the movement across prefectural borders, tourists from outside Hokkaido now account for less than half of what it used to be. On the other hand, owing to the popularity of micro-tourism, visitors from within Hokkaido has increased and the number of overnight guests has risen. From these survey results, it is clear that quantity-focused tourism, such as attracting group tours, is not suitable for sustainable tourism in an unprecedented situation such as the COVID-19 disaster. Fortunately, the fishing and dairy industries that shape Wakkanai's brand image are highly sustainable even in this pandemic, which is an advantage that urban tourism does not have.

1. コロナ禍における稚内市の観光の概要

稚内市は人口約 3.4 万人の日本の最北のまちであり、主要産業は漁業、酪農業、観光業である。ホタテやミズダコ、ホッケなどの豊富な魚介類の存在や牛が大草原で放牧されている様子は、おいしい食、豊かな自然といった稚内のブランドイメージそのものである。それらを楽しむために稚内市を旅行先として選択する観光客が多い。これらのことから、稚内の三つの主要産業は相互に関係している様子がみとれる。

コロナ禍の現在、稚内市は他市と同様に観光入込客数が減少しており、主に市内の第三次産業が影響を受けている。観光は移動、宿泊、食事などの行動を伴うため、観光関連事業者は宿泊業や飲食業、旅客業など直接的に関係する業種から卸売業やクリーニング業など間接的に関係する業種まで多岐に渡るといふ特徴がある。それらの観光関連事業者のうち、特に影響を受けているのは公共交通機関に関連する事業者、団体ツアー客を顧客とする宿泊事業者やその関連事業者である。それは稚内市が行っている交通動態調査や宿泊客実態調査の結果からも明らかである。

一方、稚内市の漁業や酪農業を見ると、漁獲量や乳量はコロナ禍においても大幅な減少は確認できない。これは計画的に育てる漁業へ移行していることや、加工ルートなどが確立されていることなどが関係しているとみられるが、それと同時に稚内市の第一次産業には一定程度の持続性があると判断できる。この漁業や酪農業の持続性の高さは、長期的な視点では観光業の持続性にもつながるものと考えている。

コロナ禍以前の稚内市の観光入込の特徴は三つあった。一つ目は上期（4 月～9 月）に集中していること（入込総数約 50 万人中、上期は約 40 万人）、二つ目は道外客が 7 割を占めていること、三つ目は 5 割弱の観光客が宿泊をすることである。コロナ禍においては、二つ目と三つ目の特徴に変化が生じた。なお、令和 3（2021）年度の下期のデータは現在調査中であるため、以降、報告するデータはいずれも上期のものとなる。

2. 2021 年度上期の観光入込客数

令和 3（2021）年度の観光入込客数は総数 191,800 人で、令和 2（2020）年度の 172,900 人より 18,900 人の増（10.9%）となり若干の増加傾向にある。しかし、令和元（2019）年度の 394,500 人と比べると 202,700 人の減（▲51.4%）となり、コロナ前の半数にとどまっている。

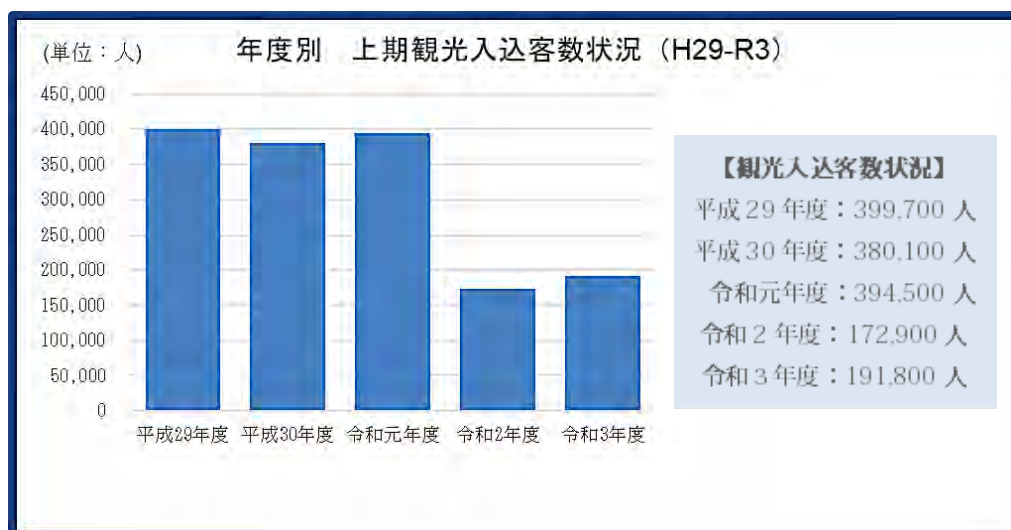


図1. 稚内市の年度別 上期観光入込客数状況：平成 29（2017）年度～令和 3（2021）年度

次に、道内・道外別観光客の状況である。令和元（2019）年度は道外客が 293,600 人であった。これは全体の 74.4%となる。道外客の多い理由には、稚内市は空港所在都市であり羽田～稚内便が就航していることや、利尻島・礼文島を含めた道外からの団体ツアー旅行の催行が多いことなどが挙げられる。しかし、コロナ禍の移動制限によって令和 2（2020）年度の道外客は 67,200 人、令和 3（2021）年度は若干回復したが 86,800 人に留まるなど、コロナ前の半数にも満たない。一方、道内客をみると、令和元（2019）年度は 100,900 人、令和 2（2020）年度は 105,700 人、令和 3（2021）年度は 105,000 人とコロナ前よりも若干増加していることがわかる。これは近隣市町村または圏域内を旅行するマイクロツーリズムを求める人々の増加に関係していると考えられる。

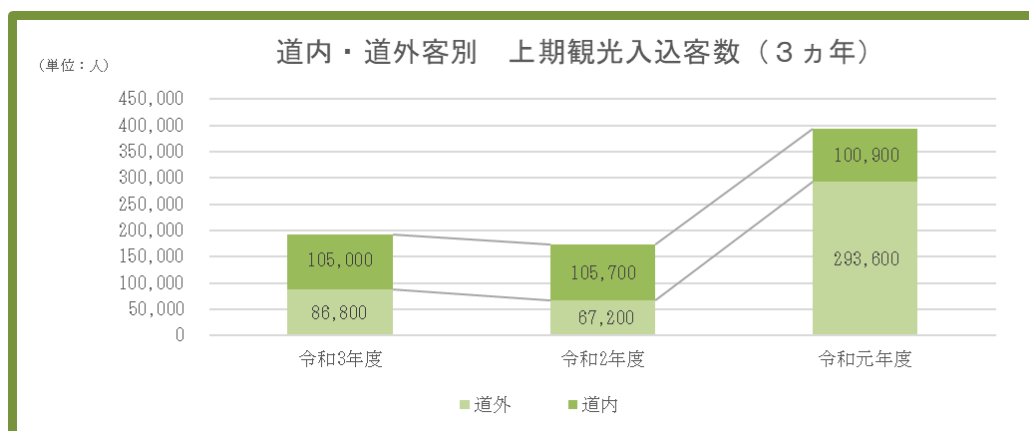


図2. 稚内市の道内・道外客別 上期観光入込客数状況：令和元（2019）年度～令和 3（2021）年度

最後に、宿泊別観光客の状況である。令和元（2019）年度の宿泊者数は 205,900 人であった。これは全体の 52.2%である。宿泊を伴う観光行動は日帰りよりも滞在時間が延びることから、地域経済への波及効果の増加が見込まれる。令和 2（2020）年度の宿泊者数は 109,500 人であり全体の 63.3%、令和 3（2021）年度は 122,300 人であり全体の 63.8%となった。宿泊者数はコロナ前よりも減少しているが、宿泊者の割合は増加していることとなる。これは、道内客の宿泊割合が増えたことや昨年度から実施されている国等の大型工事による工事関係者の宿泊が増えたことなどが関係していると考えられる。

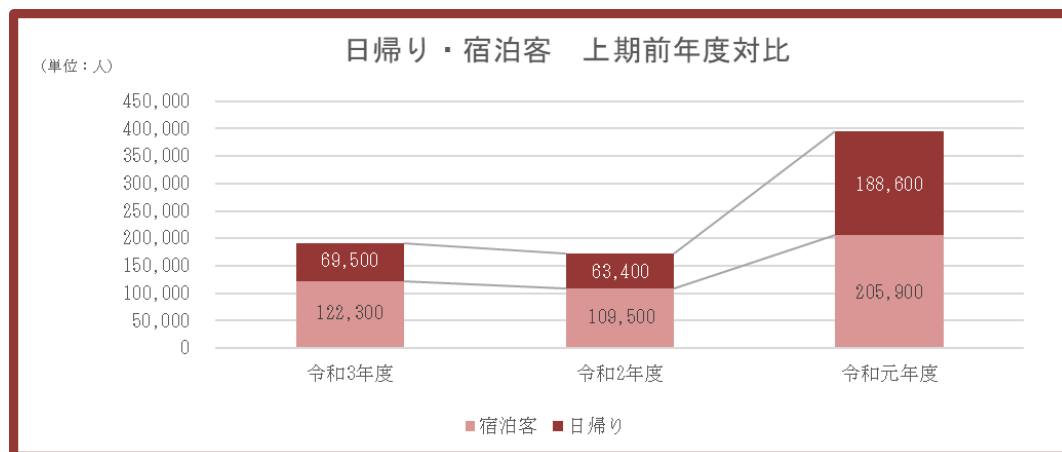


図3 稚内市の日帰り・宿泊客別 上期観光入込客数状況：令和元（2019）年度～令和3（2021）年度

3. 稚内市のコロナ後の観光形態

観光入込客数調査結果をみると、コロナ禍のような未曾有の事態において観光を持続させるためには、これまでの物見遊山を目的とした団体ツアー客を誘客するような量に注目した観光は適していないことは明らかである。一方、幸いなことに、稚内のブランドイメージを形作る漁業や酪農業はコロナ禍においても高い持続性を保持しており、これは都市型観光にはない優位点であるといえる。また、宿泊の割合が多いことも同様である。今後はそれらの優位点を生かしつつ、質に注目した個人型の観光、例えばおいしい食、癒し・リラックス、住民との交流、感動体験、非日常といった多種多様な個人のニーズに対応できるような観光形態を検討する必要がある。関連し、観光入込客数ではなく、観光客一人当たりの滞在時間や市内消費額に注目していきたい。

事例報告に関する質疑応答等

古川穂高（人文学部歴史地理学科 4 年）：高山の永田さんに質問させていただきたいのですが、先ほど高山では、観光に於いても市民が重要だというお話を伺いました。その中で、市民が地域に郷土愛などを抱くための取り組みとして、どのようなことをお考えなのか、市民が観光に対して主体的に取り組むために、こういった施策が取られているのか、教えていただければと思います。

永田友和（高山市飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長）：まさに、ブランド戦略という部分で、高山市としてはインナー・ブランディングとアウター・ブランディングという 2 つを軸で考えています。アウター・ブランディングは、外向けのブランディングということです。

それに対して、インナー・ブランディングとは、市民一人一人が、自ら自分たちの地域に対して誇りを持つということです。外からお見えになる外国人観光客の方々の視点などから、新たな魅力というものを市民が発見するというのが、非常に大事だと思っています。そうした機会をしっかりと作っていくということが大事だと思い、広報関係など、いろいろ皆さんにお知らせしているところではあるのですが、これを一人一人の市民に認識してもらうための取り組みとしては、まだ道半ばかと思っています。

ただ、広報活動の中で、飛騨ブランドというものの認定制度を作ってはいます。市内の産品、例えば、昔からの「豆板」という地元郷土のお菓子であるとか、あるいはお酒であるとかに対して、「これは、この飛騨の地のものですよ」と訴えるような広報の記事を発信しているといった状況です。

末田智樹（人文学部歴史地理学科教授）：高山市の永田さんにちょっと教えていただきたいところがあります。観光戦略のお話の中で、今後さらに求められるものとして、今回のテーマである「持続可能な観光地づくり」にのってのルールづくりと人材の確保が挙げられていたと思います。そのルール、また、こういった人材が必要なのかを教えていただければ、一応、高山を研究しているものとして、大変ありがたいと思います。よろしくお願いします。

永田：ありがとうございます。本当に、これは難しい。まだ道半ばといいますか、どうしたらいいのかというところの状態ではあります。特に、サステイナブル・ツーリズムというものは、行政や観光協会だけではなく、観光関連事業者も非常にしっかりと学んでいかなければいけないものだと聞いています。ですから、そうした活動が今後必要になってくると考えています。また、それをしっかりと教えられるような人材の確保というのも必要になってくると思います。

どういった形がいいのかは、ちょっとまだ分からない状態ではあるのですが、官公庁などで指定する専門家の方などをうまく活用したり、国の実証事業にうまく乗っていきたりするといいという思いはあります。しかし、明確に高山市としてこうするといったところまでは、今お示しはできない状態ではあります。ただ、考え方としては、そういう考え方のかなと思っています。

末田：ありがとうございます。前回1月の終わりに行かせてもらったときには、誘客戦略係の山本様到大変お世話になりまして、いろいろとご教授いただきました。また、次回学生たちを連れて行くときには、永田様も、どうぞ、ぜひ、ご教授よろしく願いいたします。

原田伸介（イベント学会中部地域本部事務局長）：文化発掘プロジェクトの「手仕事組」というものをやっております原田と申します。高山の永田さま、それから、恵那の吉村さまも、大変貴重なお話をありがとうございます。行政のほうでは、今ある観光資源をリストアップしながら、それを上手に発信していくというようなことをいろいろ手掛けられていることと思いますが、例えば、高山でしたら、もともと飛騨の匠という、本当に奥の深い文化をお持ちだと思うのです。それから、恵那に関しても、地芝居というのは本当に掘り進めていくと、僕らにはまったく分からないような奥深い文化をお持ちだと思うのです。

情報発信する前に、そのあたりの伝統文化をもう一度きちと磨き直して、外国の方々でも「ワオ！」と言いながら感動してしまうような、もう一度作り直すようなことに力を注ぐことはやられているのでしょうか。ちょっと、その辺をお聞きしてみたいと思います。今、お手元の地域に眠っている文化の「磨き直し」みたいなことは、何かやられていますでしょうか。

永田：技術という部分だと思うのですが、なかなかそれを見つけ出して外に発信していくということは、難しいことだと思っています。高山市の中では、飛騨高山の名匠認証という、優れた技術を持ってみえる方に認証を与える制度があります。たとえば家具の製造にかかわってきた方であるとか、大工の方であるとか、あるいは調理とかで非常に素晴らしい腕を持って見える方とか、そういった方を表彰する制度を数年前から作っております。そういった形で、優れた技術を持っている方を引き上げているところはございます。ただ、それが、直接プロモーションにつながっているかというと、そこまではちょっと至ってない。そこをうまく社会のニーズと合致させるというところが、今後の課題としてはあります。

あとは、先ほどのブランド戦略の中でも、飛騨の持っている古来の技術といったものは動画に残さなくてはいけないということで、アーカイブを作っています。昔からある伝統工芸品、高山ですと、たとえば飛騨春慶という春慶塗物と、一位一刀彫などがありますが、そういった伝統工芸品を作っている過程などを動画にして、それを YouTube の市の公式チャンネルで発信したりとかは行っています。いずれにいたしましても、国内であれ、海外であれ、効果的な発信方法というのは、やはりおっしゃる通り、考えていかなければいけないと思います。ありがとうございます。

吉村新悟（恵那市生涯学習課文化振興係長）：恵那市は、伝統芸能が盛んなところで、地芝居などの各保存会が頑張って活動しています。団体の中には、外国人観光客向けにいろいろ取り組みを考えていたところもありました。例えば、中山道を訪れる外国人観光客向けに、地歌舞伎の演目を見せたり、隈取りの化粧をしたり、着物を着せてあげたりなど。近隣市によると、そのような体験は外国人観光客に非常に人気があったようです。そのようなことも行いたいと思っていましたが、コロナ禍で、なかなかできないというのが現状です。

今、岐阜県がデジタルアーカイブスやWEBサイトを作って運営してくださっています。各保存会の公演に向けた練習風景なども撮影し、広く世界に発信できればと考えています。恵那市としても積極的に支援をしていきたいと思っています。

あと、市内には伝統芸能に限らず、伝統文化、歴史資産等が点在していますので、それらの「点」をつなぎ「面」としてご紹介できるように考えていきたいです。それも、地域、保存団体などがタグを組み合わせながら、保存だけではなく、観光資源として利活用できるように考えていきたいです。

羽後静子（国際関係学部国際学科教授）：稚内とつながっているというだけでも、すごくワクワクしますけれども、漁業、酪農、観光とデジタルをどうつないでいくかということにすごく関心があります。小泉先生がおっしゃっていらした、人がデジタル化についていけない、追いついてきてないということとか、人とデジタルが二項対立ではなくて、融合していくというところのイメージをもう少しお聞かせいただけますか。

小泉真也（稚内北星学園大学情報メディア学部教授）：二項対立というのも、これもあくまで心理的な抵抗感というところが大きいので、対立させるというふうに軸を人が作るのではなくて、例えば、どの部分に情報が生きて効率化できるかということを実際に分析しようということなのです。分析するということでは、ちょっと専門的な話になりますけれども、オブジェクト指向というプログラミングの概念がありまして、ある概念は、いろいろな小さい概念の組み合わせから成り立っていて、そこで出来上がったものは、またより大きな概念の部品みたいなものになる。

そういう計装みたいなことを考えると、一つの問題を解決しようとするときに、ステップバックみたいな形で分析をしていくと、例えば、教育でも、「こういうことが必要なのだな」という課題が少しずつ見えてきます。ステップバックを繰り返していくことによって、例えば、能動的な学びの中で必要なものがこれだというふうに見つかるという、そこを集中的に攻めた教育をするとか。

例えば、昔だと自由教育などというものは、そうした生活と密着したものであったと思うのです。ですから、デジタルと技術融合というだけの話ばかりではなくて、何とか情報学という枠組みの中で、出来上がったリソースを、それこそアナログの教育的なところ

に加えていって、アップグレードすることを併用できるのではないか、ということは今構想している研究の中でも行っているわけです。

あとは、もうちょっと技術的な話をするのであれば、バーチャル空間に人がアプローチして、リアルの方からアクションを起こしたことで、バーチャルの中で見えてはいるのだけれども、バーチャルの結果が、実はリアルともつながっている。たとえば、さっきの乳しぼりの手を握って開いてということを繰り返して、デバイスで触感を感じるといったことでもいいです。そのバーチャル空間の中で乳しぼりの——牛から牛乳が出てくるという——絵があって、そこでたまったミルク缶の中から、本当に牛乳が送られてきたとか、それがチーズになって加工されて送られてきたとかという現地体験みたいなものが融合的にできるのではないかなということなのです。

あくまで、これは一つのイメージなのですが、そういう絵空事みたいなところから、一つ融合的なものが始まるのではないかなと思うのです。そういうところに踏み込めるためには、デジタルも技術が進歩していかなければなりません。だから、今、AI 云々みたいなものもそうなのですが、あくまでもデジタルは技術が必ず進化するという期待があった上で、もっと自由に発想して、それにはどういう技術が実現すればいいのだろうということを想像することにもなります。

また、いろんな知的活動につながっていくためには、これはいい、これはダメという手段を選ぶということではなくて、どう組み合わせたらいいのか、これがうまい具合に行くと融合するというふうなことが実感として分かるのではないかと思います。伝わったでしょうか。

羽後：はい。絵空事というのは、まさにそうで、夢をそういうふうにならえていくツールとして、すごく期待されるかなと思います。ありがとうございました。

柳谷啓子（人文学部コミュニケーション学科教授）：私からも、高山、恵那、そして稚内の皆さんに、一つ質問してよろしいでしょうか。JNTO やマレーシアのバダ先生も言及されていたコロナ後の観光のあり方として「レスポンシブル・ツーリスト」、「責任のある旅行者」という概念が、キーワードになっているかと思うのです。旅行者が、行った先でどのように振る舞うかという問題です。たとえば、日本であれば、マスクをするというのは割と習慣化しているわけですが、それを日本に来たら守るとか、そういったこともあります。

また、こちらが向こうに行くときも、いろいろ守らなければいけないことがあると思います。先ほどお見せしたポスターにもありましたが、外で並んでいるときは、1メートル間隔で並ぶなど、その社会のルールを守ること。つまり、責任ある旅行者ということプロモートしていく上で、高山市さん、恵那市さんなどは、観光客向けにチラシやポスターを活用するなど、組織的に何か活動をなさっているのでしょうか。

永田：ありがとうございます。レスポンシブル・ツーリズムという言葉は、コロナ禍前からもあったものですから、責任ある旅行者という意味で、そういったチラシなどを表示するしか

ないと思います。ただ、具体的にそういったところにまで取り組んでいるかというところまではちょっと突き詰めていない状態です。やるとしたら、ホームページとかで多言語表記をすとか、あるいは各旅館さんのほうで、「こういったことはしてはいけません」というような内容のものをお部屋の中の案内の部分に入れたりとかは、小さなことながらできるのかと思います。ただ、今はまだ各事業者にお任せの状態ですし、やはりコロナ禍の状況下ですと、なかなかそこまで気が回らないというところではあります。どちらかというと、レスポンスブル・ツーリズムは、観光客が再び戻ってきたときのオーバーツーリズム的な状況をどうするかといったようなところのほうで、観点としては強いのかなと思っています。

吉村：恵那市も高山市さんと同じで、まだまだ観光客が戻ってこられる状況ではないので、そこまでは検討はできていません。今のところ、イベント会場や店舗などは貼り紙などにより、来客に注意喚起を促して対応しています。恵那市としても WEB 上で発信をしているという現状です。

終（人文学部コミュニケーション学科准教授）：稚内市については、私のほうでお答えします。稚内も、その辺のこと（レスポンスブル・ツーリズム）は、見た感じでは、恐らくあまりやっている感覚はないですね。ひょっとしたら中ではやっているのかもしれないですが。一応感覚としては、稚内の中でも、基本的に地方の他の観光地と同じような感じになっている気はします。

もっとも、最北端という地理的条件や、バイクの人たちの聖地であるとか、かなり限られたコミュニティーの来訪者たちが、それこそ聖地巡礼的に集まるところというのは、それなりの統制のとれた感じでやっていると感じます。ですから、チラシとかで意識を喚起するわけではなく、自然発生的にレスポンスブル・ツーリズムのようなものが昔から進んできているような感じがします。例えば、新年の時などは、雪かきを 12 月 31 日から一大イベントとして行うのですが、そうすると、かなり自主的に観光客の皆さんなども参加してくださる。どこで指導されているのか分かりませんが、（レスポンスブル・ツーリズムが）進んでいる感じがしました。

副田雅紀（マレーシア科学大学日本文化センター所長）：バダ先生、今、レスポンスブル・ツーリズムの話をしているところですが、マレーシアでは、旅行者の責任ということについて、何か策定したり刷新したりしたことはありますか。

バダルッディン、モハメッド（マレーシア科学大学建築学部教授）：発表の中で、マレーシア政府による「責任ある旅行者」の概念について触れましたが、それは、少し違った意味合いでの用語として、でした。元来、「レスポンスブル・ツーリズム」は、旅行者は行く先々の環境を尊重し、現地の人々を尊重し、かれらの文化を尊重すべきである、という意味で使われていたと思います。加えて、現地の人々も環境を保護すべきだということも含まれていたと思います。

しかし、このコロナ禍の下で、この言葉の意味は多少変化したと思います。それは地元の人々、地元の自治体、地元の商業関係者の問題となっていて、かれらは、非常に高い水準の感染防止システムや衛生状況を保たなければならないのです。それで、「レスポンシブル・ツーリズム」の意味が以前とは違ってきた。責任は私たちみんなにあるのです。観光客も、商業関係者も、自治体も NGO も、みんな責任ある行動をとらなければならないのです。旅行したり、事業を行ったりする際に、レスポンシブル・ツーリズムは私たちみんなの問題となったのです。

副田：例えば、高山市の永田さんのお話の中で、いろんなプランニング・アクションとか、ウェルカミング・アクションというものをされていらっしゃるのですが、どうしても観光産業になると経済を回していくということで、欧米志向になっていく傾向が日本にはあるのではないかと思います。マレーシアから見ていて、そのように感じるのです。

10 年ほど前のことですが、毎年、僕の大学のイスラムの学生を 10 人連れて、京都にハラールのプロモーションに 3 年ほど行っていました。そのときに、京都の市民会館でシンポジウムを開いたのですが、その中で何人かの日本人の年輩の方が、イスラム教を信じている人たちはみんな IS に近いのだから、日本へは来る必要はないということを堂々とおっしゃる。また、ご承知のように、イスラムの人たちは豚肉を食べませんが、日本人は豚肉をよく食べる。だから、豚肉を食べないような人たち——食べられないものがあるような人たち——は、日本へ来る必要はないというようなことを言われました。

特に今のコロナ禍の状況では、これは、どうしても意識の分断というか、戦争バリアというか、それがはっきり出てきてしまっています。僕がネットで見たら、戦犯のアフガンの難民を日本がどう受け入れるかが議論されていたときも、やはりイスラムの人たちは日本へ来る必要がない。事件ばかり起こしているではないか、という意見が圧倒的に多かったですね。

そのプロモーションなり、プランニング・アクションなりをされるときに、欧米の旅行者向けのプロモーションだけをされるのか、あるいはマレーシアとかインドネシアのようにイスラムの人が多い国、あるいは中近東のイスラム諸国のところへもアプローチをするようなアクションをされるのかどうかということを高山市の方、それから恵那市の方にお聞きしたいと思います。

永田：高山市としては、実は 10 年前から民間の方と一緒に——民間の方が主体なのですが——、イスラムフレンドプロジェクトという取り組みを行っています。これは、インバウンドが増えていく中で、市内の飲食店などが、イスラムでも食べられるお店を作ってあげたいというところから来ています。要は、表示の中でノンポーク、ノンアルコールというような表示であるとか、あるいは鶏肉でもハラールの肉を使っているとか、中には、確保が難しいのですが、ハラールの飛騨牛も提供できるようなお店もあつたりします。イスラムの方を受け入れようという、そういった素地はできている状態です。

高山市自体の考え方が「国際観光都市」ということで、うちの市長も、「世界の十字路口を目指すのだ」というような言い方をしております。ですから、どのような国の人でも高山に来てほしいという願いがあります。先ほどのムスリムフレンドリープロジェクトについては、今発展的にフードバリアフリー協議会という団体に名前を変えて——これはほとんど民間で私たちはオブザーバーでしかないのですが——、ムスリムだけではなく、ユダヤ人の方のコーシャフードとか、あるいはベジタリアンとか、ビーガンとか、そういったところに対しても、適切な食事ができるような取り組みを進めたいという思いで動いております。我々としても、そこはしっかりと支援をしていきたいと思っております。

副田：ありがとうございました。やはり、観光産業になっていくと、どうしても経済のことに目が行きがちですが、サステイナブル・ツーリズムという場合には、人と人との交流をどうつなげていくのか、それがグローバル・ツーリズム、サステイナブル・ツーリズムだと思うのです。ですから、特に観光に携われる方々には、そういう人と人との交流をどう進めていくと良いのかということを、もう少し考えていただけたらありがたいなということを、日頃思っております。

吉村：恵那市の状況について、私は、教育委員会の職員ですので、詳しいところまでは把握していませんが、外国人観光客の多くは観光バスでお越しになります。観光会社が食事をするお店に直接連絡し、「こういう食事がとれないお客さまがいらっしゃいますよ」ということを事前に伝え、お客様にあった食事を提供しているという話は聞いています。

Project Reports

国際人間学研究所「持続可能な観光」プロジェクト群の
各プロジェクト・リーダーによるプロジェクト概要と2021年度の成果等報告

東濃地方の芝居等文化資源記録プロジェクト コロナ禍における恵那市地歌舞伎保存会の活動と伝統芸能継承の試みについて



永田 典子 NAGATA, Noriko

中部大学人文学部日本語日本文化学科教授

愛知県出身。甲南女子大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。修士（文学）。専門分野は説話文学、民俗学。研究テーマは、伝承文芸の文化的位相。主な著書に『愛知県史 別編民俗 1』（共著、愛知県、2011年）、『尾張伝説考』（中部大学、2021年）、論文に「大頭糸説話に関する一考察」（『人文学部研究論集第32号』、2014年）などがある。



嘉原 優子 YOSHIHARA, Yuko

中部大学人文学部日本語日本文化学科教授

兵庫県出身。関西大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。専門分野は宗教学、民俗学、文化人類学。研究テーマは、日本を含むアジアの宗教儀礼や奉納芸能、神観念について。主な著書に『バリ島の村落祭祀と神観念』（おうふう、2010年）、論文に「バリ島の仮面-ランダの行方-」（『アリーナ第22号』、2019年）などがある。

ABSTRACT

In FY2021, we continued our research, focusing on the activities of the Iiji Gomoza Kabuki preservation society in Iiji-cho, Ena City, but due to COVID-19, many activities were restricted. The society was scheduled to perform for May 'Hakone Reigen Chikai no Adauchi' in "Seiryu no Kuni Gifu Ji-kabuki (local kabuki) Seizoroi performances". It was, however, staged without an audience. The members received choreography instruction from Ms. Danjo Matsumoto in advance. She is one of the leaders of ji-kabuki in the Tono region, and it was a great benefit to be able to watch her teach them. The records she kept also revealed the performances of the Iiji Gomoza Kabuki preservation society since 1950. According to the list, the most frequently performed play was 'Yoshitsune Senbonzakura Yoshinoyama', followed by 'Ehon Taiko-ki the 10th act'. Some of them are rarely performed in grand kabuki today, and are considered to be characteristic of ji-kabuki in the Tono region. In Ena City, there have been several attempts to hand down the tradition of ji-kabuki to the next generation. One was a kabuki lecture and another was a training session for the Misato Elementary School Kabuki Club by Mr. Ichio Nakamura, a grand kabuki actor from Ena City. In parallel with the above research, we collected videos, photographs, and literary materials related to past ji-kabuki in Iiji-cho, and digitized them. We plan to return these results to the community, analyze their contents, and contribute to this project.

1. 2021年度の飯地五毛座歌舞伎保存会の活動について

2021年度も昨年度に引き続き、岐阜県恵那市飯地町の飯地五毛座歌舞伎保存会の活動を中心に調査を実施した。保存会自体の活動が新型コロナウイルス感染症に対するまん延防止等重点措



図1. 五毛座歌舞伎稽古風景

置や緊急事態宣言発令のたびに延期・中止となったため、調査も大きな影響を受けた。

飯地五毛座歌舞伎保存会は、5月30日にぎふ清流文化プラザにおいて開催された「清流の国ぎふ 地歌舞伎勢揃い公演」（岐阜県・岐阜教育文化財団主催）に出演するため、振付師・松本団女師の指導により稽古を依頼しており、五毛座で稽古の様子を取材した（左写真）。上

演目目は「箱根靈験壁仇討（はこねれいげんいざりのあだうち） 滝の場」である。団女師は舞台上の座卓でカセットデッキを操作し、付け打ちをしながら振付指導をする。稽古初日は欠席者やまだ台詞が十分に入っていない出演者がおり、全体を通す形で舞台での立ち位置、所作などの確認が行われた。2 回目の稽古では、発声法、イントネーション、音の長さ、三味線や義太夫との関係など、細かい指導が入り、台詞回しや身のこなし、立ち回りがスムーズになっていった。松本団女師は、東濃地域の地歌舞伎保存会の多くに振り付けを行なっている中心的指導者であり、団女師が稽古をつけている様子を実見できたことは大きな収穫であった。

5 月 30 日公演当日は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下であったため、残念ながら無観客開催となり、実見はできなかったが、公演の様子は、ぎふ清流文化プラザ YouTube チャンネルで配信された。映像にはおくだ健太郎氏による解説が付けられたバージョンもあり、現在（2022 年 2 月 25 日）でも視聴ができる。練習時と比べ、本番での演技は格段に上達しており、保存会の面々の歌舞伎に対する熱意ある取り組みが示されるものとなった。

また、飯地五毛座歌舞伎保存会会長・肥田敏雄氏より過去の地歌舞伎に関する 19 本の VHS テープ、松本団女師から 2 本の VHS テープを預かり、データをデジタル化し、研究所で保存するとともに提供者にもオリジナル資料の返却と共にお渡しした。さらに、飯地ふるさと民俗資料館館長山口鉦一氏を介して町民に配布した「過去の地歌舞伎映像募集」のチラシにより新たに集まった映像・画像・文献等資料をデジタル化し、その内容をまとめた。資料の中には破損しているものや劣化しているものもあり、それらの収集・保存は急務である。今後は、さらなる資料の収集とその内容分析、飯地ふるさと資料館への還元を目指す。

2. 飯地五毛座歌舞伎保存会の歴代上演演目について

松本団女師の記録をもとに、1950 年以降の飯地五毛座歌舞伎保存会の歴代上演演目をまとめ、現在分析を行なっている。故松本団匠師による指導記録は 1950 年より 1997 年まで、松本団女師による指導は 2003 年から現在まで続いている（1998 年～2002 未詳）。判明している上演演目の延数は 135 演目で、そのうち 8 演目は 2006 年から始まった飯地敬老会における飯地こども歌舞伎での上演となる。演目名だけでは、その中のどの部分が上演されたのか不明なものもあるが、135 演目中、もっとも多く上演されたのは「義経千本桜 吉野山」で 14 回、次に「絵本太功記十段目」で 10 回、次が「仮名手本忠臣蔵七段目」で 9 回であった。「（会稽）扇曾我」や「石井帰咲」「糸桜本町育」など、大歌舞伎ではあまり演じられることのない演目が繰り返し演じられており、東濃地方の地歌舞伎の特徴の一つと言えるだろう。

表 1. 飯地五毛座歌舞伎保存会歴代上演演目 回数表（1950 年以降）

義経千本桜 吉野山	14 回	鎌倉三代記	4 回
絵本太功記 十段目	10 回	浮世柄比翼稲妻 鞘当	4 回
仮名手本忠臣蔵 七段目	9 回	伊達騒動 だんまり	4 回
（寿式）三番叟	8 回	彦山権現誓助剱 毛谷村	3 回
義経千本桜 三段目	6 回	墓妖術瀧夜叉姫	3 回
青砥稿花紅画彩 白浪五人男	6 回	菅原伝授手習鑑 松王下屋敷	3 回
神霊矢口渡	6 回	石井帰咲	3 回
（寿曾我）対面	5 回	糸桜本町育	3 回
（会稽）扇曾我	4 回	その他 30 演目	各 1、2 回

1950～1960年代では、毎年5、6演目を上演していたが、1970年代以降は4、5演目、1990年代に入ると2、3演目となっている。保存会会員数の減少と練習時間の確保が困難になったことが演目数の減少につながったと考えられる。

3. 恵那市による地歌舞伎伝承の試み ― 歌舞伎体験講座と三郷小学校歌舞伎クラブ

2021年度、恵那市では同市山岡町出身の大歌舞伎俳優・中村いてう氏による全5回の歌舞伎講座を恵那市三郷町の宮盛座で開催し、受講生たちによる演技を2021年度恵那市伝統芸能大会で披露するという計画を立てていた。いてう氏は故松本団匠師の孫であり、団女師の甥でもある。

6月26日に、第1回目の歌舞伎体験講座を取材し、撮影と聞き取り調査を行った（左写真）。



図2. 中村いてう『歌舞伎体験講座』第1回目

講座は2部に分かれており、午前には小学校高学年から中学生を対象に、見得の解説に続き、指導、模擬刀を持つでの立ち回りの指導、昼に中村いてう後援会設立報告会をはさんで、午後には成人を対象として歌舞伎特有の基本的所作、見得、立ち回りの指導となった。成人の部では、長年地歌舞伎に親しんでいる人も多く、地歌舞伎保存会の会員も加わって熱を帯びた指導となった。この歌舞伎体験講座は、2022年

2月までに4回実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言を受けて9月に予定していた第2回目が中止となり、それ以降の予定はまだ決まっていない（2022年2月25日現在）。

10月29日、三郷小学校歌舞伎クラブのメンバーへ行われた中村いてう氏による指導を取材した。歌舞伎クラブは、東野歌舞伎保存会会員の足立伊公子氏始め複数のメンバーから「白浪五人男」の一場面の指導を受けていたが、当日は、まず通常の練習の様子をいてう氏に披露し、その後、氏が直接生徒たちを指導した。最初、小さな声しか出せなかった子供たちが、次第に大きな声で台詞が言えるようになっていった。台詞まわしや見得を切る時の目線の動かし方、手足、首の動かし方、傘の扱い方など、自ら動いて手本を示しつつ指導が行われた。立ち回りでは、今、打とうとしているのか、防ごうとしているのか、振りの意味を考えて動くようにとのアドバイスを送っていた。練習後の生徒たちは、「本番ではうまく出来ると思う」「恥ずかしがらずにやる」「いてうさんが格好良くて、自分も格好いいと思ってもらえるよう演じたい」「丁寧に教えてもらって、もっと歌舞伎を上手くなろうと思った」と、自信を深めるとともに歌舞伎への関心も深めていく様子が見てとれた。練習の様子と11月16日の発表会の様子は、中部大学放送研究会によって撮影、編集され、恵那市のケーブルテレビ局えなっちゃんねるで放映された。現在もネット視聴が可能である（<https://youtu.be/A2ufpStoOSs>）。

歌舞伎体験講座と三郷小学校歌舞伎クラブでの中村いてう氏の指導は、地歌舞伎の身近さと大歌舞伎の華やかさを感じさせ、多くの地歌舞伎保存会を擁する恵那市の人々にとって大きな魅力となったようだ。とりわけ、歌舞伎をよく知らなかったこどもたちが「格好いい」という価値観を抱いたことは、地域の地歌舞伎文化を伝承するためのきっかけとなったかもしれない。

4. 飯地町で収集した伝統芸能に関する映像資料等について

「過去の地歌舞伎映像募集」のチラシにより数名の方々から VHS テープ 93 本の提供があったが、そのうち 2 本は経年劣化（カビ・テープの癒着）が甚だしく、デジタル化は不可能であった。91 本は、大部分が飯地の地歌舞伎に関するものであるが、加子母歌舞伎保存会による「絵本太功記 伝言石井の帰咲」・「ひらかな盛衰記 源太勘当」（1991 年 9 月 7 日）、恵那ライオンズクラブ文化同好会「獅子座」による時代劇「名月赤城山」（1999 年 12 月 7 日）、恵那市立串原小学校 6 年生による子供歌舞伎「絵本太功記 尼ヶ崎閑居」（公演日不明）の映像や、東濃の振付師中村津多七師、松本団升師に関わるビデオ、東濃の地歌舞伎を取材したテレビ番組の録画なども含まれていた。また、数名からの提供であるため、公演によっては同様のビデオが数本あり、各人の撮影によるものもあれば、住民間でダビングしたものもあった。

飯地の地歌舞伎に関するビデオは、約 40 枚の DVD に収めることができ、そのデジタルデータは、恵那市伝統芸能大会（恵那文化センター）での公演と五毛座での公演とに分けることができる。公演日と演目は次のとおりである。

■恵那市伝統芸能大会での公演

- 1993 年 2 月 11 日 「ひらかな盛衰記 源太勘当」
- 1995 年 2 月 26 日 「忠臣蔵 一力茶屋」
- 1999 年 2 月 28 日 「義経千本桜 鮎屋」
- 2002 年 2 月 24 日 「絵本太功記 尼ヶ崎閑居」

■五毛座での公演

- 1986 年 4 月 13 日 「絵本太功記 尼ヶ崎閑居」・「義経千本桜 鮎屋・吉野山道行」
- 1989 年 4 月 9 日 「寿式三番叟」・「神霊矢口渡」 「歌舞伎舞踊 栗餅」
- 1991 年 10 月 13 日 「忠臣蔵 一力茶屋」・「ひらかな盛衰記 源太勘当」
- 1991 年 10 月 3 日 「ひらかな盛衰記 源太勘当」・「神霊矢口渡」
- 1995 年 11 月 3 日 「義経千本桜 鮎屋」
- 1997 年 4 月 13 日 「奥州安達原 袖萩祭文」・子供歌舞伎「白浪五人男」
- 1999 年 4 月 11 日 「絵本太功記 尼ヶ崎閑居」
- 2003 年 9 月 15 日 子供歌舞伎「白浪五人男」
- 2004 年 4 月 10 日 「義経千本桜 道行初音旅」・「忠臣蔵七段目 一力茶屋」
- 2004 年 9 月 20 日 子供歌舞伎「白浪五人男」
- 2005 年 9 月 19 日 子供歌舞伎「寿曾我対面」
- 2006 年 9 月 18 日 子供歌舞伎「浮世柄比翼稲妻」
- 2008 年 4 月 12 日 「絵本太功記 尼ヶ崎閑居」・「扇屋熊谷」

五毛座での 4 月公演は太田神社の祭礼日における飯地町民芸能大会として、9 月公演は飯地町敬老会の余興として行われたものである。最近の敬老会では、飯地小学校の児童による子供歌舞伎が恒例となっているが、子供歌舞伎の初演は 1997 年 4 月 13 日の飯地町民芸能大会においてであった。10 月・11 月の公演は、保存会の自主公演である。

2021 年度は、コロナ禍により地歌舞伎の地元上演が難しかったため、過去の公演映像のデジタル化と保存に努めた。その成果が伝統芸能の継承に寄与するように、今後はデジタル化された文化資源の充実を図るとともに、デジタルアーカイブの構築を進めたいと考えている。

コロナ禍における歴史文化観光地域の現状―高山市と犬山・郡上市の城下町―



末田 智樹 SUETA, Tomoki

中部大学人文学部歴史地理学科教授

福岡県出身。岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻博士課程修了。博士（経済学・学術）。専門分野は経済史、商業経営史、歴史地理学。江戸期の豪商経営や捕鯨業史、百貨店史に関心があり、東海地方では松坂屋（伊藤家）の研究を進めてきた。著書に『藩政捕鯨業の展開』（御茶の水書房、2004年）、『日本百貨店業成立史』（ミネルヴァ書房、2010年）、『老舗百貨店の接客法』（風媒社、2019年）、『日本百貨店業発展史』（ゆまに書房、2022年）がある。

ABSTRACT

In this project, we conducted a field survey on the tourism situation under the Corona disaster. First, we conducted a survey of the castle town of Takayama City, focusing on winter tourism events. Second, in order to compare with Takayama City, we surveyed two castle towns, Gujo City in Gifu Prefecture and Inuyama City in Aichi Prefecture, focusing on infection prevention measures. Infection prevention measures were observed in restaurants and tourist facilities in each castle town. Gujo City and Inuyama City were very crowded with tourists, as was the case before the Corona disaster.

1. はじめに

飛騨高山班の2021年度における3年目の研究プロジェクトでは、城下町である高山市と、同市に近く城下町を中心とした歴史文化観光地域を形成している犬山市と郡上市を比較することにした。そして3つの観光地の地域性を探るために、歴史文化観光施設を中心に観光状況を調査した。また現在コロナ禍であるため、各観光地域・施設の感染防止対策に着目しながら、本年度は歴史地理学科4年次の古川穂高、岡野七海、小林玲奈、小嶋朔菜と一緒に現地調査を行った。

本調査内容は大幸財団2020年度第9回人文・社会科学系学術研究助成に採択されており、以下の調査研究においても活用している。なお、本文では調査実施の日順に述べており、写真（図1～24）については筆者が現地で撮影したものである。

2. 郡上城下町のコロナ禍の観光状況

2021年11月13日（土）に調査を行った。岐阜県郡上市では、奥美濃地方において屈指のもみじの名城で知られる郡上八幡城および、高山市と同様に重要伝統的建造物群保存地区を有する城下町を中心に、歴史文化観光地域が形成されている。

新型コロナの新規感染者数は、10月の緊急事態宣言解除後も低位で推移していた。このため、飲食店・宿泊施設等の観光関連業種を含め国内経済活動の再開が進んだ。郡上城下町の歴史文化観光施設や飲食店の各店舗では感染防止対策が行われ、そのようななか多くの観光客がみられた。各店舗では、入口における表示や店舗入口・店内において消毒用アルコールを配置していた。また、表示には必ずマスクの着用や手指の消毒はもちろん、利用者同士は間隔を空けて、大声での会話や混雑する場合の入店制限などが書かれていたことが視察できた。



図1. 郡上八幡城での感染防止の案内板



図2. 吉田川での感染防止の立看板

また、郡上市では江戸時代から「水環境」を活かしたまちづくりや、日本三大盆踊りの1つである「郡上おどり」を活用した誘客が行われていたことが確認できた。



図3. 店舗入口の表示と消毒用アルコールの設置



図4. 店舗入口のマスク着用と手指消毒のポスター



図5. 郡上八幡博覧館
郡上おどりミュージアム



図6. 郡上八幡城と紅葉



図7. 賑わっている郡上城下町



図8. 郡上八幡駅（古川君）

3. 犬山城下町のコロナ禍の観光状況

2021年11月28日（日）に調査を行った。愛知県犬山市では、現存する最古の天守閣を持つ国宝五城の1つの犬山城とともに形成された城下町を中心とした歴史文化観光地域がみられる。

2020年の同時期にも調査を試みたが、その際には従来よりも観光客の減少が視察できた。これに対して今回は観光客が大幅に増加していたことが確認できた。また、昨年同様に犬山城の観覧では人数制限が行われていたものの、入場方法が改良されていたため、コロナ禍以前のように比較的スムーズに観覧することができた。

犬山城下町の飲食店や歴史文化観光施設内においても感染防止に向けた対策が、郡上城下町で視察できたように徹底されていたが、一方でフィジカル・ディスタンスが保てないほどの観光客で混雑していた。また犬山城下町は、古民家を活かした飲食店の豊富さに特色を持つ観光地であったことが確認できた。



図9. 犬山城入口の消毒用アルコールの設置



図11. 賑わっている犬山城



図10. 犬山城の待ち時間の案内板



図12. 犬山城下町での感染拡大防止へのご協力案内



図 13. 犬山城下町の人気飲食店
における観光客の行列



図 14. 賑わっている犬山城下町



図 15. 小林さんと古川君
犬山からくりミュージアム

4. 高山城下町のコロナ禍の観光状況

2022 年 1 月 24・25 日（月・火）に調査を行った。今回は 2020 年に引き続き、城下町観光の中核である三町と隣接する商店街で開催された「二十四市」を調査した。二十四日市は、毎年 1 月 24 日に開催される明治初期から続く伝統の市である。コロナ禍のため 2021・22 年は歩行者天国にせず規模縮小し、飲食店の出店中止という形で開催されていた。

また、2020 年 7 月に開通した宮川行神橋周辺に人の流れを誘引して滞留させ、その滞留した人を本町 3 丁目商店街や周辺エリアに誘導する整備が行神橋の左岸側で進められていた。その「賑わい創出施設」は 2022 年 4 月に開始予定で、工事が急がれている様子も確認できた。当初、1 月 28 日（金）から 3 月 6 日（日）までの開催日程の「飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり」は、岐阜県が 1 月 21 日（金）より「まん延防止等重点措置」の適用地域となったため、3 月 7 日（月）以降に延期された。

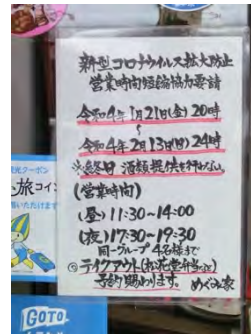


図 16. 飲食店での営業
時間短縮の案内



図 17. 商店街の感染防
止のポスター

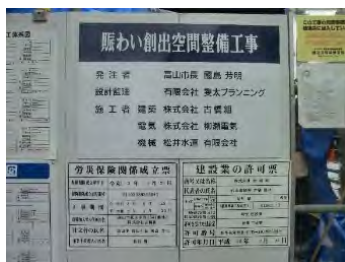


図 18. 商店街の賑わい創出空間
整備事業の立看板



図 19. 赤い中橋
(古川君、小嶋さん、岡野さん)



図 20. 高山駅での広告
「飛騨高山酒蔵のん
兵衛まつり」



図 21. 商店街の二十四日市



図 22. 二木酒造前
(古川君、小嶋さん、岡野さん)



図 23. 飛騨国分寺三重塔
(岐阜県重要文化財)

5. おわりに

東海地方の城下町観光の代表格である高山市と比較するために、3年目は高山市のほか郡上市と犬山市の城下町を調査した。視察と聞き取り調査においてコロナ禍における歴史文化観光地域の現状としては、(1) 2021年11月はコロナ禍以前のように観光客が多くみられ盛況であった。

(2) 3つの城下町の歴史文化観光施設や飲食店の各店舗では、できる限りの感染防止対策が取られていた。(3) 3つの城下町では、ともに国内外の団体客と外国人観光客の減少が確認できた。

また、国際観光都市である高山市が持続可能な観光地として目指す特色としては、四季を通じた観光イベントが展開され、冬の観光イベントにも力を入れていた。観光の中心である高山三町と隣接地域との連携や、高山市が広域観光の中核地として機能していたことがわかった。

しかし観光モデル都市である高山市においても、全国の地方都市で最重要課題となっている人口減少・少子高齢化や、観光地ならではの宿泊施設の問題など様々な課題が生じており、決して観光的優位性のみが先行しているわけではないことも理解できた。それにもかかわらず、高山市にひとを呼び込むために、魅力ある観光地づくりや国内外への販売戦略の推進、かつ市内において住みやすく働きやすい環境整備を進めるなど、持続可能な観光振興と市全体の発展に向けて、常にデメリットを解決していく努力と工夫が積み重ねられていることが確認できた。このため今後も、高山市は注目され続けるサステナブルな地方創生を目指す都市であることは間違いない。

主要参考文献（文献は刊行順）

- (1) 飛騨・高山天領三百年記念事業推進協議会編（1992）『飛騨高山 明治・大正・昭和史』同。
- (2) 足立重和（2010）『郡上八幡 伝統を生きる - 地域社会の語りとリアリティ』新曜社。
- (3) 渡部一二（2010）『水の恵みを受けるまちづくり - 郡上八幡の水縁空間』鹿島出版会。
- (4) 高山市企画管理部企画課編（2015）『高山市第八次総合計画』高山市。
- (5) 林上編著（2018）『飛騨高山 - 地域の産業・社会・文化の歴史を読み解く』風媒社。
- (6) 高山市教育委員会編（2019）『高山市史 近現代編（下）』同。
- (7) 犬山市教育委員会歴史まちづくり課編（2021）『国宝 犬山城 城下町まち歩き』同。
- (8) 高山商工会議所編（2021）『高山商工会議所ビジョン【NEXT takayama】』同。
- (9) 高山市商工観光部観光課「高山市の観光振興について」（最終閲覧日：2022年2月14日）
http://www.city.takayama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/004/030/shiryuu7.pdf
- (10) 郡上市『第2期郡上市観光振興ビジョン平成28年度～平成32年度』（最終閲覧日：2022年2月14日）
https://www.city.gujo.gifu.jp/admin/docs/2nd_kanko_vision.pdf
- (11) 犬山市『犬山市観光戦略（冊子イメージ：案）』（最終閲覧日：2022年2月14日）
https://www.city.inuyama.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/006/132/05-8_sassiime-ji.pdf

付記

本年度は、人文学部歴史地理学科4年生の古川穂高君、岡野七海さん、小林玲奈さん、小嶋朔菜さんに参加してもらい、郡上市、犬山市、高山市の調査を行った。なかでも古川君は2年生から3年間、本研究プロジェクトのすべてに参加してもらい、一定の成果を出すことに貢献してくれた。1年目に参加し卒業した鶴飼要君、塩屋木雲君を含め6名の皆さんに、記して心から感謝したい。



図 24. 歴史地理学科の参加学生
古川穂高君（後列）
岡野七海さん、小林玲奈さん
小嶋朔菜さん（前列左から）

地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築プロジェクト：音声データ収集



柊 和佑 HIIRAGI Wasuke

中部大学人文学部コミュニケーション学科准教授

プロジェクト・リーダー。新潟県佐渡島出身。最終学歴：筑波大学大学院図書館情報メディア研究科。博士（情報学）。図書館情報学、デジタルアーカイブ、組織内アーカイブを専門分野とする。五十年後でも使える地域・組織で運用する地域情報資源デジタルアーカイブの研究を行っている。

柳谷啓子 YANAGIYA Keiko

中部大学人文学部コミュニケーション学科教授

人文学部長、中部大学国際人間学研究所長。東京都出身。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。文学修士。専門分野は、社会言語学。研究テーマは、メディアと表現の関係、デジタルアーカイブなど。主な訳書・著書に『エーコの読みと深読み』（岩波書店）『くはかる>科学：計・測・量・謀：はかるをめぐる12話』（中央公論新社）。



坂本 堇 SAKAMOTO Sumire

中部大学人文学部コミュニケーション学科4年

卒業研究「コンテンツ制作者のためのサウンドスケープアーカイブ」では、サウンドスケープアーカイブに必要なメタデータスキーマを定義した上で、記録したサウンドスケープの内容に応じて日付・時間・気温・天気などをメタデータ化し、アーカイブサービスを実装することを研究目的とした。2022年度より国際人間学研究科言語文化専攻博士前期課程に進学予定。

ABSTRACT

This project conducts research on the construction of a digital archive system using information produced and manufactured in the region as a local information resource. The system is intended to be used as a resource for learning about the region in the future. Currently, we envision the use of the system for "sightseeing," "education," "production," and "research". This paper reports on the "tourism" use that this project is considering among the utilization methods. Currently, we believe that a digital archive which makes use of tourism resources will makes people feel like visiting real tourist attractions. This paper describes the stage of the consideration.

1. デジタルアーカイブの現状と2021年度のプロジェクトの状況

本プロジェクトは地域で制作・生産される情報を地域情報資源とし、デジタルアーカイブシステムを構築する研究を行なっている。構築しているシステムは将来的に地域を知るための資料として用いることを目的としている。現在、想定している利活用方法は、後述するように「観光」「教育」「制作」「研究」を想定している。

1998年のインターネットの普及以降、様々な情報がインターネット上に提供され、利用者は自分で情報を探して目的に利用できるようになった。しかし、インターネットでやり取りされる情報は検索のための技術が必要であり、Webに関しては一定期間以上前の情報を探し難いという特徴がある。そのような状況を打開するために、様々なツールが開発され、特にデジタルアーカイブはリポジトリやライブラリー、データベースといった名称で開発・運用されている。しかし、それらの運営は磐石とは言えずプロジェクトや運用組織の統廃合によって常に消失の危機に瀕していることは間違いない。以前より議論が進められているが、その画期的な維持方法などはまだ完成されているとは言い難い。

2021年度は新型コロナウイルスの流行に左右される年であった。観光研究に関しては理系工学系分野であっても現地での調査・研究が必要である。特に、地域情報資源はこれまでの情報のデジタル化

の他、今の情報をセンサーで取得してデータとする必要がある。そのため、現地を訪れて行う実験が必要であるが、それらを行うことが困難であった。特に本プロジェクトが対象としている稚内地域は長距離であるために移動に制限がかかりやすい。昨年度に引き続き、関係者へのインタビュー（本誌記事参照）と小規模な調査に終始することになった。また、本プロジェクトは地域情報資源の収集に自律的に動作するロボットを用いて収集することを目標としている。しかし、移動制限などの環境の変化を受け、現在は収集のためのセンサー、それらを蓄積するアーカイビングシステムの検討を進めている。

2. 本プロジェクトが収集・蓄積する地域情報資源の種類

本プロジェクトでは、地域情報資源として以下のものを収集・蓄積・提供するシステムを開発している。これは、確定したものではなく地域研究の進展、意見に合わせて追加する予定である。

・映像

地域を一つの組織と見做し、組織内で撮影・制作された動画を対象にアーカイブを作成し続ける研究である。『組織内映像アーカイブのためのメタデータ構築』[1]、『大型壁面プロジェクトによるこまきこども未来館常設コンテンツの制作』[2]が関係した論文である。現在は、中部大学に死蔵されている20年分の放送研究会のケーブルテレビへ提供した番組、素材映像、台本や議事録といった文書資料のデジタルアーカイブ化を進めている。検索は、シリーズタイトル、イベントタイトル、出演者・制作者を用いたシステムにする予定である。これは、本学の放送研究会が今後の番組「制作」と新入生「教育」への利活用を行うことを目的としたシステムである。今後は、サイトの公開と組織の範囲の拡大し、全学対応、地区・市町村単位のシステムとしていく予定である。

・音声

録音機を設置してサウンドスケープ（環境音）を収集している。サウンドスケープは、音の風景という概念であり、環境の変化などを観察する用途に利用されている。現在は、『コンテンツ制作者のためのサウンドスケープアーカイブ』[3]で述べたように複数の検索手法を用意する予定で研究を進めている。従来の音声アーカイブは環境の保全など「研究」用途で使われることが多かったが、観光への応用のために「創作」用途による利活用を検討している。右の写真は2021年度に行った稚内市におけるテストデータの収集時のものである。風や雪による集音状況の確認、メタデータの検討が目的であった。



図1 録音実験風景

とが多かったが、観光への応用のために「創作」用途による利活用を検討している。右の写真は2021年度に行った稚内市におけるテストデータの収集時のものである。風や雪による集音状況の確認、メタデータの検討が目的であった。

・建築物3Dデータ

メタバースなどで最近注目されている。メタバースとは新しいコミュニケーション環境として検討されている、コンピュータグラフィックで表現したアバター（人物）を操作して3Dで制作されたワールド（仮想的な空間）でコミュニケーションをとることで成立するサービスである。利用者の表情、姿勢などをセンサーで取得して反映することでより自然なコミュニケーションをとることができる。このサービスの中で、様々な歴史的建造物や造形物の3Dデータの利活用が検討されている。現在は、利用者に提示する仕組み、各種センシング、3Dデータの簡便な作成方法、ネットワーク問題、3D酔い対策、プライバシー対策、などが議論されてい

る。本プロジェクトでは、「制作」のための簡便な手法開発と、「教育」利用のためのワールド検索手法の検討を進めている。

・スキル

踊りや作業などの記録のほか、熟練職人の動きを3次元計測し、利活用する研究が以前より進められている。「画面で観る」「教育用の素材に利用する」ほか、現在は「パワードスーツにスキルをダウンロードして人間の動きをアシストする」などの利活用方法が企業などで研究されている。本プロジェクトでは、将来的に大量のスキルデータが作成されることが予想できるため、「制作」のための検索システム研究を進めている。

上記の4データを収集し、前述の「観光」「教育」「制作」「研究」の目的に合わせて検索方法の検討と必要なメタデータ（データ検索のためのデータ）の整備を進めている。それぞれ、以下の目的に応じて検討を進めている。

「観光」：観光地に行きたくなるデジタルアーカイブ。他の情報源との連携が必要。

「教育」：Japan Searchに代表される、ナレッジの集中を目的とした利活用。ギガスクール構想を取り入れた。

「制作」：コンテンツを新たに作るための素材としてのデジタルアーカイブである。検索のしやすさ、権利管理などを検討しておく必要がある。

「研究」：都市の消滅を考えると、都市自体のアーカイビングは急務である。この場合、アーカイブはその都市を研究したくなる以上に、多少極端ではあるが消滅して50年後に研究対象として魅力的に見えるようにする必要がある。

3. 地域情報源の「観光」利用

本章では、利活用手法のうち、本プロジェクトが考えている「観光」利用について報告する。現在は観光資源を生かすためのデジタルアーカイブとは、現実の観光地に行きたい気分にするデジタルアーカイブであると考えている。そのためには、魅力的な観光資源を、教育的視点を持って解説するシステムと、適切な推薦システムが必要である。また、それらのデータを見るための仕組みにも工夫が必要だろう。

以下の写真は稚内市から20kmほど離れた抜海港の写真である。日本海に面しており以前が観光のための小屋が設けられていたが、数年前に撤去されている。港湾工事が進められているが、現在でも多くのアザラシが生息している。遠景の写真に写る点を拡大すると、アザラシであることがわかる。稚内市では海産物を食い荒らす害獣ではあるが、観光資源として利用することも検討されている。他にも、数千頭のトドが休息する島などが宗谷岬近隣に存在する。15倍程度の双眼鏡などを用いることで、トドの群れを観察することができる。

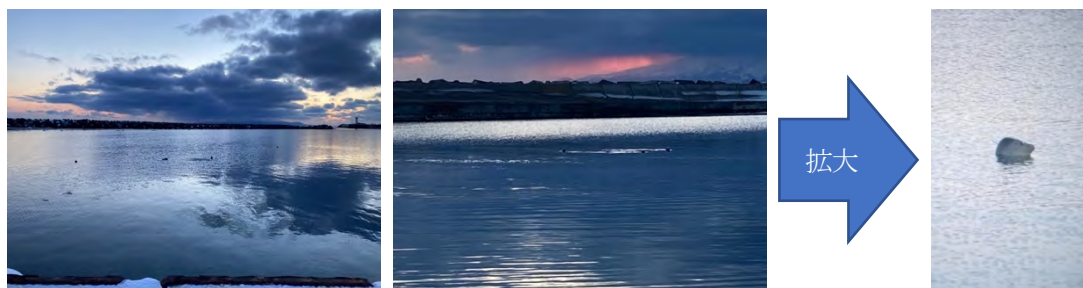


図2 抜海港のアザラシ

4. テストデータの収集

本プロジェクトでは、デジタルアーカイブの利活用手法の検討を進めるために、前述したデータのテスト収集を進めている。2021年度は動画のデジタル化を用いた収集のほか、中部大学内および稚内市に於いて音声の録音を行った。その結果を受けて、現在は小型の自動録音、蓄積のための小型端末の開発を行っている。また、部屋単位の3Dデータの収集の実験を行ない、メタデータの検討と検索サーバの準備を進めている。スキルに関しては提供方法の検討を進めているが、有効性の測定方法など課題が多い。

このように、2021年度は、音声データを中心に収集した。収集は地点と時間を揃えて、複数回収集を行い、データにメタデータを付与した。現在は個々のデジタルアーカイブの利用として進めているが、今後は統合する方向で計画している。また、音声の検索にはマンガデータをつかうことが検討している。マンガにはオノマトペが使われているが、同じ文字であってもその描かれ方によって「雰囲気」が異なる。その雰囲気を使い、音声ではニュアンスが伝わりにくい音声の検索に応用する予定である。現在は、学会での発表以降は公開のためのシステム開発を行なっている。

5. 支援システムの開発

現在、これらの情報を蓄積・提供するアーカイブサーバの構築を行なっている。加えて、提供システムの検討と実装を進めており、2022年度の公開を目指している。

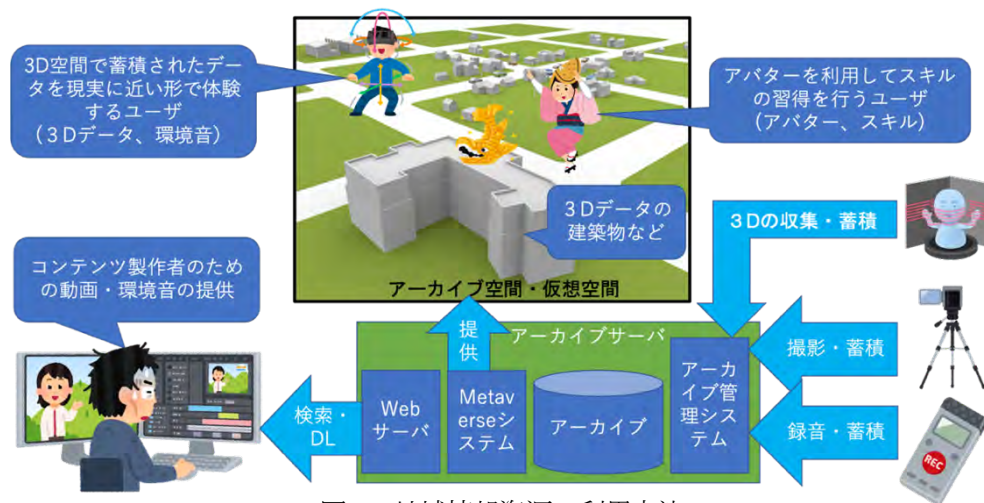


図3 地域情報資源の利用方法

6. まとめと今後

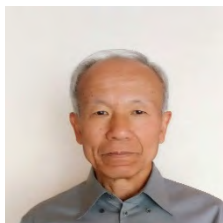
コロナ禍においてできることは限られているが、サービスの公開に向けた検討は進んでいる。観光への応用は大きなトレンドとして認識されており、本プロジェクトでも前述の「観光」の目的に合わせて、データの収集と閲覧方法を検討していく必要がある。

参考文献

- 安永知加子・柊和佑・石橋豊之.“末組織化映像のアーカイブおよび利活用手法の研究”, デジタルアーカイブ学会誌 4(2), 173-176, 2020.
- 柊和佑・安永知加子・佐藤雅也・柳谷啓子・廣瀬陸・荒川杏菜・坂本薫・高橋秀.“大型壁面プロジェクションによるこまきこども未来館常設コンテンツの制作”, NICOGRAPH 2021.
- 坂本薫・柊和佑.“コンテンツ制作者のためのサウンドスケープアーカイブ”, 第1回DAフォーラム, 2021.

春日井市姉妹都市ケロウナ（カナダ）におけるワイン・ハスカップ観光プロジェクト

中部大学国際関係学部羽後静子教授・応用生物学部根岸晴夫教授
中部大学アクティブアゲインカレッジ国際羽後ゼミ（松本建夫・野上秀之・足立晃久・飯田知恵子・野田美智子・脇田宏司）



松本 建夫 MATSUMOTO Tateo

中部大学アクティブ・アゲイン・カレッジ（CAAC：Chubu University Active Again College）研究生、プロジェクト・リーダー

ABSTRACT

The aim of this project is to study the possibility of introduction of the haskap cultivated in Kelowna, Canada to Japanese fields and make this name popular in Japan. The study started by visiting the haskap farm and the factory in Kelowna, to analyze nutrition components, to make a trial jam and to make haskap cookies in the first year. Ginn - no - mori corporation, which is located in Ena City, Gifu Pref., made the trial haskap meringue. We tried selling the products at the Shimizuya store in May 2021 and it was very well received. We, however, realized that we would not able to sell the product to the Japanese market due to haskap high cost. Therefore, we will conduct research in 2022 with an approach that puts the superiority of Canadian haskap, such as strong sweetness and high amount of vitamin E, in the foreground rather than price competition.

プロジェクトの概要

このプロジェクトでは、カナダ産ハスカップを対象として、春日井市を中心とする日本国内でその知名度の向上させること、及び、輸入・導入の可能性について調査・研究することを目的としている。その背景には、中部大学が位置する愛知県春日井市とカナダ太平洋岸のブリティッシュ・コロンビア州にあるケローナ市とが姉妹都市として 40 年の歴史を持つという事情がある。しかし、市民の交流はあるものの、これまで交互で該当地区の物産を取引するなどの経済的交流はなかったため、カナダ特産のハスカップを嚆矢として、ケローナの特産物を日本へ導入することは、交流の多面性を増す意味で、意義あると判断したことによる。

研究経過

この調査研究活動は一昨年からはまり、ケローナ現地農園、工場の訪問・見学・調査、試料・宣伝用ハスカップの輸入、成分分析、ジャムの試作、春日井市イベント会場での試食・感想収集、応用商品メーカーへの採用提案・試作品製造・実験販売などを実施した。

2021 年度の活動と今後の方向性

この中で、岐阜県恵那市に拠点をもつ（株）銀の森コーポレーションが、ハスカップ入りクッキーを試作したことについて触れる。試作 1 号のクッキーは、味はハスカップの印象を与えるものの、見栄えの点で特色がないものであった。試作 2 号の改良品は、メレンゲにしたクッキーとし、これを清水屋春日井店で販売をした（写真参照）。この製品は形状・味覚ともにハスカップの特徴を生かしているとの評価を得た。この試作品 150 袋を令和 3 年 5 月に清水屋春日井店 1 階の店頭で販売した。この販売は評判を呼び、中日新聞地方版に掲載されたこともあり、瞬く間に売り切れとなった。しかし、これが商業ベースに乗るためには、コストが課題であることが明確

となった。ケローナ現地の生産・加工農場は規模の小さい家族経営で行っていることもあり、量産効果は望めない。従い、価格勝負ではなく、ケローナ産の優位性（甘味や、ビタミン E が多い）を前面にしたアプローチで次年度は調査・研究をすることになっている。

ハスカップ メレンゲで香る

中部大など開発 実験販売

春日井の姉妹都市カナダ・ケローナ産

春日井市とカナダのケローナ市が姉妹都市になってから今年二月で四十周年を迎えたことを記念し、中部大国際人間学研究所（春日井市松本町）と恵那銀の森（岐阜県恵那市）、清水屋（春日井市瑞穂通五）が連携して、ケローナ市の農園で栽培されたハスカップを使った「ハスカップメレンゲ」を開発。清水屋春日井店一階の「Wine & Marche Vinos（ワイン・アンド・マルシェ・ヴィノス）」で実験販売している。

（磯嶋康平）

学生や市民らからなる交 学部で羽後静子教授が中心 流団を毎年送るなど、ケロ となつて企画 産業交流を ーナ市との交流促進に力を 増やすきっかけとして、新 入れている中部大国際関係 たな特産品を作りたいとい

う思いに賛同した恵那銀の 森と清水屋が協力し、昨年 二月から一年以上をかけて 完成させた。

ハスカップはブルーベリ ーに似た果実で、甘酸っぱ い味覚が特徴。目に良いと されるアントシアニンをブ ルーベリーの三倍も含んで いるほか、ビタミン、ミネ ラルが豊富で、栽培が盛ん な北海道では不老長寿の果 物として知られている。ケ

ローナ産のハスカップは、 北海道産とロシア産を掛け 合わせたもので、糖度が高 い一方、酸味は控えめに抑 えられているという。 ハスカップメレンゲは一 ロサイズのメレンゲに、ケ ローナ産のハスカップをビ ュレにして加えており、 舌の上でとろけるほど食感 は滑らか。口に入れると、 さっぱりとした甘みと豊潤 なブルーベリーに似たフレ ーバーが広がる。

羽後教授は「ケローナの 森の香りを感じてもらうと ともに、ハスカップが栄養 豊富であることを知っても らえれば」と話している。 今後は、実験販売の結果を 踏まえた上で、正式に商品 化するかどうかを検討する という。

ハスカップメレンゲは一 袋三百七十八円（税込み）。 北海道産とロシア産を掛け 合わせたもので、糖度が高



●売り場でハスカップメレンゲを手にする羽後教授

●限定販売されているハスカップメレンゲ。いずれも春日井市瑞穂通五の清水屋春日井店で



図 1. プロジェクトを紹介する『中日新聞』の記事（2021 年 5 月 21 日『中日新聞』朝刊近郊版）
この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

アジアのオルタナティブツーリズム研究プロジェクト —コロナ禍における「ニューツーリズム」の考察—



澁谷 鎮明 SHIBUYA, Shizuaki

中部大学国際関係学部国際学科教授

名古屋大学大学院文学研究科史学地理学専攻満期退学。博士（地理学）。専門は人文地理学、韓国地域研究で、韓国を中心とした風水地理思想の展開、日本人作成の近代都市図研究に関心を持つ。近年中部地方のインバウンド観光についても研究を行う。

ABSTRACT

This year, this project attempted to explore important new tourism under the COVID-19 pandemic. Tourism was significantly affected by various restrictions in this time. In this project, we focused on "work-cation" in the Chubu region and conducted a preliminary survey. The image of "work-cation" in the Chubu region in COVID-19 pandemic is a style that provides a place for telework in a city hotel in a big city such as Nagoya. Outside of Nagoya metropolitan areas, the image of "work-cation" is to stay at a hotel with a natural hot spring for a relatively long stay.

本プロジェクトは、2019年度まで実施した「Sustainable heritage tourism in Malaysia」、
「内モンゴルにおける草原観光の季節的変動」の2つの研究プロジェクトが、「アジアにおいて
地域に根ざした、気づかれなかった観光資源の発掘」という共通の方向性をもっていることが理
解されたため、2020年度からは合体させて、特に本学提携校があり協力を得ることが可能なマレ
ーシアと内モンゴルを研究対象地域とした「アジアのオルタナティブツーリズム研究プロジェク
ト」として活動することになった。

本年度は新たにに取り組むこととなったオルタナティブツーリズム概念についての理論研究を
行いながら、「ワーケーション」など、コロナ禍において意味のあるニューツーリズムのあり
方について探究を試みた。なおこのような要請はアジア各地でも見られるため、本学提携校のあ
る中国・内モンゴルや、マレーシア・ペナン島における動向についても研究を進めるべく努めた。
ただし本年度もコロナ禍により海外調査は実施できず、国内のフィールドワークも十分に行えな
かったことから、予察的考察にとどまった部分が多い。

コロナ禍においては、海外への旅行はほぼ不可能になり、国内においても長距離の移動が勧奨
されない時期も長かった。さらには人的な接触を避けなければならないなど、観光の本質的な内
容に抵触する制限条件が生じたため、観光はかなりの影響を受けたのは周知のとおりである。こ
のような状況下において、オルタナティブツーリズムはどのような意味を持つだろうか。

オルタナティブツーリズムは、おそらく広義には、団体旅行などの「マスツーリズムではない
観光」を指すだろう。また狭義には、エコツーリズムやグリーンツーリズムなど、新たな視点
を持った観光を指すことも多く「ニューツーリズム」と呼ばれることもある。このような、「これ
までと異なった」観光形態や目的があるため、コロナ禍という特殊な状況に適応可能な観光形態
も存在する。

同県内など身近な観光地を訪問する「マイクロツーリズム」などは、コロナ禍で観光を維持す
るための方途として最近注目され、各地で採用されている。他方 Work と Vacation をつなげた
造語であり、仕事と休暇や観光を同時に行う「ワーケーション」は、リモートワークが一般的に
なったコロナ禍において、徐々に注目されつつある。

田中・石山（2020）も述べるように、ワーケーションは比較的新しい概念であることもあり、その指し示す内容は曖昧な部分も多く、はっきりとはしないまま用いられる傾向がある。その上近年さらに新たな意味が付け加えられているように感じられる。JTB 総合研究所サイトによれば、ワーケーションは、「リゾート地や地方部など、普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得を行うこと。あるいは休暇と併用し、旅先で業務を組み合わせる滞在のこと」とされているが、総務省「情報通信白書」サイトによると「リゾート地などで休みを取りつつ（または引っ越しして）テレワークをする働き方を指す」と記され、移住も視野に入れた概念とされている。これは、地域（自治体）と関連事業者は、ワーケーション市場の拡大による関係人口の増加と地域活性化、あるいは事業化の可能性への期待があるためであるだろう（田中・石山、2020）。

今回本プロジェクトでは、中部地方の「ワーケーション」について注目し予察的考察を行った。上述のように現地調査が難しかったため、コロナ禍以後見られるようになった宿泊施設の「ワーケーションプラン」に着目し、中部地方を中心にしながらその様相にアプローチした。中部地方の宿泊施設を網羅できたわけではないが、愛知、岐阜、三重の三県で 60 軒を超える宿泊施設に「ワーケーション」という語を冠しているか、あるいはそれに準じる内容の説明が付された宿泊プランが認められた。また地域的には愛知県、特に名古屋市に集中していた。

その内容は様々であるが、例えばある豊橋市のホテルにおいては、「2 連泊以上の連泊宿泊に対応した特別割引プラン、清掃無し、朝食付き」の「ワーケーション」プランを準備しているが、連泊で清掃を行わない分やや割安にし、「ワーケーション支援」をうたっている。他方ある岐阜県の温泉宿（ホテル）では、一泊朝食付きで 24 時間滞在が可能で、天然温泉の利用ができるようになっている。

これらをやや類型化を試みつつ整理するならば、第一のタイプは、大都市のシティホテルにおいて、ワーケーションというよりはむしろテレワークの場所を提供するケースである。第二のタイプは、大都市圏周辺部か遠隔地の天然温泉のあるホテルで、比較的長めの滞在を想定したものである。共通するのは連泊であることと、食事が朝食のみのケースが多いことであろうか。この両者が日本における「ワーケーション」イメージの一端とも思われる。また、大都市と都市周辺部のワーケーションの様相はかなり異なると言えるのではないだろうか。なお宿泊施設側から見た場合、これらの宿泊プランは、ワーケーションのイメージを使用しつつ、基本的にはコロナ禍で減少した客足を少しでも取り戻そうとする試みであることも予想される。

ここまで述べたように、「ワーケーション」の概念は、曖昧かつ幅が広いという印象も強い。上述のワーケーションプランも宿泊施設や地域によってその内容に差があり、必要性に応じて用いられる傾向も認められる。また移住を含めた場合に、観光（もしくは休暇）の範疇に入るのかどうか疑問も残る。さらなる検討が必要である。

参考文献

- 桐明祐治（2020）：和歌山県におけるワーケーションの取組実績と今後の展開、21 世紀 Wakayama 和歌山社会経済研究所報 95、pp.4-7
- 田中敦・石山恒貴（2020）：日本型ワーケーションの効果と課題一定義と分類、およびステークホルダーへの影響、日本国際観光学会論文集 27、pp.113-122

中締挨拶



羽後静子 HANOCHI Seiko

中部大学国際関係学部国際学科教授・中部大学国際人間学研究所副所長
カナダ・ヨーク大学大学政治学 Ph.D.コース終了 ISA(国際関係論学会)・平和学会・人間の安全保障学会・コミュニティ政策学会。中部 ESD 拠点協議会基盤部門副代表。専門分野は国際政治学、研究テーマは ESD/SDGs、人間の安全保障(難民・移住者・ジェンダー・LGBT)。

みなさま、このような時期、コロナ禍で活動しづらい状況にもかかわらず、素晴らしい研究活動報告のご発表お疲れ様でした。時間が押しておりますので、簡単で恐縮ではありますが、パネリストの方々にお礼と感想を申し上げたいと思います。

まず冒頭、細田副学長から、大変素晴らしいメッセージを発信していただきました。我々が普通に住んでいる居住空間をどうやって観光空間として地元や、我々自身がエンjoyしながら、それを一つの経済的な資源として発展させ、ともにサステナブルな未来や経済生活も含めて、環境と経済の両立を目指すことを、ザルツブルグの例などを挙げていただきながら、たいへん示唆に富んだご報告をいただき、感銘を受けました。ありがとうございました。

それから、内モンゴルのウリハンさんとマレーシアのパダ先生へは、英語でお礼申し上げます。

I'd like to thank Ms. Wurihan for your presentation. It's very nice to see you online. I enjoyed your presentation and totally agreed with your point on your dilemma between the development and tourism. I also agree that under the COVID-19, you had to change and transform the situation into smaller size of travelling with family and friends. As you have bigger land and nature than ours, I thought you didn't have to worry about the damage by COVID-19, but now I see that we have the same problem to overcome, so that we can share ways to develop the alternative, sustainable tourism together. Thank you very much for joining the symposium today.

Bada sensei, thank you very much for joining us. It's nice to see you. I've been to Malaysia a few times with Professor Shibuya. And then, Soeda-sensei, it's nice to meet you online again. Bada sensei, I enjoyed your presentation very much, especially you mentioned about how to overcome this situation and gave us your wonderful suggestion about the alternative tourism. You said that "Over tourism is bad, but under tourism is worse" This is a very interesting phrase. What do you think is "the worst tourism"? And then how can we go beyond to the post COVID-19 era tourism? It is interesting that you explained on responsibility, the "responsible tourism." What is responsible tourism? We could share your concept together to develop our project.

次に恵那市の吉村生涯学習課文化振興係長のご報告ですが、恵那市の観光戦略は素晴らしく、しかも郷土愛に満ちた教育と市民活動と自治体の戦略が一体となった取り組みに感銘を受けました。日本全国に誇れるグッドプラクティスの一つだと思いました。ぜひ、この伝統芸能を新たな観光資源として、世界と勝負するというか、高山とは違う切り口で世界中の人に評価されること

を期待するとともに、日本人がそれを誇りに思うようになることを願っております。ありがとうございました。

また高山市の永田海外戦略課長のご報告は、他の自治体が目標にしている一つの素晴らしい成功事例だと改めて感心いたしました。高山は、歴史的に外国人によって再発見された、あるいは見出された日本の観光モデルの原型のような観光地と聞いていますが、世界的見てもグッドプラクティスと期待されていると言えます。特に今回のご報告の中で印象に残ったことの一つは、教育旅行をどうやって活性化するかとおっしゃった点です。全国の小学校、中学校、高校生たちが、高山で SDGs や日本の歴史や外国人との多文化共生などを学べるような施策を実現していただきたいなと思いました。

最後に稚内のプロジェクトについては、先ほど小泉先生に質問させていただきましたけれども、本当に素晴らしい観光資源の宝庫であるという点に感動しました。デジタル化であるとか、最北端のまちであるとか、商店街とか、そういう観光資源をどういうふうに融合して、この観光資源というよりも、冒頭に細田先生がご指摘された居住空間と観光空間の一致というところを、今後期待を持って、見届けたいと思いました。それでは、きょうのところは、これで中締めとさせていただきます。

みなさま、後半は、ポスターセッションと自由懇談で、どうぞ最後までお楽しみください。

Posters & Free Talk Session

各プロジェクトのブレイクアウトルームに於けるポスターを囲んでの自由懇談
ポスター、およびプロジェクトに関係するやり取りや時勢をよく反映する録音内容を掲載

東濃地方の地芝居等 文化資源記録保存 プロジェクト

2021年度活動記録

高原優子

2021年度の活動を振り返って

2021年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対するまん延防止等重点措置や緊急事態宣言発令のたびに大きな影響を受けることとなった。

飯地五毛座歌舞伎保存会による「清流の国ぎふ2020地歌舞伎勢揃い公演」（主催：岐阜県・岐阜県教育文化財団）における公演と公演に向けての準備の調査、飯地町に残されている歌舞伎をはじめとした伝統芸能に関する映像資料の収集及びデジタル化を中心に活動を進めた。

また、恵那市山岡町出身の大歌舞伎俳優・中村いてう氏による歌舞伎体験講座の調査では、中部大学放送クラブの協力を得て、いてう氏や参加者へのインタビューなどを行い、映像をまとめた。

「清流の国ぎふ地歌舞伎勢揃い公演」

日時：5月30日 飯地五毛座歌舞伎保存会公演

場所：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

演目：箱根霊験壁仇討 滝の場（80分）

当日は緊急事態宣言下のため無観客開催となったが、オンラインで動画が配信された。動画は現在も視聴できる。

(<https://www.youtube.com/watch?v=FpCAIrNCGyK>)

おくだ健太郎氏による解説付き

(<https://www.youtube.com/watch?v=D2AAGHiVo9Q>)

「箱根霊験壁仇討 滝の場」

あらすじ

飯沼勝五郎は弟を滝口上野に殺され、今は妻初花と流浪の身となっています。しかも病で足が不自由に。初花は勝五郎を綱手車にのせて箱根の阿弥陀寺まで来ましたが、そこには敵の滝口上野が初花の母を人質に取って待ち構えています。仇である上野に横恋慕され、今、母を人質に取られた初花は、2人の命と引き換えに泣く泣く上野の館へと連れていかれるのです。

しかし、まもなく初花が勝五郎と母のもとへと戻り、滝に打たれて勝五郎の病平癒の祈願をすると、不思議なことに勝五郎は歩けるようになります。実は、初花は仇討ちをしようとして返り討ちにあっており、亡霊となって夫の病を癒したのです。

病が癒えた勝五郎は、決意を新たに仇討ちに向かうのです。

「箱根霊験壁仇討 滝の場」

振付指導	松本団女	配役	滝口上野	肥田敏雄
太夫	竹本美芳	飯沼勝五郎	藤岡高和	
	竹本美香	初花	伊藤和昭	
三味線	豊澤順八	筆助（月の輪）	各務昭一	
	松本知也	さわらび	藤岡千恵美	
下座	松本奈津美	羽根川久馬	藤岡紀博	
藤原	松本富士	次郎	保母伸治	
	松本茂み	八	小野実人	
	松本近平	勇	山口延一	
床山	松本真由美			
着付け	松本美登枝	後見	伊東和憲 藤岡清一	
	三宅重雄			
	林喜久枝	衣装	松本衣装	

「箱根霊験壁仇討 滝の場」稽古風景①



左から、勝五郎、上野、初花、久馬、さわらび（振付指導の松本団女氏）

「箱根霊験壁仇討 滝の場」稽古風景②



勝五郎役に自ら手本を示す団女師

「箱根霊験壁仇討 滝の場」稽古風景③



稽古後に団女師から指導を受ける保存会会員の皆さん

[illegible]

昭和28年8月25日、27日	1953	公民館	飯沼有寿江	市谷村六郎 藤崎千太郎 大塚幸 松之下隆雄 矢口ノ重し 鎌倉三代以 佐藤隆雄
昭和28年4月11日	1959	公民館	飯沼有寿江保寿会	飯沼有寿江 飯沼友國 市谷村六郎 鎌倉三代以 大塚一雄 大沢戸一代男
昭和28年8月27日	1960	公民館	飯沼有寿江保寿会	市谷村六郎 大塚幸 松之下隆雄 藤崎三三以以 藤崎千太郎 矢口ノ重し
昭和28年4月11日、13日	1967	公民館	飯沼有寿江保寿会、飯沼有寿江	飯沼有寿江 藤崎三三以以 市子雄 飯沼千太郎隆雄 日内島 渡部千 子内子生 三浦幸

昭和46年4月10日	1971	公衆館	動物博物館	大分県十和田 十和田 三上三三 高木三郎 佐々木孝三 佐藤 七郎目
昭和47年4月10日	1972	公衆館	動物博物館	白鳥夫人 鎌倉三太郎 藤田千太郎 佐野山 三木重
昭和48年4月10日	1973	公衆館		豊田山田孝太郎 幸三 大分県十和田 菅原信保 佐野山田 三木重
昭和49年4月10日	1977	公衆館	動物博物館	藤田千太郎 佐野山 藤田信保 安達源三郎目 佐々木孝三 佐藤 七郎目 佐野山田 永保本館蔵 藤田千太郎 佐野山 大分県十和田
昭和50年4月10日	1980	公衆館	動物博物館	

昭和32年4月11日	1962	公民館	飯坂青年会	七人より 大友記十景目 石井律城 飯嶺千太郎 笠原山	飯嶺千太郎(昭和32年4月11日公演)「五光集」大友記
				大友記十景目 石井律城 飯嶺千太郎 笠原山	
昭和34年4月11日	1966	五光館	飯坂警察交歓会	大友記十景目 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山	
平成元年4月8日	1989	五光館	飯坂警察交歓会	大友記十景目 飯嶺千太郎 笠原山 大友記十景目 飯嶺千太郎 笠原山	
				大友記十景目 飯嶺千太郎 笠原山 大友記十景目 飯嶺千太郎 笠原山	
平成3年10月18日	1991	五光館	飯坂警察交歓会	大友記十景目 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山	
				飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山	
平成5年4月11日	1993	五光館	飯坂警察交歓会	飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山	
平成10年11月28日	1998	五光館	飯坂警察交歓会	飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山	
平成16年4月14日	1997	五光館	飯坂警察交歓会	飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山 飯嶺千太郎 笠原山	

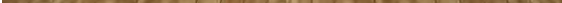
名古屋芸術短期大学					
平成15年12月14日	2003	中津川ふれあいセンター	愛知県舞芸伝承会	伝承日本舞踊 七色笛	愛知県立大学
平成16年9月24日	2004	豊田市民文化センター	愛知県舞芸伝承会	伝承日本舞踊 七色笛	豊田市立音楽文化大
平成16年9月25日	2004	五光館	愛知県舞芸伝承会	舞踊 尺八	
				舞踊 尺八 笠笛小	
平成16年9月25日	2004	豊田市民文化センター	愛知県舞芸伝承会	伝承日本舞踊 七色笛	
平成16年9月26日	2004	五光館	愛知県舞芸伝承会	舞踊 尺八 笠野山	豊田市立音楽文化大
				尺八 笠野山 笠笛小	
				舞踊 尺八 笠野山	
平成16年9月28日	2004	五光館	豊田市民文化	だんまり	愛知県音楽にてすとも歌謡祭
				梅三郎楽堂	
平成16年9月12日	2006	五光館	愛知県舞芸伝承会	角三郎楽堂	
				大沼千太郎	
				笠笛舞踊	
平成22年4月14日	2010	五光館	愛知県舞芸伝承会	笠笛舞踊	「五光館」夏の豊田音楽祭特別企画
				だんまり (伊藤雅信)	
				心亭琴楽	
平成22年9月28日	2010	五光館	豊田市民文化	舞踊	愛知県音楽にてすとも歌謡祭
平成23年3月5日	2011	五光館 岐阜県立文化センター、豊田県立会、愛知県舞芸伝承会		舞踊	
平成23年3月28日	2011	豊田市民文化センター	愛知県舞芸伝承会	心亭琴楽	

平成24年4月22日	3012	五毛雄	舞台	自由人入賞	
				美空ひばり	
平成24年5月17日	3013	五毛雄	戦国千代子とちんち	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
平成24年6月16日	3013	五毛雄		山崎つとむ成道	
平成24年6月16日	3013	五毛雄	戦国千代子とちんち	舞式三重奏	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団
平成24年7月27日	3014	歌舞団文化センター	戦国時代音楽会	芦田山	歌舞団文化センター
平成24年8月22日	3014	五毛雄	舞式三重奏	戦国千代子とちんち	
				芦田山	
				自由人入賞	
				戦国山	
平成24年8月22日	3014	五毛雄	戦国千代子とちんち	美空ひばり	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団
平成24年9月14日	3014	美空ひばりファンクラブ	美空ひばり音楽会	美空ひばり	美空ひばり音楽会
平成24年9月20日	3015	五毛雄	戦国千代子とちんち	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
平成24年9月20日	3016	五毛雄	戦国時代音楽会	戦国時代音楽会	
				自由人入賞	
				美空ひばり	
平成24年9月26日	3016	歌舞団文化センター	戦国時代音楽会	大沢十代目	歌舞団文化センター
平成24年10月16日	3016	五毛雄		大沢十代目	
				美空ひばり	
平成24年10月17日	3018	五毛雄	戦国千代子とちんち	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
				戦国山	
平成24年11月23日	3018	ダンス演習クラブ	戦国時代音楽会	美空ひばり	
平成24年12月1日	3019	五毛雄	戦国千代子とちんち	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
平成24年12月1日	3020	ダンス演習クラブ	戦国時代音楽会	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
平成24年12月1日	3020	ダンス演習クラブ	戦国時代音楽会	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
平成24年12月1日	3020	ダンス演習クラブ	戦国時代音楽会	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	
平成24年12月1日	3021	ダンス演習クラブ	戦国時代音楽会	戦国時代音楽会にて子ども歌唱団	

中村いてう丈による歌舞伎体験講座①

2021年6月26日、10月31日、恵那市山岡町出身の歌舞伎俳優で恵那市観光大使でもある中村いてう丈による歌舞伎体験講座が三郷町に残る芝居小屋「宮盛座」、及び三郷小学校で実施された。市内各地に伝わる地歌舞伎の保存伝承と後継者の育成を目的としたものである。

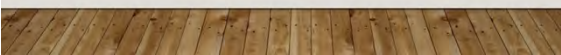
宮盛座では、市内小中学生、市内地歌舞伎保存会関係者を含む多くの市民が、三郷小学校では歌舞伎クラブのメンバーが参加し、大きな声を出しながら歌舞伎独特の見得や立ち回りの指導を受けた。講座は4回の実施と予定していたが、コロナの影響で予定変更を余儀なくされている。



中村いてう丈による歌舞伎体験講座②

A group of approximately ten children, mostly girls in white t-shirts and dark blue shorts, and a few boys in black t-shirts and dark shorts, are practicing Kabuki dance movements in a traditional Japanese dojo. They are standing in a line, facing away from the camera, with their arms raised and hands clasped in a specific pose. The dojo has a polished wooden floor and a large sliding door (shoji) in the background. A banner above the door reads '歌舞伎伝承講座' (Kabuki Inheritance Lecture). The room is dimly lit, with light coming from the side.

宮盛座における歌舞伎体験講座、小中学生が見得の指導を受けている。



東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト（教員の部屋）

自由懇談

嘉原優子（人文学部日本語日本文化学科教授）：川瀬さん、どうもありがとうございます。

川瀬健秀（岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課）：お世話になります。聞こえていますでしょうか。

嘉原：はい。聞こえます。

吉村新悟（恵那市生涯学習課文化振興係長）：ありがとうございました。嘉原先生。

嘉原：いいえ。吉村さん、ご発表、どうもありがとうございました。

嘉原：川瀬さんも初めてお目にかかります。

川瀬：こちらこそ、よろしくお願いします。

嘉原：吉村さんから、お話を伺って、こちらからも地芝居大国ぎふWEBミュージアムの件でお願いしていたこともありましたが、一度ご挨拶をしたいと思いつつ、なかなかこの状況下でお目にかかれずに申し訳ございませんでした。

川瀬：こちらこそ。ありがとうございます。吉村さんも、地芝居ミュージアムを紹介いただきまして、ありがとうございます。

吉村：ありがとうございます。初めましてですね、顔を拝見するのは。

川瀬：そうですね。実は地芝居公演のときに、ちらっとお見かけしました。

嘉原：吉村さんが、先ほど発表されていたときに、後継者の指導者の育成が必要であるとおっしゃっていて、それは、保存会の人というよりは小学校のお子さんたちに対しての指導ということで理解してよろしいのでしょうか。

吉村：そうですね。それぞれの保存会の中でその地域の指導的立場になっていく人の育成はされております。ただ、市の取り組みとしての指導者の育成ができていないのかなと思います。実際のところ、保存会を束ねる文化振興会としての役割の中では、指導的な立場である各保存会の会長が集まって情報交換をして、それぞれの保存会がレベルアップできるよう切磋琢磨しながら進めているというところまでが現状でございます。

嘉原：三郷小学校の歌舞伎クラブに（歌舞伎役者の）中村いてうさんが指導にお見えになる前に、東野歌舞伎保存会の足立伊公子さんや他の保存会のメンバーの方々がお子さんたちに白浪五人男の台詞回しを指導されていましたが、あのような活動はもう少し、あってもいいかなと思います。絶対的指導者が東濃地区にはおられますので、なかなか保存会自体で後継者を指導するというのは難しいのではないかと感じます。できる方もいらっしゃると思うのですが、それは、なさいませんよね。

吉村：師匠と呼ばれる振付師の方々が、生業として保存会を指導されています。地区によっては、三郷小学校区のように、自分たちが習ったように子どもたちを指導する保存会もあります。ただ、やはり師匠の指導あつての保存会の活動というような状況ではございます。

嘉原：そうですね。飯地の場合ですと、過去の上演演目、練習を続けてきてこれまで公演にかけたことのある演目の一覧を、団女先生からいただきまして、とても興味深く拝見いたしました。初期のうちは、三大義太夫といいますか、全体的に、しっかりめ、重めの演目が多いですね。今回の箱根霊験壁仇討は、飯地五毛座歌舞伎保存会が上演する演目としては珍しいものだったのではないかと、過去の記録を見て思いました。これが、ほかの保存

会でも、過去に遡ってそれぞれの上演演目を確認することができましたら、東濃地区の地歌舞伎がどういう演目を中心に演じられているとか、得意としているとか、この地域の嗜好にあった演目というものが、ある程度抽出できるのではないかと思います。ほかの地区の歌舞伎保存会の皆さま方の過去の記録が調べられるといいなと思っております。

吉村：ありがとうございます。そうですね、そういうものは貴重なデータになりますので残していかないとはいけませんね。これは地歌舞伎保存会に聞いたのか、獅子芝居保存会に聞いたのか、ちょっと覚えがないですが、「うちの団体は、昔はこういう演目をやっていたとか、これだけの演目ができるよ」とか、そういう話を聞いたことがあります。ただ、やはり、今は活動自体が少なくなっていますので、そこまでできるかわかりません。今の保存会ではやったことがないという演目も恐らくあると思いますので、そういうものを、師匠から習い、記録で残していかないとはいけないかもしれないですね。

嘉原：師匠の技の伝承というのは、どういうことが考えられるでしょうか。例えば、松本団升師の後、松本団女師が継がれましたけれども、今後の展開として、どなたか継がれる方がいらっしゃるのかと考えたりします。

吉村：恵那市には高女師匠がいらっしゃいますがご高齢で、地区によっては、高女師匠から指導を受けた方が保存会の指導を行っています。そういう方を後継者として育てているのではないかと思います。まだ、団女師匠はお若いですが、そういう振付師の後継者についても、きっと考えていらっしゃると思います。まだ、私も聞いたことないですけども。川瀬さん、どうですか。そのようなお話はありますか。

川瀬：そうですね、高女さんについては、直接指導されることは少ないと伺っています。お弟子さんがメインで指導をしていらっしゃることは、東野歌舞伎保存会さんにお邪魔した際に言ってみえたので、吉村さんがおっしゃるとおりかなと思います。団女さんについては、今回の飯地の場合のように、直接指導されていると思います。こ地元でどなたかお弟子さんがいらっしゃると思います。

吉村：今、岐阜県内で、「師匠」と言われる振付師の方は何人ぐらいいらっしゃるのですか。

川瀬：下呂に市川福升さんという方がいらっしゃいますが、80代だったと思います。振付師としては団女さん、高女さん、福升さんが多くの地歌舞伎団体に関わっておられます。

吉村：ありがとうございます。

嘉原：結構、重要な問題ですよ。全部の保存会を指導して回られるのも大変だと思いますし、例えば、伝統芸能大会とか勢揃い公演とか、複数の保存会が一気に集うような機会ですと、お稽古のスケジュールを組むのもとても大変そうでした。メンバーの方々もそんなに平日からお稽古ができるというわけではありませんので、週末に集中しますと、なかなかやりくりも大変だろうと思ったりしました。

吉村：師匠の指導を受けずに独自で活動する団体もあるようです。

嘉原：まだ、数少ないですよ。

吉村：そうですね。

嘉原：このコロナ禍で中止になったり、中断されたりしているものは、その後どのような感じになりそうでしょうか。例えば、中村いてうさんの歌舞伎体験講座などはいかがでしょうか。

吉村：今年度はもうこれで終了になりますが、次年度事業として5月の末に中村いてうさんの公演を文化センターの大ホールで行う計画があります。

嘉原：いてうさんご自身の公演ですか。

吉村：そうですね。

川瀬：報道発表されたら、地芝居ミュージアムのほうに掲載します。

吉村：本当に、いつもありがとうございます。

川瀬：いつも情報提供してくださって、本当に恵那市さんには感謝しております。

吉村：（中津川市出身の）市川笑三郎さんも、よく銀座の歌舞伎座のほうで出演していらっしゃいますので、岐阜県から活躍されてみえる大歌舞伎役者ということで、宣伝していただけるといいかなと思っています。

嘉原：先日も、歌舞伎座の２列目ぐらいで見ていたのですが、幕が開いたらいてうさんがいらして、「あ！」と大歌舞伎を一層身近に感じました。

吉村：そうでしたか、ありがとうございます。

嘉原：お忙しそうですね。

吉村：そうですね。

嘉原：今回、飯地五毛座歌舞伎が指導を受けて公演にかけた演目、箱根霊験甕仇討が過去にどれだけ大歌舞伎で演じられているか、歌舞伎座で売られている筋書に掲載されていた上演記録一覧で確認したところでは２例でした。１例は昭和２５年でして、もう１例の最近のものは、平成３０年１月、中村一門によるものでした。七之助さんが初花を、勘九郎さんが勝五郎を演じられていて、その時は、まだこのプロジェクトも始まっておりませんで、たまたま観ておりまして、「珍しい演目だな」というふうに思っていたのです。しかし、後々考えますと、いてうさん経由で、つまり恵那発信で、久しぶりに掛けられたのではないかと、大歌舞伎のほうはずっと上演されていないけれども、やってみようということになったのではないかと推測しまして、そういう方向性もあると面白いかなと思った次第です。そうした経路が明らかになると、中央ではもうあまり演じられていないけれども、東濃地区ではいまだに演じられている演目があるということが、一つの価値になっていくかと思うのです。大歌舞伎では、もう見られないけれども、やってみると「面白いぞ」というものが幾つもあるのではないかなと思ひまして、過去にこの地域で上演されたものを調べる必要性をひしひしと感じています。

川瀬：先生がおっしゃるように、例えば、かつて大歌舞伎でやられていたものが、岐阜県ではまだ残っていると聞き及んでいます。具体的にはどのような演目が存じ上げませんが、県内での専攻研究では（岐阜女子大学教授の）丸山幸太郎先生の研究があります。

嘉原：そうなのですね。

川瀬：実際にどのような演目が残っているかを中部大学さんのプロジェクトで、やっていただけると助かります。県のアーカイブはまだ制作途中で、提供があった有形の資料を載せている段階です。中部大学さんには違う切り口でアーカイブに取り組んでいただけると心強いです。

嘉原：大学のほうといたしましても、恵那に宿泊研修施設——セミナーハウス——があるということもありまして、SDGs 達成を柱とした研究を恵那中心に進めていこうという動きが出ております。ぜひ、いろいろ教えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。地歌舞伎のWEBミュージアムはこれ以上することがあるのかと思うぐらい充実し

たものですね。どなたが、あれを企画して、作成されたりコンテンツなどを集められたりしたのでしょいか。

川瀬：コロナ禍で公演や練習ができなくなったため、WEB 上で地芝居情報を発信して、地芝居の火を絶やさないようにしようとした取組みがきっかけです。本 WEB サイトはプロポーザルで構築しましたが、前任の民俗担当職員が各市町村さんや協議会さん、保存会さんにご協力をお願いして、とりまとめ、半年で構築することができました。

嘉原：そうなのですね。

川瀬：そのため、まだまだ足りない部分が多くあります。衣裳等のアーカイブ化も今後提供いただける保存会さんがあれば掲載していきたいと思っております。360° VR 芝居小屋はまだ4館ですので、引き続き撮影を進めて参ります。また、今のところ地歌舞伎の比重が高く、文楽・能、獅子芝居のコンテンツが少ない状態ですので、そういったところも強化していきたいと思っております。SNS は、Twitter、Facebook、Instagram を運用していますが、それぞれ特徴があり、Instagram は徳島の人形浄瑠璃系の方のフォローが多いためか、真桑文楽に関する興味関心が高い傾向があります。Twitter では伏屋獅子舞を掲載したときにアクセスが増えました。岐南町さんは伏屋獅子舞に熱心で、YouTube チャンネルやぎふチャンで特集が放送されています。

吉村：そういうところは、岐南町図書館の伊藤館長さんが取り組んでいる感じですか。

川瀬：YouTube やぎふチャンは総務課が窓口になっていました。

吉村：広報担当のようなところですね。

川瀬：そうですね。地芝居 WEB に掲載する際も総務課さんに許可をいただきました。

() 内＝編集者の追記

東濃の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト 2021年活動成果



東濃の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト
2021年活動成果

柳谷啓子 (人文学部コミュニケーション学科 教授)
安永知加子 (国際人間学研究所言語文化専攻 2年)
荒川杏葉 (人文学部コミュニケーション学科 4年)

目的と活動

そこで、実演者・地域住民・保存会等、撮影・編集・デジタル化・メタデータ付与の専門的知識がない素人でも、**蓄積・維持・活用**できるデジタルアーカイブを考案、制作を目指す

2021年度の活動：

- 飯地五毛座歌舞伎関連映像・資料収集
- 飯地五毛座芝居稽古の記録映像撮影
- 中村いてう氏「歌舞伎体験講座」撮影
- 三郷小歌舞伎クラブ稽古・発表会撮影
- 上記稽古風景を恵那CATVで放映

目的と背景

伝統芸能を地域の記憶として保存・継承したい

- しかし、よくあるアーカイブの問題点が……
 - 資金が続かず業者依存ができない
 - 専門知識がないと運営が困難
 - 著作権・プライバシーの問題…など

媒体の収集

五毛座歌舞伎保存会を通じて、飯地全戸にチラシを配布

収集した媒体はデジタル化後に返却

収集対象
五毛座歌舞伎にまつわるもの
(写真/動画/音声/資料など)

現時点で映像は合計167点のデジタル化を完了




収集映像の記録例

No.	映像内容	収録時間	備考
1	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
2	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
3	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
4	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
5	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
6	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
7	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
8	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
9	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
10	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
11	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
12	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
13	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
14	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
15	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
16	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
17	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
18	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
19	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
20	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
21	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
22	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
23	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
24	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
25	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
26	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
27	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
28	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
29	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
30	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
31	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
32	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
33	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
34	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
35	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
36	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
37	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
38	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
39	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
40	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
41	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
42	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
43	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
44	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
45	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
46	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
47	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
48	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
49	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
50	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
51	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
52	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
53	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
54	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
55	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
56	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
57	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
58	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
59	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
60	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
61	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
62	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
63	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
64	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
65	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
66	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
67	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
68	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
69	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
70	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
71	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
72	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
73	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
74	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
75	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
76	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
77	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
78	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
79	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
80	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
81	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
82	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
83	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
84	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
85	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
86	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
87	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
88	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
89	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
90	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
91	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
92	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
93	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
94	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
95	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
96	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
97	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
98	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
99	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録
100	飯地五毛座歌舞伎保存会 保存会活動の様子	00:01:00	保存会の活動の様子を記録

手書きのラベル・旧字体
→ 解説が難しいものも
歌舞伎に関係ないものも
(親戚の結婚式記録など)

媒体の収集

書き込みのある台本など → 上演回/時期による比較

稽古風景の映像や画像 → 過程や文化風俗の記録

広報物 (ポスター・興行チラシ) → 宣伝媒体やデザインの遷移

芝居小屋図面・興行許可証など → 時代背景の記録




ドキュメンタリーの制作

歌舞伎役者中村いてう氏指導による「歌舞伎体験講座」(恵那市文化振興会・市教育委員会主催)の記録




ドキュメンタリーの制作

中村いてう氏指導による恵那市立三郷小学校歌舞伎クラブの白浪五人男稽古風景を撮影・編集、CATVに提供。発表会当日も撮影、遠隔講評会に活用




東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト（学生の部屋）

自由懇談

永田典子（中部大学人文学部日本語日本文化学科教授）：荒川さん、どうも参加していただきありがとうございます。

荒川杏菜（中部大学人文学部コミュニケーション学科4年）：はい、ありがとうございます。

永田：三郷小学校で、いろいろインタビューされたのは、あなたでしたか。

荒川：そうです。

永田：iPad でいろいろメモされていたでしょう。

荒川：メモしていました。先生のほうに、メールさせていただきます。

永田：はい、よろしくお願いします。それを今回の報告書に、使わせていただきます。荒川さんからの提供ということで。私たちは、今、恵那で地芝居を記録しているということで荒川さんもそれに携わってもらっているわけですが、そういう経験から、何かこういうふうにしたらいいいというようなご提言はありますか。

荒川：そうですね。私卒業研究で、恵那の地歌舞伎を取り上げさせていただきまして。私が飯地町の地歌舞伎保存会の方々から収集した映像のデータや、あと、台本のデータなどを後世に残していくためにアーカイブしていく、アーカイブサイトの提案を卒業研究でさせていただきました。

永田：論文読ませていただいていたいいですか。

荒川：それは大丈夫です。

永田：荒川さんの論文を読ませていただくということでよろしいですか。

柳谷啓子（中部大学人文学部コミュニケーション学科教授）：はい。もちろん。

永田：アーカイブのことに関係して、何かご提言をということで、なんか既に論文に書いたということなので。

荒川：そうです。実際にデジタルアーカイブを作ったりとかはできないのですが、デザインであったり、必要な機能、メタデータの部分に関して、論文で提案をさせていただいています。

永田：作業の面ではどうでしたか。やはり、その場で聞き取り調査をするよりは、改めてゆっくり聞けるような場を設けたほうが、いいでしょうかね。

荒川：そうですね。場としては、例えば、今回取材した、松本団女師匠などは、結構重要な人物として後日時間を取って長く時間をいただけると、やはりインタビューの質が上がると思うので、できるものなら時間をかけたほうがいいと思います。

永田：今回、両方できたからよかったですね。

荒川：そうですね。ただ、やはり市民の方、例えば飯地町の保存会の方々にお話を伺うという点でいうと、別に時間を取っていただくというよりも、皆さんいらっしゃる場でお聞きしたほうが、雰囲気も分かるといいますか、雰囲気というものも記録することができていいという面もあると思います。

永田：先ほどの恵那の吉村さんのお話では、やはり後継者の育成ということを非常に重視されている。そうなると、三郷小学校のように、小学校のクラブ活動でやっていくというのは、非常に有効だと思うのですが、子どもたちの反応は、どういうふうに思いましたか。あそこでもいろいろとインタビューしていましたが。

荒川：子どもたちの印象としては、歌舞伎をやっているということに対して恥ずかしさを持っているとかいうところが全然なくて、むしろ、ちょっと誇りを持ってやっているなど感じました。ただ、三郷小学校の場合、地域の歌舞伎保存会がないという状況があって、子どもたちも、今後も歌舞伎をやっていきたいですかという質問に対しても、学校以外の場に、他地域では歌舞伎保存会というものがあるということ自体を知らないような感じでした。

永田：そうですね。

荒川：ですから、そこを知っていたら、うまく歌舞伎保存会に若い子どもたちをつないでいける可能性はあると思いました。そこが、すぐくもったいないなと思って。

永田：そうですね、お孫さんを見に来られていたおじいちゃんがいらっしゃいましたが、おじいちゃん自身は、歌舞伎の経験がないということだったので、孫の活躍を見にきたいということでしょうね。地域の経験者の子どもなり、孫なりが、そういうふうなところでつながっていくといいですよ。

荒川：そうですね。私の地元で、父が和太鼓の保存会の会長をしております。三河のほうに実家があるのですが。

永田：三河のどちら。

荒川：西尾市の海に近い一色町です。

永田：大提灯ですね。

荒川：そうですね、大提灯がある、あのあたりは和太鼓が結構盛んなのですが、地元のほうで父が保存会の会長をしています。私も、本当に小さいころから父に連れられて知らぬ間に和太鼓に参加していたという経験があります。やはり、参加している人の子どもなどから参加して行って、さらにその子が友達を誘って、その友達が親子で参加してくれたり、だんだん若い人も集まっていったり、といった具合です。私が参加していた頃は、小学生が普通に15人ぐらいいて、結構小さい子も多くて、中学生、高校生、社会人の20代とかもちろはらいました。そういうふうに親子関係からだ、小学生などは参加しやすいのかなとは思います。

永田：地域にどれだけ浸透しているかというようなこともありますね。やはり学校教育の中だけでやっていると、子どもはそこだけの世界で終わってしまうということがあると思うのです。今回、取材されてケーブルテレビに出ましたよね、子どもたち。その反応って、何か聞いていますか。

荒川：テレビに出た反応は特に。そんなにすごいことだと言っていたということはないです。

永田：あれがひとつのきっかけになって、より誇りを持って、自慢してやっていってくれると、いろいろな小学校で、取材をしていくというのも有効かも分かりませんね。

荒川：そうですね、それは確かにそうかもしれないです。

永田：今の子って、あまり恥ずかしがらないわね。

荒川：そうですね、

永田：川村さん。何かご意見、ご感想ありますでしょうか。

川村真也（中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員）：僕は愛知県へ来て4年ぐらいなのですが、東濃地域で地歌舞伎が昔から脈々と受け継がれていて、劇場がたくさんあって、また存続しているという事実に変に驚いたんですよ。11月に、ちょっと加子母に行くことがあって。

永田：行かれましたか、あの寒い時期に。

川村：はい、プロジェクトで寒いときに行ったのです。そのときに加子母の明治座へ行ったのですが、そこに案内してくれた方が、やはり、中学生か小学生のときに、舞台に立って、いろいろ役者さんと一緒に歌った思い出なんかを語ってくれたのです。そのような形で地域の子どもをいかに巻き込んで、歌舞伎というものに興味を持ってもらうかという事は、持続可能を考える上では、大変重要なのではないかと感じました。

永田：そうですね。幼いときの、そういう経験って、やっぱり重要ですね。

川村：ええ。山車祭なんかも同じだと思うのですが。地歌舞伎も、そういう部分がとても大事なのではないかと思います。それで、ちなみに東濃地域では、そういう形でたくさん劇場が存続していて、歌舞伎が定期的に上演されていると思うのですが、東濃地域の中での歌舞伎場とか、歌舞伎に関わる人たちのネットワークとかいうものは、盛んに交流は行われていたりするのでしょうか。そのあたりは卒論ではどうでしたか。

永田：荒川さん、分かりますか。

荒川：私は、恵那の飯地の保存会の方のデータを今回対象としてしまったので、東濃地方全体というと、多分、私よりも永田先生や柳谷先生のほうが詳しいかと思います。

柳谷：基本的に、恵那市伝統芸能大会で、保存会同士の付き合いがあるということと、それから、このコロナ禍で救済措置的に行われた、ぎふ清流文化プラザでの「清流の国ぎふ地歌舞伎勢揃い公演」で各保存会が順番に上演を行ったことで繋がったところがあるのではないかと思います。時期によっては無観客上演でしたが、上演記録の映像は全て YouTube 上で公開されました。結構、オンラインだったからこそそのつながりというものもあったというふうに聞いています。あとは、それぞれのつながりってあまりないような気がします。お師匠さんの関係とかで、ちょっと難しい問題がいろいろあるのですよね、きっと、永田先生。

永田：はい。それと、開催日が近いと、練習で他地域の保存会の公演には行けないとか、意外と東濃と一括りにしても、地域的には随分広くて互いに離れていますものね、距離的に。

川村：そうですね。

柳谷：そうですね。大体、うちとお隣の祭はいつも同じ時期だからあっちの祭には行ったことがない。何十年住んでいるけど一回も行ったことがないとか、それと同じ現象が起きるみたいではありますね。

永田：そういうことがあるかも分かりませんから、今回のように、YouTube なりで配信されたのが見られるのはよかったかも分かりません。

柳谷：画期的だと思います。

永田：そうですね。

柳谷：ただ、最初に五毛座の保存会から預かってきたビデオテープの中には、串原村の文化祭での串原歌舞伎の公演のものがありましたね。

永田：入っていました。

柳谷：定期公演のものがたくさん入っていました。

永田：そうですね、地元よりは、どこかに見に行ったところの記録をしておくということかもしれませんね。

柳谷：そうなのかもしれないですね。

川村：そうですね、デジタルコンテンツで残して、その地域以外の人たちに情報発信するということは、僕もすごく大事だなと思っていました。僕の趣味の一つにオペラ鑑賞というのがあるのですが。

柳谷：それはまた高尚なご趣味で。

川村：高尚かどうかは分かりませんが、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場が盛んに、オペラを世界に発信しているのですよね。それで、メリットとしては、日本で上映しないような、とてもマニアックなオペラも見られたりするのです。例を挙げると、フィリップ・グラスの『サチャグラハ』とか、『アクナーテン』とか、現代音楽で、作曲者も存命しているのですが、とてもマニアックなオペラで。あと、ニューヨークが進んでいると思うのは、僕よりも若い作曲家の最新のオペラなんかも積極的に取り上げて、それを世界に発信しているのです。ですから、芸術をコンテンツ化する作業は、歌舞伎に地域の人たちが関心を寄せて、歌舞伎と出会うきっかけになったりするのにも役立つと思いますし、恵那という地域を、日本全体ないしは、日本文化に関心のある世界の人たち全体に向けて、発信するということもつながると思いますので、動画コンテンツというものを、今後もう少し伸ばし、地域全体でもう少しつながりを持って、東濃地域として何かまとまりのあるコンテンツの発信のようなものも、今後必要なかなというふうに考えています。

柳谷：岐阜県は結構やっているのですよね。岐阜県として、外国人向けの地歌舞伎パンフレットとか、外国人向けの歌舞伎鑑賞ツアー、そういうものを積極的に募集している。この間、別のSDGs絵本プロジェクトで地歌舞伎実践者の方に読み聞かせの講師をお願いしたのですが、その方なんかは、そうしたツアーのコンダクターとして、外国人の方々を案内しているとおっしゃっていました。ただ、あまり近い隣というのは、もしかすると、ちょっとしたライバル意識とかがあったりする可能性はあるかなという感じはありますね。

永田：インバウンドのことも重要ではありますが、意外と春日井の人は東濃の地芝居を知らないのではないかということがあります。地芝居というのは。内津峠を越えて、すぐのところにあるような文化だということに、あまり触れる機会がないということもあって。せっかく中部大学がこんなに東濃に関わっているのだったら、東濃を今度は春日井なり名古屋に紹介するようなことをしていくといいのではないかと思います。

柳谷：そうですね。

永田：蓑島さん、なにかご意見ありますか。

柳谷：恵那ネイティブとしては。

蓑島智子（中部大学国際・地域推進部地域連携課長）：いつもお世話になっています。東濃を春日井などにご紹介いただけるというのは、すごくいいと思いますし、恵那市民であっても、なかなか地元のそういう文化については、興味を持たないと知らない人も多い気がします。

永田：そうですね。

蓑島：こんなに素晴らしい文化が地元にはあるのだということを恵那市民自身が知って、それらに参加したり、発信したりすることに繋がるといいですね。先生がたや学生さんのこうした活動が見えることによって、市民に刺激を与えていただいて、モチベーションを高められるのではないかと、恵那市民としても感じています。ありがとうございます。

永田：名古屋の知り合いが、よく岩村に行くことがあるのです。

柳谷：そうですか。

永田：お酒目当てに行くというのです。

柳谷：「女城主」ね。

川村：私も行ったことがあるのですが、大変楽しいですね。

柳谷：そうですね、私も岩村には四季折々に行きます。

永田：だから、日帰りで十分行き来できるところの人たちが、割と頻繁に来てくれるような、そういう魅力を発信できたらいいかなのと思うのです。それこそ、明治村や、リトルワールドに行くと、民俗衣装を着たりできるというように。だから、先ほどお話がありました歌舞伎のお化粧なり、衣装なりを簡単に着て「映える」写真が撮れるような、そういうのもあると、愛知県ほうからも県境を越えて来るのではないかなと思うのです。

柳谷：そうですね。

川村：加子母の明治座は、衣装を自由に着て、写真を撮れるようでした。

永田：そうですね。

川村：今流行りの、鬼滅の刃の炭治郎。

永田：そうですね。写真館行けばありますよ。あれを着て子どもの記念撮影をする。

柳谷：市松模様のあれを着たがるのですよね、子どもは。

永田：割と大正ロマン的なところが、今アニメでもいろいろとあるものですから、若い人は、古いものというのをそんなに毛嫌いしているわけではないですね。割と興味を持っているところがあると思うのですね。

柳谷：Z世代の特徴として、レトロを好むという点があるので、あちこちで最近はレトロブームで、昔のものをリバイバルしてやっていますよね。例えば、そういう流れにうまく乗せれば、地歌舞伎などに興味を持つ学生もいると思いますね。

永田：どこかの保存会の方に相談して、大学でワークショップやってもいいかなと思っています。うちの学科でやってもいいかなというのもあるのですが、人文学部でやってもいいと思いますし。協定を結んでいる東濃の各市と記念行事を行うという件は、どうなのでしょう、蓑島さん。

蓑島：地域連携センターとしても、そのようなことを行おうという方針は出ているのですが、コロナ禍でなかなか具体的な計画に至っていないのが現状です。

永田：一市ごとに毎月なにかやるとか。

蓑島：やってもいいですね。そういった地芝居みたいなものとか。

永田：食べ物でもいいですし。

蓑島：そうですね。五平餅をキャンパスに持ってきてもらって、いろいろな五平餅を楽しんでもらうとか。

柳谷：それ、いいじゃないですか。

永田：楽しい。

蓑島：学内で楽しんでもらえたら、恵那市の方もちょっといいねとか、おっしゃってくださいたりもして。

永田：移動車ってあるのでしょうかね。

蓑島：移動車はあると以前聞いたことはあります。ところで、柳谷先生もご存じだと思うのですが、ここ数日の話で、JTBさんから、中学生向けに旅行のツアーの企画で大学生に協力し

てもらえないかというお話があって、例えば、中部大学のキャンパスツアーも含めながら近隣の町を案内するというようなことができないかと。京都や、東京などの大学もそのような企画をしているということです。JTB とコラボして、東濃の地歌舞伎なども入れたツアーを学生さんが考えると楽しそうだなと。

柳谷：そうですね。あの件は、私も地歌舞伎にいいなと思って、詳しいお話を伺おうと思っているのですが、中部大学を通り道にしないといけないところが、ちょっと狭まるかなという感じはありますね。せっかくだから、オープンキャンパスばかりに学内案内もして、それとセットでというのは、いい考えなのですが。京都などでは、どこの大学も観光地に近いわけなので、すごくやりやすいですよ。サンプルで見ていただいた企画では、立命館大学とか、自分のキャンパスの隣に名所があったりします。だから、セットでできるけれど、春日井市の中部大学とセットでというと、どこになるのですかねという感じで。なかなか難しいものがあるなど感じます。

蓑島：ここを拠点に、東濃に連れて行くとか。

柳谷：そうですね。東濃だったら、1 時間でいくわけだから大丈夫ですかね。

永田：そうですね、そういうのも面白いですよ、大学生が企画するツアー。やはり若い人の視線で、いろいろやってみるというのがいいのかも分かりませんよね。

() 内＝編集者の追記

国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光2021年度
(於：中部大学不言実館2階)

2022年2月18日(金)
ポスター発表
古川穂高
小林玲奈
岡野七海
小嶋翔葉
末田智樹

飛騨高山の歴史観光都市としての
伝統を支える人々が暮らす社会空間
研究プロジェクト

**コロナ禍における歴史文化観光地域の現状
—高山市と犬山・郡上市の城下町—**

目次

- 【1】高山城下町の観光の現状
- 【2】犬山城下町の観光の現状
- 【3】郡上城下町の観光の現状
- 【4】高山・犬山・郡上城下町の観光比較と高山の特色
- 【5】高山市における持続可能な社会実現のための取り組み
- 【6】まとめ

写真1 犬山城下町 (小林さん、古川君)

写真2 高山市役所 (古川君・小嶋さん・岡野さん)

【1】高山城下町の観光の現状 ①高山市の観光概要

●四季ごとのイベント展開による観光

春
Ex. 春の高山祭 (山王春)
春の宮川中橋及び江名子川のライトアップ
飛騨高山手筒花火大会

夏
Ex. 夏の宮川中橋ライトアップ
飛騨高山手筒花火大会

秋
Ex. 秋の高山祭 (八幡祭)
紅葉ライトアップ
飛騨往川新そばまつり

冬
EX. 冬のライトアップ
飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり
飛騨大鱈汁の湯谷

●地域資源を活用した観光

荘川桜、新徳高ロープウェイ、乗鞍スカイライン、古い街並、奥飛騨温泉郷せせらぎ街道、高山ラーメン、飛騨の家具など...

写真5 高山駅構内の飛騨の家具展示

写真6 高山ラーメン

写真7 高山市三町伝統的建造物群保存地区

→飛騨高山ブランドの確立を目指す
≪ブランドコンセプト≫
"飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物それが「飛騨高山ブランド」"

②コロナ禍における国内誘客と海外誘客

2020年(令和2)3月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって国内外共に観光入込客数の減少

●国内誘客・・・感染症防止対策と観光需要の回復
近隣エリアからの誘客、SNSなどを活用した誘致

写真8・9 コロナ対策に取り組む高山三町の様子

写真10・11 多言語併記案内板

●海外誘客・・・感染症収束後に向けた取り組み
1986年(昭和61)国際観光モデル地区に指定
→多言語パンフレットの配布、多言語併記案内板の設置、コロナ収束後の積極的な観光客誘致
→オンライン広告の展開、積極的なSNSでの配信

写真12 多言語ホームページ(英語、中国語、タイ語)

③高山市と松本市の広域観光への取り組み

(1) 姉妹都市提携50周年
提携年月日：1971年(昭和46)11月1日

(2) 松本高山Big Bridge構想
松本市と高山市を繋ぐ横断ルートで一体となった、動線の磨き上げ

(3) 中部縦貫自動車道の充実
中部縦貫自動車道松本市～福井市の高規格幹線道路
→広域交通網の整備による広域観光の充実
→道路計画アンケートの設置

写真14 高山遺飛バスセンターのバス路線案内板

写真15 高山遺飛バスセンターに設置された道路アンケート

④「二十四日市」の開催状況
～冬の風物詩～

図3 商店街の位置図：Googleマップに加重

(1) コロナ禍での開催状況
→2021・22年は歩行者天国にせずに規模縮小して開催、飲食店の出店中止
→明治初期から続く伝統の市
→宮笠・有道しゃくし・小屋名しょうけ

(2) 伝統工芸品の販売
→写真18・19

(3) コロナ禍以前と現在
→写真20～23

写真16 大売り出しの広告

写真17 賑わっている様子

写真18 宮笠と有道しゃくし

写真19 小屋名しょうけ

写真20・21 2020年1月24日

写真22・23 2022年1月24日

⑤商店街の状況(本町一～四丁目・国分寺通り・安川通り)

図4 商店街の位置図：Googleマップに加重

(1) 各店舗の感染防止対策
→写真24・25・26

(2) 魅力発信のポスター
→写真27・28

(3) 賑わい創出空間の整備
→写真29・30・31

写真24 マスク着用の広告

写真25 休業のお知らせ

写真26 店舗にて消毒液設置

写真27 魅力案内の広告

写真28 FREE WiFiの案内

写真29 賑わい創出空間整備工事の立看板

写真30 整備工事の様子

写真31 完成予想図

⑥冬の高山のイベント

●地図内の数字はイベントの数

●現地の状況
(1) 感染拡大による観光客減少
(2) 祭事・イベントの中止、縮小
(3) 雪の状況と除雪の必要性

図5 (2021年12月～2022年3月、地域別イベント数)

○冬の高山におけるイベントの傾向
(1) 市域に存在する「雪」という観光資源の活用
(2) 歴史、文化、自然など地域特性にあわせた企画
(3) 三町を中心とする市街地エリアのイベント充実、ライトアップによる宿泊客の取り込み

写真32 2021年10月の様子

写真33 2022年1月の様子

写真34 博物館イベント中止

写真35 商店街イベント中止

写真36 ピックルでの除雪作業

写真37 雪の高山市街地

⑦飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり

・「飛騨高山酒蔵のん」1冊3,000円(税込)・新念杯・エコバック付き
→2種類の試飲、スタンプラリー、今回は限定2,200セット
・2020年から3年目・1年目→約2,400人の参加
→2年目→約1,160人の参加

・2022年は当初、1月28日(金)～3月6日(日)で開催予定
→1月21日(金)から岐阜県のまん延防止等重点措置の適用地域
→2月14日(月)～3月6日(日)に延期・再延長の3月7日(月)～27日

・「酒蔵めぐり」(無料イベント)から変更
→6つの蔵から7つの蔵へ
→2020・21年：飛騨高山7蔵のん兵衛まつり
→2020年：第8回12蔵・飛騨の蔵元勢ぞろい
→「ワカ酒スペシャル 飛騨酒蔵めぐり」
(2020年12月29・30日放映)：ロケ地巡礼

・平瀬酒造・地酒5種類の試飲付き
→飛騨高山の銘酒「久寿玉」酒蔵ツアー
要予約・2021年12月1日～翌年3月31日
→「JRで行く冬の飛騨路・ずらし旅」
選べる体験
パンフに掲載
・昇龍道日本路酒道
酒蔵体験：酒の広域観光

写真38 高山駅での広告
飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり

写真39 二木酒造

写真40 飛騨酒造組合

写真41 平田酒造場

写真42 原田酒造場

写真43 老田酒造店

【2】犬山城下町の観光の現状 ①愛知県の観光の概要

(1)車でアクセスがよく、様々な体験が出来る施設
Ex.中部国際空港、デンパーク、鞍ヶ池公園

(2)多様な博物館施設
Ex.東山動物園、トヨタ産業技術記念館

(3)歴史文化を活かした観光地域
Ex.熱田神宮、犬山、豊川稲荷など

図6 2020年愛知県観光客利用上位の10施設

写真44 デンパーク 写真45 モントレアの商業施設

写真46 犬山城 写真47 豊川稲荷

②犬山城下町の観光の現状

○現地の状況

- ・コロナ禍でも、多数の地域から観光客が訪問。
- ・全体的には県内が多く、なかでも尾張地域が多数。
- ・三河の割合も高い。
- ・また、隣接する岐阜県からの訪問客も多い。
- ・東海3県以外では、関東圏が多数。

写真48 コロナ対策用アルコール 写真49 2021年11月28日の調査地の賑わい

図7 2021年11月28日(日)のナンバープレート分布図

○犬山城下町の観光の特色

(1)大都市からの良好なアクセスと鉄道会社による観光地としての開発

(2)城下町を中心に、犬山城を周る観光ルート

(3)城下町内では本町通という単一の観光軸

写真50 県独自の観光振興策 写真51 本町以外の城下町の様子

【3】郡上城下町の観光の現状 ①岐阜県の観光の概要

(1)歴史文化を活かした観光
Ex.郡上、高山、白川郷合掌造り集落

(2)他地域と連携した広域観光
Ex.岐阜+富山、岐阜+長野、岐阜+福井

(3)豊かな自然を活かした観光
Ex.モネの池、温泉と山岳地帯

図8 2020年岐阜県観光客利用上位の10施設

写真52 郡上市街地 写真53 高山三町

写真54 モネの池 写真55 岐阜と長野県境の焼店

②郡上城下町の歴史と特色

(1)城下町「郡上八幡」>歴史遺産

(2)郡上八幡の「水空間」>自然環境

(3)伝統文化としての「郡上おどり」>伝統文化

→持続可能な四季を通じた観光地域

写真56 宗紙水(名水百選) 写真57 清流吉田川

写真58 郡上八幡城 写真59 郡上八幡城上町みどころ案内板

写真60 重要伝統的建造物群保存地区 写真61 郡上八幡での観光客 写真62 長良川支流(吉田川)

写真63・64 郡上八幡博物館 郡上おどりミュージアム

③郡上城下町の観光の現状

○現地の状況

- ・岐阜県内からの観光客が中心だが、北陸からの観光客が多くみられる。
- ・一方、関東圏からの観光客は多くない。
- ・電車利用の少なさ。
- ・城下町内の観光の軸は複数存在。

写真65・66 郡上八幡駅の利用者は少なく、駅前には土産物店等はない

写真67 観光の中心、郡上八幡城 写真68 史跡は周辺の山中にも点在

○郡上城下町の観光の特色

(1)八幡城を中心に城下町も周る観光ルート

(2)川や山など、豊かな自然と歴史文化の共存

(3)明宝地域など他地域との広域観光

図9 2021年11月13日(土)のナンバープレート分布図

【4】高山・犬山・郡上城下町の観光比較と高山の特色

表1 3つの城下町観光地の比較

	高山城下町	犬山城下町	郡上城下町
主要観光地	・城下町全域	・犬山城・本町通り	・郡上八幡城・城下町
主要イベント	・市内全域で盛んだが、三町での開催が多数	・雪、歴史文化を活かすものが中心	・城下町以外で雪を活かしたイベント
祭り	・春と秋の高山祭り	・春に行われる犬山祭り	・夏の郡上祭り
古い町並み	・町人地を中心に保存されてきた重伝建	・江戸時代から残る町割り	・吉田川沿いの町並みと重伝建
豊かな自然	・三町を流れる富田川、四季折々の変化を見せる城山	・近隣の焼店川、木曾川	・城下町を流れる吉田川、付近の山々
地域固有の特色	・岐阜県内外の地域との連携、さるばるコイン	・名古屋鉄道との連携	・下谷など岐阜県内他地域との連携
観光客の特色	・岐阜県内、県外を問わず多様な地域からの訪問	・愛知県内中心、関東も多い	・岐阜県内を中心に北陸との結びつき
宿泊の有無	・宿泊中心	・日帰り中心、ホテルも有名	・下谷で宿泊する事例もあり
アクセス方法	・バス、電車など多様	・自動車中心、電車利用も盛ん	・自動車中心

○持続可能という観点からの高山観光の特色

(1)年間を通じて観光資源が豊富で多様→観光施設へのリピーター獲得

(2)「さるばるコイン」による観光客の消費が地域に還元される仕組み
⇒地域内産業の活性化、地域住民の生活向上による地域の存続

(3)住民と地域が一体となった観光への取り組み
Ex.食蔵機関による観光業支援、農協と農家が共同で行う特産物の開発

写真69 コイン交換機

【5】高山市における持続可能な社会実現のための取り組み

○地域存続のための取り組み

(1)移住促進による地域人口増加のための取り組み

- ・滞在型市民農園施設(クラインガルテン)による農業体験

(2)若者に地域にとどまってもらうための取り組み

- ・飛騨高山大学(2024年4月開学予定)、住みやすい街づくり

(3)産業振興による地域の活性化と就労人口増加

- ・高山ブランドの創出と魅力向上、産学金官連携の促進と創業支援

○高山市におけるSDGsの取り組み～2030年のあるべき姿～

(1)地域特性を活かした産業が活性化し、賑わいと魅力にふれる街

- ・酒・味噌の醸造、木工工芸品の製作と販売、観光業

(2)歴史と伝統が継承され、郷土への誇りと愛着が持てる街

- ・高山祭りの継承、三町重伝建の保全活動、シビックプライドの養成

(3)自然がもたらす多様な恵みを活かすとともに、脱炭素社会に貢献する街

- ・森と木にかかわる人材育成、地域にある木質資源の活用

⇒地域を存続し発展させる高山・観光戦略もその一環

写真70 道徳の1つ、飛騨高山組合同 写真71 地域に根ざす史跡 飛騨高山分庁 (旧史跡、本堂国重文、三重塔県重文)

写真72 味噌の醸造・販売店

【6】まとめ

①コロナ禍における歴史文化観光地域の現状

(1)2021年10～12月コロナ禍前の盛況

(2)各地・各店舗のできる限りの感染防止対策

(3)団体客・外国人観光客(客単価)の減少

②日本における観光のモデル都市「高山市」

(1)四季を通じて観光イベント・冬の観光イベントに注目

(2)観光地域と隣接地域(商店街)との連携

(3)広域観光の中心地・ノウハウの提供

③国際観光都市「高山市」においても様々な問題?優位性のみならず
→持続可能な観光(振興・発展)にとってデメリットの解決が重要

主要参考文献

(1)『飛騨高山 明治・大正・昭和史』飛騨・高山 大正三百年記念事業推進協議会、1992年

(2)高山市観光振興推進協議会編『高山市観光振興計画(第2期)』高山市、2015年

(3)高山市観光振興推進協議会編『高山市観光振興計画(第3期)』高山市、2019年

(4)高山市観光振興推進協議会編『持続可能な観光のあり方を考える高山市をのぞいて』高山市、2019年

(5)『高山市観光振興計画(第4期)』高山市観光振興推進協議会、2021年

(6)『高山市観光振興計画(第5期)』高山市観光振興推進協議会、2021年

(7)足立和典「歴史文化観光を主とする観光地のあり方について」『観光研究』2010年

(8)高橋「二つの観光地をめぐって」『観光研究』2010年

(9)『あつちのまちをたずねて』高山市観光振興推進協議会、2019年

(10)『高山市観光振興計画(第6期)』高山市観光振興推進協議会、2021年

(11)高山市観光振興推進協議会編『高山市観光振興計画(第7期)』高山市、2021年

(12)高山市「第2期観光振興計画(第2期)平成25年度～平成27年度」(最終版)2022年2月14日

(13)高山市「高山市観光振興計画(第8期)令和2年度～令和4年度」(最終版)2022年2月14日

写真73 飛騨高山市の博物館 写真74 大正屋古街門

写真75 歴史地理学の参加学生 古川君・岡野さん・小林さん、小嶋さん

飛騨高山の歴史観光都市としての伝統を支える人々が暮らす社会空間研究プロジェクト 自由懇談

古澤礼太（中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授・中部 ESD 拠点事務局長）：大変素晴らしい発表で、びっくりしております。というのは、私が不勉強で知らなかったのですが、中部大学と高山市の連携関係があるのに、こういう活動がなぜ表に出てきていないのかということに、少し驚いています。本題に入る前に、お聞きしたいのですが、高山学会というのがあるって、いろんな大学生が発表していたのですが、それは、まだ参加はされたことはありますか。

古川：私たちは高山学会といったものに参加はしたことはないです。

古澤：皆さんは4年生ということなので、機会もないかもしれませんが、また、そういうところに出ていくといいですよと思ったのが一つ。あと、酒蔵まつりが今年は開催されることですが、歩いてどれくらい回ることができるのですか。

末田（人文学部歴史地理学科教授）：これはスタンプラリー形式になっているので、全部回ったほうが良いということです。

古澤：そうですね、ただ、距離的に、例えば、ちょっと歩いて難しいみたいなどころもあるわけですね。

末田：いえ、回れます。蔵があるのが6軒なのです。酒蔵が1軒だけ郊外の離れたところにあります。だから、これまで高山三町の酒蔵めぐりでは6軒でしたが。その郊外に酒蔵を持つ酒造店の直売店が市内にもあり、そこも入れて今回は、学生と一緒に7軒すべてを回りました。

古澤：そうですか。じゃ、14杯飲めるということですか。

末田：飲めるということです。回れます。

古澤：私、いつも、舩坂酒造で飲んでおりまして。今、4年生ばかりということで、その次の世代はどうなるのですか、また、今度のゼミ生が受け継ぐということになるのですか。でも、コロナのせいで大変ですよ、今。

末田：そうですね。2年生には地理学野外実習という授業があるので、授業を受講してくれた学生で興味がある学生を、また参加させたいなと思ったりしているのですが、先ほど言いましたように、コロナ禍でもあり、積極的な現地調査がなかなか難しい状況です。

古澤：いやいや、これだけ、いろいろ蓄積があるので。（以前に歴史地理学科にいらした）林上先生の本も、私、まだちゃんと全部読んでいないのですが、また読んで勉強しようと思っております。

末田：『飛騨高山（：地域の産業・社会・文化の歴史を読み解く）』ですか。

古澤：はい。

末田：その中で、私は酒蔵業と旦那衆の歴史と現状について2章ほど執筆しております。

古澤：じゃ、それをちょっと急いで読まないといけません。

末田：お恥ずかしいばかりなのですが、ありがとうございます。

古澤：ありがとうございます。

末田：また、いろいろとどうぞよろしくお願いいたします。私たちばかりが話してもいけないので、学生たちへの質問をお願いします。

古澤：小嶋さんは何回ぐらい行ったのですか。高山へは。

小嶋：私は生まれが高山市ということもあって、2 歳ぐらいまでしか住んではいないのですが、結構、家族で高山に行くことは何回かあって、コロナ禍に入る前は、毎年ゴールデンウィークに 1 回という感じで、高山に行っていました。

古澤：もともと実家が高山のどこなのか、ご存じなのですか。

小嶋：高山の片野町というところです。市街地の中ではないとは思いますが。

古澤：この間も、高山学会があって 12 月か 11 月に行ったのですが、いろんな大学の学生さんがフィールドとして研究をしていました。愛知大学なども元気に発表しておられたのですが、その中で 1 人、名古屋の大学の女子学生で、高山をフィールドにして研究したことによって高山が好きになって、市役所に就職した子がいるのです。その子が、今、期待の星になっているのです。「でこなる横丁」とか、行かれましたかね。

末田：新しいところですよ。

古澤：新しいところです。そうです。

末田：そうですよね、私が高山へ調査で行き出した頃にはなかったの。

古澤：新しいところだから、ちょうど観光客と地元の人が半々みたいな感じで、みんな仲よくなるという、本当に素晴らしいところなので、また。

末田：先ほどから言われていた学会ですよ。

古澤：はい。

末田：（中部大学国際・地域推進部地域連携課長の）蓑島さんの名誉のために言っておかなければ。実は蓑島さんから、昨年じゃなくて、その前の年に学生を含めて、その学会での発表に誘われました。ところが、ほかの学会での発表とバッティングしていたので参加できなかったのです。いずれまた、機会があればと思っております。

古澤：私も、観光のことは全然詳しくないのですが、市役所の人たちと話をしたときに、確か、一昨年ぐらいに観光担当の部長さんが、高山の外国人の滞在日数が 2.5 日と言っていたような気がするのですよ。2.5 日——1.5 日だったかな——はそんなにめちゃくちゃ長くはないわけですよ。はっきり覚えてないのですが、やはり中心市街地の古い町並みは行くのだけれども、そのほかに足を運んでくれないということで、そのことでちょっと困っているという話でした。要するに、彼らは、白川郷に行ったり、下呂に行ったりして、高山は、町並みを見て、また次のところに行くとか、北陸に行くとかということになるようなのです。何とか、そういった人たちの足を止められないかということで、それこそ観光客向けの何かというよりも、エコツーリズムじゃないですけども、何かそういうサステナブルなこのまちを見せられないかと。ちょっと郊外のほうでも見どころを作って、まさに実生活の中でのサステナビリティと、観光客が求めるようなサステナブルなジャパニーズサステナビリティといったものが合致すればいいねということが、これからの議論になると思うのですよ。ですから、ちょっと郊外のことで、何か気付きがあれば、まだ、そんなに回っておられないかもしれないですけども、何かご意見とか、あれば教えていただけますか。

古川：郊外に関して言えば 2 つございまして、1 つは、東山の寺、寺院群になります。そちらが、先ほど末田先生の発表の中であった、旦那衆の存在に支えられて現在まで存続している寺群なのですが、こちらのほうは外国人の方にも非常に人気ということでして。例えば、三

町を回られた後に、そういった東山の寺院群など回るというモデルケースなどがあれば、より、滞在日数を増やすことができるのではないのかというのが、私個人の考えになります。

古澤：なるほど。それと、旦那衆と一緒に飲もうみたいなのがあればいいですね。特別なコースで、旦那衆と一緒に飲むツアーみたいなの。それは面白い、すみません、勝手に。

古川：いいえ。もう1つが、やはり、飛騨の温泉郷という点です。平湯などに代表されるように、非常に日本的な温泉旅館なども残っておりますので、これは外国人の方に大変好まれると思います。また、周辺には山々などがあります。例えば、新穂高ロープウェイだとか、そちらから足を延ばすと日本アルプスの中でも槍ヶ岳とか、非常に有名な山にも通じる山岳ルートもございます。外国人の方は結構、登山を楽しまれる方も多いものですから、登山の拠点としても活用していただければと思います。例えば、三町などを見て日本の伝統文化を楽しむ。続いて、東の寺院群なども見ていただく、その上で、新穂高温泉などを經由していただくといったプランなどを組むことができれば、日本の和とか、もしくは文化なども楽しんで、かつ自然も楽しめるという点で、非常に異なる魅力というのもセットにすることができ、かつ滞在日数も延ばすことができるのではないのかと思います。これは、私の個人的な考えではございますが。

古澤：なるほど。そうですね。あと、やはり来る前に組んでしまうと、滞在日数を増やすことがしにくくなる。海外の方は、日本人ほどは組まないのかもしれないですけども。海外といっても、いろんな国があるので、違うともいますが、発信も大事ですね。「このコースが面白いよ」のようなことを発信していく。まちなかに古い中華屋さんがあるのですが、そこのおかみさんが、すごく発信力があるみたいなのです。いつも和服を着ているのですよ。元学長の山下（興亜）先生と一緒にいったときに、昼ご飯を食べようと思ったのですが、やっぱり高山ですから和食を食べたいじゃないですか、何となく。そこで、和風なお店を選んでガラッと開けて入ったら、そのおかみさんが和服を来て出てきて、「ごめんなさい。うち、中華料理なんです。和食お探しですよ。ここから20メートルぐらい歩いたところに……」とか言うのですよ。そうやって、けなげにほかのお店を紹介しているから、「いや、中華でいい」と山下先生が言って、そこに入ったら、おもしろい話をいろいろ聞かせてもらったのです。その人が、オンラインでものすごい人気の人で、その中華屋も外国人がたくさん来て、そのおかみさんと話すのが楽しいみたいなのです。なんか、そういう「人の財産」というか、コミュニケーション力がお客さんを呼ぶということもあるのだなというふうに思った次第です。

古澤：あと、でこなる横丁に、ジビエの店ができたのです。

末田：それは知らないですね。

古澤：鹿肉も、猪肉も当然あるのですが、熊の肉もあったりして。その店をやっているお兄ちゃんが、一家揃って猟師なのです。

末田：そうですか。

古澤：「熊はどこで取れるんですか」と聞いたら、「この辺ですよ」って言うから、「嘘でしょう。熊は北海道でしょう」とか言ったら、「いやいや、地元の熊です」と言っていて、高山で取っているらしいのです。

末田：貴重な情報をありがとうございます。こちらの方が大変重要な情報をいただいて。

古澤：私がいつも行くのはおでん屋さんなのですが。

末田：どこのですか。

古澤：でこなる横丁におでん屋さんがあって、サッチャンという人がいるのですが、そこに、ぜひ、行ってください。

末田：行ってみます。古澤先生にご紹介されたからと言って。ありがとうございます。この後ろ（zoom のバーチャル背景に使用している写真：図 1）、わかりますよね、三町のところなのですが。これは、この間の調査で撮ってきたのですが、観光客が誰もいない状況です。



図 1. 末田教授の zoom のバーチャル背景

古澤：誰もいないですね。

末田：まん延（防止等重点措置）の期間になっていましたので。通りはがらででしたね。そういう状況なので、また（蔓延防止等重点措置の期間が）伸びたということで。ただ、期待はしているみたいです。春休みになるからということ。

古澤：私、SDGs の関係で、今、もう一つまちづくり協議会のサポートをしてくれと市役所に言われて、それで一之宮地区の上のほうの位山のところなのですが、一度二度話をしに行ったことがあります。一之宮でネタがあったら、またぜひ教えていただけたらと思います。そこにモンデウスというスキー場があって、そこは、もう雪が降らなくなっているの、観光をどうするかという話が出ているのです。私は、気候変動に対応した日本一の新しいスキー場だと言って売り込めばいいんじゃないかとかといい加減なことを言ってきたのですが。そういう取り組みも始めたいようなことも聞きました。

末田：なるほど。あ、岡島さん、末田でございます。

岡島健（中部大学国際・地域推進部国際連携課長）：末田先生、どうも。

末田：学生たちに、ぜひ質問をお願いできればと思うのですが、よろしくお願いいたします。

岡島：私も途中までしか拝聴していなかったのですが、高山って、すごくいろいろな観光資源があって、歴史的なもの、それから食とか、お酒とか、いろいろあると思うのですが、学生さんたちにとって一番高山で魅力的だと思ったものは、観光資源で何だったのですか。

古川：それに関しては、岡野のほうから答えさせていただきます。

岡野：岡野です。ご質問いただき、ありがとうございます。私が一番魅力を感じる観光施設でしたら、やはり、古い町並みかなと思っています。ここにしかないというのは、いろいろ地域資源はあるのですが、古い町並みというのは、どこでも絶対再現できないものだと思うので、個人的には、高山独自の古い町並みが一番魅力的かなと思っています。

岡島：ありがとうございます。

末田：私の方からも質問を。郡上——岡野さんは行っていないのですが——郡上にも古い町並みがあるのですが、あそこは古い町並みの方には行かずに、観光客が向かうのはお城（郡上八幡城）ばかりで、また商店街ですね。お城から商店街がすごく近いということなのですが。岡野さん、例えば若い人たちは、どうして古い町並みに惹かれるのでしょうか。

岡野：やはり、自分たちが生活している中では、味わえない風景というのを味わいたい人たちが多いのだと思いますが、古い町並みに行きたいとなったとき、多分、若い人たちは交通の便が便利なほうに行ってしまうのだと思います。高山の古い町並みだからこその良さというのを、若い人たちに知ってもらおうというのが、今後もまた課題になってくると思います。

末田：例えば前回、高山の城下町を視察したときは観光客が少なかったので、状況をあまり確認できませんでしたが、飲食店が一つの魅力になっていましたね。犬山の城下町も、すごく飲食店に力を入れていて、ああいう町並みに惹かれてやって来た観光客向けに、インスタ映える食べ物とかで取り込んだりしていますね。同じことを高山もやっているわけです。郡上の城下町は残念ながら、それが少なかったと思います。このように飲食店で惹きつけるというような城下町観光があつたりするのですが、岡野さんから見て、そのような飲食店には行きませんか。私が視察すると、よく若い人たちの行列ができていますが。彼らは飲食店に惹かれるのか、それとも、町並みに惹かれているのかということですが。

岡野：私としては両方の目的をもって、犬山の城下町に遊びに行っていたのですが、古い町並みは新しいお店がないからこそ、古い雰囲気が味わえるという良さがあると思うので、私だったら郡上の城下町の方にも行きたいなと思います。

末田：それと、あと、もう一つ。今、全国的に流行っているのが古民家を利用した施設や飲食店ですね。だから、この間、高山に行ったときに、古民家を利用した創作歯ブラシのお店のよう新しい施設ができていましたね。飲食店以外にも、いろいろと若者向けの新しい店ができていて、かつ古くからみられる酒屋や味噌屋のような伝統文化を象徴するお店もあって、高山の城下町というところには新旧さまざまなお店が揃っています。この点から犬山の城下町を見ると新しいものばかり、つまり若者向けの飲食店が目立っています。古い町並みと新しいものが融合する形が高山の魅力の一つになっていると思います。

岡島：ありがとうございます。

岡野：すみません。今のフォローしていただいて。

末田：ご質問ありがとうございます。古澤さんはどう思われますか。

古澤：魅力ですね。おっしゃるとおり、飲食店が非常にいいのがあると思うのですが、名古屋のほうからも、岐阜のほうからも、若い人がお店をやりたくてどんどん来ています。コロナ禍の半ば頃に、私が、でこなる横丁で飲んでいたら、名古屋の不動産関係者が、岐阜市の飲食ビルのオーナーみたいな人たちと来ていて、今だったら、とにかくものすごく安いから、ばんばんテナントを押さえて、コロナ明けの商売に備えようとしてお客さんを連れてきているのですよ。もう1つ、やはり飛騨牛です。日本の古い町並みでというので、日本酒もいいし、田舎っぽい五平餅とかもいいのだけれども、そこに、あの光る飛騨牛の脂ぎった感じがあるから、やはり若者が来ても、飛騨牛の寿司を食べたいとことになってくると思うのです。質素な日本的なもの、プラス、脂ぎった若者を惹きつけるようなものというのは、すごくパワーがあるなと僕は思いますね。

末田：ありがとうございます。飛騨牛は一番行列できますものね。お寿司のところなどを見たら、若者ばかりです。飛騨牛が中心になっていますからね。まさに、その通りだと私も思います。

古澤：あと、僕が面白かったのが、お椀屋さんみたいな店が結構あるじゃないですか。木のお椀。漆塗りのやつとか。あれ高いものは高いですけど、安いのも売っている店があって、一

回店主に鎌をかけたことがあるのですよ。これはベトナム産か、みたいな感じで。いかにも知っているような顔をして、「これ、やっぱり名古屋の間屋さんのところで買っているのですか」と言ったら、もう分かっていると思ったみたいで、「いや、うちのは富山の間屋からですよ」と言ったので、「これ、やっぱりベトナムですか」と聞いたら、「ベトナムですね」と言っていました。500 円程度で買えるようなものは、やはり東南アジアで作られたもので、漆で 3,000 円とか 4,000 円のは本物だというのは、道の駅とかでもそうですが、混ぜてうまいこと売っているなどは思いました。でも、何で富山の間屋なのだろうと思って。もう少し大都会の間屋から仕入れているものと思っていたら。

末田：富山は、高山からルートの近いからですね。歴史的にみても、いろんな意味で高山は富山とのつながりが強い地域ですから。

古澤：ああ、そうなのですか。

末田：とくに江戸時代からのつながりが強いということでしょうね。私は、陶磁器の研究を進めているので、同じようなことが見られます。陶磁器も、自らの産地の製品と東南アジアから仕入れた商品を揃えて、価格面も含めバラエティを持たせているということはありますよね。

古澤：あと、僕は富山からのぶり街道に興味があつて。本などでも読んだことがあつて、食の街道っていう小さい本があつて、ぶり街道はいいなと思っていたら、一昨年、シンポジウムで駿河屋というスーパーの社長さんと一緒にパネルディスカッションをしたことがあったのです。そのときに、ぶりの話が出て、去年は行けなかったのですが、今年は無理して大雪の中の 12 月 30 日に駿河屋に行ったのです。ぶりが 1 尾 4 万円ぐらいして、半身だと 2 万と言っていたので、年末最後ぐらい全部使ってやろうと思って行つたのですが、そうしたら、ちゃんと切身が売っていました。一切れ 2,000 円ぐらいでしたけれども、それを 3 枚ぐらい買ってきました。おいしかったですね、本当に。

末田：貴重な情報ばかりをいただき、古澤先生ありがとうございます。それから、岡島さん、ありがとうございます。実は、同じようなことを高山の観光協会の方にも聞かれました。お酒のことを聞いていたら、飛騨のお酒に関して、学生たちはどう思っているのかをお教えてください、と。だから、観光協会の担当者も、学生の視点をすごく欲しがっているというか、若い者の考え方をいろいろと知りたがっているというか、どういうふうを考えて彼らが高山を訪れているのかを知りたいようですね。

岡島：高山だったか、どこの町だったか忘れたのですが、観光協会の方から連絡をいただいて、留学生を使ってモニターをしたのです。留学生にただで来てもらって、いろんなところを回ってもらって、感想を聞きたいということでした。要するにインバウンドの観光に役立たいということで、ちょっといろいろなしがらみがあつてお断りしたのですが、そういうことを考えている観光協会の方がいらっしゃって。今はインバウンドがあまりない状況ですから、古川君はじめ皆さんの意見を高山が聞きたいのだと思います。

末田：そう感じましたね。まさに、若い人たち。この前大学に高山市長が講演に見えたときも、そうでしたよね。若い人たちが街を歩くだけでいいのだと。それが刺激を与えるのだと。あの言葉は、すごく印象に残ったので、我々も高山に行つたときには、歩くだけでいいということだから、どんどん歩こうとって、いろんなところを歩いていました。誰も歩いていないけれど、「来てるよ」みたいな感じですればいいのかなと。高山市長が、それ

だけでもやってくださいと言っていましたので、「じゃ、やろう」と言ってしまったけど。そういうことを、何カ所からも聞きました。逆に質問されるというようなところなので、我々も気を付けて、調査だけではなくて、向こうが知りたがっているところもご提供しながら行かないと連携にならないという感じをもちました。ただ、先ほども言いましたが、このゴールデンメンバーが卒業するので、来年はゼロになってしまうのです。

岡島：本当ですね。

末田：特に古川君は、2年生のときから3年間にわたって参加してもらっているのです、来年度はどうしようかと思っています。

岡島：古川君は、実際いろんなところで、私とかかわりがありまして。

末田：そうですか。ありがとうございます。いろいろとお世話になりました。

岡島：彼が卒業するのが、本当に寂しくて。

末田：そう言っていただいて、大変ありがとうございます。とてもうれしく思います。また、新たに学生を発掘しまして、引き続き飛騨高山の調査を頑張っていきたいと思います。研究所のプロジェクトとしては、あと1年残っているというふうにおっしゃっていましたので、何とか頑張っていきたいと思います。また、どうぞよろしくお願いいたします。

古澤：ゼミの皆さんは、これから高山から離れてしまうわけですか。例えば、Facebookのページかなんか作っておいて、そこで卒業生も、我々も情報をちらちら見られるようなのがあれば、とてもうれしいです。

末田：ありがとうございます。古川君は、就職先が銀行に決まっているのですが、ぜひ、引き続き何とか協力してくれないかとお願いしたところです。しかし、仕事が忙しいと思いますので。古川君、すみませんが、感想よろしくをお願いします。

古川：ありがとうございます。私自身、高山という場所は、研究のフィールドとして非常に面白いと思っていて、掘れば掘るほど深堀ができる地域だと思います。自分自身、将来、研究者になる道があったら高山をフィールドにしたいとは思っているのですが、将来のことがありまして、抜けてしまうことになります。高山にも、金融機関があったり、うちの会社のほうでも支店があったりしますので、もし縁があれば、今後も高山にかかわらせていただければというふうには思っております。

末田：ありがとうございます。すみません、そろそろ時間となってまいりました。古澤さんと岡島さんと私とで、全然話が尽きませんが、ここまでということで。

岡島：終わらないですね。

末田：ぜひ、高山で一緒にさせていただきたいと思います。

古澤：ぜひぜひ。

末田：また、ご一緒させてもらえることを楽しみにしまして。おそらく夜の食事が中心になるかもしれませんが、どうぞ、よろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。

古澤：ありがとうございました。

末田：どうぞ、よろしくお願いいたします。

岡島：学生の皆さん、よく頑張ってくださいました。

古川：ありがとうございました。

岡野：ありがとうございます。

末田：流れ解散ということですので、これで一応終了としたいと思います。大変ありがとうございました。皆さんは卒業してしましますが、また、この後、整理というか、反省会ということで、皆さんの感想（振り返り）を個別に聞かせてください。皆さんは卒業してしまっていないのですが、プロジェクトはまだ来年1年あります。ですから、こうしておけばよかったとか、ああしておけばよかったとかいうことを残してもらおうと、私がまた新たな学生たちと一緒に調査をするときに、「先輩方がこういう意見を残していったので、こういうことを残り1年でやりましょう」というように、皆さんが見つけてくれた課題を次につなげることができるかと思います。皆さんには、もう1つご負担をかけますが、最後にそういったご意見を卒業前までにももらえればと思っております。宿題となって申し訳ないのですが、せっかくですから、もうひと頑張り、どうぞよろしくお願いいたします。これで最後の挨拶とさせていただきます。特に古川君は3年間、本当にありがとうございました。ほかの3名の女性陣も、1年間参加していただきまして、大変ありがとうございました。それでは、これで終了したいと思います。

（ ）内＝編集者の追記

自律型移動ロボットによる 稚内市の地域情報資源収集・ 蓄積・提供システム構築

中部大学 柊和佑
2022/02/18

2021年度の活動

- ・ロボットを使った他大学との実験などはコロナで難しい
 - ・大学ごとのコロナ対策が大きく異なる
 - ・他大学の研究者を学内に入れることがNG
 - ・他大学の研究者との食事はNG など
- ・今後も対面系に制限を受けることが予想できる
 - ・他大学との連携が必要なロボット実験だけでなく、単独で開発可能な固定機による収集を進めた
 - ・自動システムを用いた収集・蓄積システムの検討
 - ・2022年度も継続予定

2021年度の本P関係論文

- ・『組織内映像アーカイブのためのメタデータ構築』(ベスト発表受賞)
 - ・2021年度DA学会第6回大会
 - ・2020年度から進めている研究の追加要素
- ・『大型壁面プロジェクションによるこまきこども未来館常設コンテンツの制作』(査読付)
 - ・NICOGRAPH2021
 - ・小牧市で完結している常設プロジェクションの動画コンテンツ制作状況の論文
 - ・制作環境を用いた地域教育用組織内動画コンテンツの収集、メタデータ付与システムの提案をおこなっている
- ・『コンテンツ制作者のためのサウンドスケープアーカイブ』
 - ・DA学会第一回フォーラム
 - ・コンテンツ制作者を対象としたサウンドスケープデータの収集・蓄積・提供に関する論文
 - ・設置した録音機による自動収集、半自動化されたメタデータ付与、制作者に優しい検索システムについて言及している

こまきこども未来館について

- ・小牧市の商業施設「ラビオ」の中にあるこども向け施設
- ・中部大学が担当している場所は横20m×縦3mの壁面



商業施設「ラビオ」

こまきこども未来館

4F施設

サウンドスケープ

- ・1960年代にマリー・シェファールが提唱した概念
 - ・風景には音が欠かせなく、自然の音として聞こえてくる音には聞き手側の認識も含まれているという意味 (Wikipedia英語版サウンドスケープより)
- ・サウンドスケープ=環境音
 - ・通常は自然環境(海中など)の状態の調査に使われる
 - ・街の変化などを“手軽”に記録する方法として使われることも(Webやイベントなどの余興としても)
 - ・本Pではコンテンツ作品の素材として利用することを目的としている

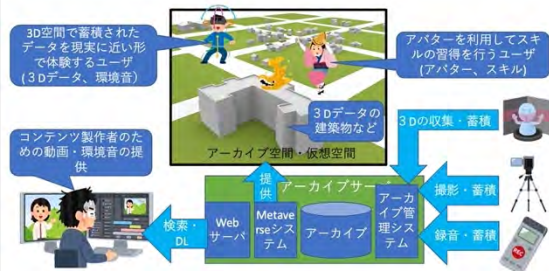
地域情報の種類

- ・動画
 - ・地域情報として地域組織(コミュニティ)が作成した動画を収集
 - ・動画の素材と完成パッケージを分けて収集・蓄積(院生)
 - ・地域で作成された動画の収集
 - ・地域で利用された動画および関連情報の収集
- ・音声
 - ・環境音を“場所”“時間”“内容情報(オノマトペ)”“気象情報”“感覚上の季節”の情報を付与して収集・蓄積(院生)
 - ・固定地点の録音データの収集・蓄積(冬の稚内、夏の名古屋栄、入学時の中部大学など)
 - ・収集のための機械を自作予定

地域情報の種類

- ・建築物
 - ・地域情報として画像データのプラス要素として収集を検討している
 - ・3Dデータで建築物を製作して収集(2021年度卒業研究*2)
 - ・LIDARセンサーを用いた物・部屋の3Dデータの収集(院生)
 - ・最新の製作環境の調査、既存の提供環境の調査を進めている
- ・スキル
 - ・アバターを経由して身体スキル習得(インストール)を行う(院生)
 - ・パワードスーツにスキルをインストールするシステムは研究されている(営利企業など)
 - ・スキル自体の記録方法など検討事項は多い
 - ・既存のスキルの3D記録などは既に進められている(東京大学など)

地域情報資源の利用方法



自律型移動ロボットによる稚内市の
地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築プロジェクト
自由懇談

柊和佑（人文学部コミュニケーション学科准教授）：発表、お疲れさまでした。

小泉真也（稚内北星学園大学情報メディア学部教授）：ごめんなさい。それなりに、話すことはまとめていたつもりなのですが。

柊：大丈夫です。あれぐらいパンチを効かせていたほうが、学部長に対していろいろと良くも悪くも印象を与えるほうがいいですから。

小泉：すみません。

柊：いいえ。取りあえず、（画面を見せながら）このような感じの話を考えています。このプロジェクトというか。ここ最近、私って、いろいろと、そちらに行って遊べる内容になるといいなというのを思っています。

小泉：やっぱりアバターをバーチャル空間に入れるっていうのは、これは、取り組むつもりでしたのです。擬似教室みたいな感じで。ちょっと話は重複しますが、濱田（稚内北星学園大学 OG）とかが今別海町にいて、それから、6年後輩で共和町に勤めている教員もいますし、あとは、10年ぐらい前の卒業生が今旭川で教えていたりするので。例えば、そういうばらばらのところにいる人たちを、1個のリソースで授業を行ってみるとか、そこに、zoomとか何でも良いのだけれども。それと、今考えているのはMozilla 当たりでも良いので、無料で使えるメタバース空間に、それらを繋ぎ合わせて、そこにさらに参加者が3D キャラクターをかぶるという。ちょっとそこまでするイメージをしていて、そこそこ道具というか、それができそうなソフト案の組み合わせがそろそろいけるかなと思っています。ちょっとスモールステップをやってみようかなと思っています。

柊：なるほど。ちなみにソフトは何をお考えでした？

小泉：ソフトは、Mozilla が提供しています。これも、最近知ったのです。ちょっとそれを知ってから、開けてきた部分があって。Mozilla のメタバースのサービスです。1週間ぐらい前に話を聞いたばかりです。

柊：なるほど。この Virtual Beings solution ですか。

小泉：そのようなものです。ちょっと待ってください。

柊：Metaverse solution というのも書いてあります。CYZY SPACE か Mozilla Hubs というサービスがあるようですが。

小泉：何か、そういうものですね。

柊：これか。CYZY というのがそうですけど。これは有料のようですが。

小泉：お金は掛からないはずですが。

柊：中部大の学生たちは、VR チャットを使っています。VR チャットを入れているのは、（メタバースプラットフォームの）Cluster をこの間、みんなでわちゃわちゃして遊んでいました。柳谷学部長とかも入ってきて遊んでみたのですが、VR チャットってヘッドマウントディスプレイでしか対応していないじゃないですか。

小泉：はい。

柊：そのため、（ヘッドマウントディスプレイの）Oculus Quest がその辺に置かれています。

小泉：（Mozilla が提供する無料のサービスは）Mozilla Hubs でした。

柊：Mozilla Hubs か。

小泉：日本語学校をメタバースでやろうという、少しラジカルなことをやっている人がマレーシアにいて、その人とたまたま、ちょっと別件で知り合って紹介してもらったのです。ここに、ユーザーローカルという会社が提供している無料の V チューバーシステムがあって、これが OBS 当たりとか、HDMI キャプチャ当たりと組み合わせてみると、zoom の通話に対応するということになって、それをそのままメタバース空間に展開してみようという、今はそのような感じです。

柊：zoom ですか。

小泉：YouTube の配信でもいいですし。

柊：そこまで意味ありますか。どうでしょう。

小泉：ないです、そこまでないのです。それが面白いかどうかというところのレベルで、メディアづくりとして面白いかどうかというレベルのことで、教師がやる気になるかぐらいのところですよ。そういう現場で。一番乗り気なのが（前述した）濱田です。

柊：なるほど。

小泉：アバターをかぶって授業をしたいというのを、濱田が一番初めに言っていることで、それが、何に有益なのかというのは、ちょっとなかなか試させてくれるところもないので。ゆくゆくは自分でも実施してみようとも思うのですけれども。

柊：その辺の、アバターを着るに関しては、ちょっとうちのほうでいろいろ考えている学生がいて、（ポスターを提示して）ここです、スキルの習得というか、その格好になるというのが重要じゃないですか。だから、踊りを踊る練習をするなら、こうやって踊りの格好を試してみたり、もしくは同じ踊りの格好、衣装を着た先生といった教師データが目の前にあって、それがエンドレスで踊っているのに合わせて横で踊るとか、重なってみるとか。

小泉：それが、例えば、人の動きと連動するという感じですね。

柊：そうですね。人の動きの読み込みなんかは、一応 Kinect とかも触っています。

小泉：そうだ、はい。

柊：Kinect、使えるのが 1 個あります。実数は 3 個ほどあるのですが、1~2 個は別のものを使っています。あとは、Intel が作っている同様のものが 2 個ぐらいありますね。

小泉：なるほど。

柊：そのため、そこで実際、ユーザーの位置をアバターに重ねるとか、そういう実験というかは試してもらっていたりしていますけれども、結構正確に動きをとります。今の V チューバーとかの 3D を全身で動かしているのを見ていても、かなりいけるのは分かりますけれども。それに近いものはあるという感じですかね。

小泉：こちらは、おじさんの話は聞かないけれども、若い子の話を聞くとしたら、おじさんが若い子のアバターをかぶって授業をやったら、それは聞くかというレベルの話です。

柊：なるほど。それは聞きますね。

小泉：そのような気はするのです。だから、パーソナリティレベルの話をちょっと強調したのは、そこでもあったのです。

柊：なるほど。ボイスチェンジャー当たりも一通りそろっているのと。

小泉：そうです。

柊 : その辺に興味がある学生は、ちょうど目の前に音声系がありますね。この間稚内に連れて行ったのが、その辺大好きな学生です。といことは、こちらも楽しいですね。女性のアバターを着れば、女性のような動きができる、さらに、背広来て授業をしてみたら、そういう動きになるし、T シャツで授業をすると、そういう動きになるというような、プロテウス効果とか、そういう言葉が今付いているのですけど、今だと VR 心理学というのがあります。そちらのほうのプロテウス効果とか、そういうものは、結構前から学生が1人調べています。そのため、少しその辺のデータを一回出し合って、単語をまとめたターミノロジーをまとめてみたほうが面白いかもしれないですね。

小泉 : はい、イケメンさんになってみるとか。

柊 : そうですね。ドラゴンになったら、高所恐怖症が少し緩和されるとか、というような調査結果があるらしくて。そのため、その辺の話でうまく組めるか。確かにそれは面白いかな。私も、正直、その辺について、後は学生の手仕事の世界だからと言って、アーカイブの研究者としては、特にすることが見つからなくなるので、ちょっと手詰まりだったのですが、いっそのこと、稚内にうちの院生を送りますかね。

小泉 : GIGA スクールの話とかを聞いていると、どこか、マーケット主義的な変な BX (ビジネストランスフォーメーション) をしようとしているところがあったりします。だから、この教科だったらこのソフト、この教科だったらこのソフトで、あるいは教師の学生の進捗の管理というように、そういう業務のとりまとめとか、そういうのであればこれというようなもので、單元ごとにソフトウェアが積み重なるような、ちょっとそういう状況で、かなり現場もそこで右往左往しているような感じだったのです。ちょっとそういう話ではないよなっていうところをやりたくて。

柊 : なるほど。おじさんの話はダメだけど、確かに先生が V チューバーみたいなので、V チューバーって、ここ最近ちょっとこの辺もあって一生懸命聞いているのですけど、恐らく 40 歳ぐらいの人が、20 代後半ぐらいのアバター着て、中島みゆきのオールナイト日本みたいな内容に関して延々と話しているのですけど。そうすると、聞けるのですよ。

小泉 : なるほどね。

柊 : あれを、40~50 代の汚いおじさんが話しているという仮定で見ると、下品な下ネタなのですけど、それをピエロの型を着た美丈夫が話していると、笑えるというのが、よく分かってきたので、確かにそれはありますね。

小泉 : そう。そういうマーケット云々で、ソフトウェアを合わすくらいであれば、もう、動画を作ってしまうばいいのではないのかというところに落ち着いてきて、動画をするのであれば、そこにやってくる人間というのが、例えば、YouTube の講義とかって、生身の人間が参入するよりも、もう完全にそこに勝とうと思うと、アバターレベルで変身するしかないという、完全にふざけた、テレビ番組づくりみたいな発想です。

柊 : テレビですね。

小泉 : だから、この前のお話でも行き着くところ、そういう動画、映像を作るのであればというので。そのレベルのことというのは、外注できるのではないのかというか、いい映像作るのであれば、その道で取り組んできた人たちに頼めば、ひょっとしたら授業というの、いいものができるのではないかとか。それを、ユニット的に組み合わせて使うということを考えたら、大体、そのプロトタイプのレベルに分割していき、それごとに作ったものを組

み合わせてというようなことができるのではないかとみている。ちょっと3つぐらいの大きいグループに分けて、そこで話を聞いてくれる人が今、北海道の教員の集まりが Facebook の中にできていて、それ道人会ってという名前なのですが、そこで、ちょっと色々、そういうのを提案しながら聞いてくれる人たちで試そうかなと思っています。でも、稚内市内だと、いろいろと話を通そうとしても上手くいかない。

柊：なるほど。

小泉：いろいろあるのです。直で学校に行くということが憚れるとか、まず筋を通すのに、稚内市教育委員会に行き、頭を下げて、これこれというふうにしてお願いしますと言うと、それを、ずっと放置されたりするとかがあります。

柊：なるほど。

小泉：結果的に、こういうことをしようとしても実験をしてくれる現場の雰囲気とかということが、まだ分かんなかったから、うつうつとネタが貯まっていたので、今一気にそれを吐き出すような感じになってきているのだけど、そこに、またいろいろなアイデアと技術が追いついてきた感じですね。

柊：取りあえず、その辺の技術面、3D系の技術面とかのほうの話で、それこそ、Mozilla Hubs の中で一回会って、合同ミーティングしてみましようとかという流れでやってみますか。

小泉：そうね、まず、そういったメタ授業という風に、そのマレーシアの人が言っていたけれども、その人から教えてもらったのが、つい最近なので、これから猛烈に勉強しなければならないという状況ではあるのですが。

柊：そうですね。

小泉：でも、それは同じことを濱田とか卒業生とかに呼びかけて、とにかく、その空間に入ってくる、顔を合わせて帰るというだけのことを実施してみないかとかということは、今言っています。

柊：「Wakhok（稚内北星学園大学の略称）飲み会」みたいな感じのものをやればいいですね、きっと。

小泉：そうです。

柊：取りあえず Hubs は、私も触ってみますかね。

小泉：すみません、巻き込んでしまつて。

柊：いいえ。うちも、学部長がメタバース空間で会議やりたいとか言い出してまして。距離が離れると、教員が意見出さずに、会議で黙り込むので、距離を詰めていって「どう？」と聞きたいらしく。

小泉：私は、あまりそういうことを考えてなかった。距離のつながりがなくなって、理念でつながるようになるというのが、そういうメタバース空間ではないかなと思うのですよ。

柊：やっぱり、ちょっと身体的な物理空間的なのに近くなってしまうと、それは結構その人の持っている距離とか肉体的な制約が出てくると思うのですよね。例えば、目の悪い人は別に目は関係ないけど、ちょっと舞台の近くにいたりとか、そういうのが何か結構あるはずなので。その辺りを探すと、いろいろ心理学とかのほうで面白いのでしょうけども、如何せん、そちら側の人間ではないので、そちらはその分野の方にお任せする感じですけど。

小泉：そうなのですけどね。でも、技術的なこととか、それこそ、数学教育学会行って、いろいろ講釈を垂れたのですけれども、何か向こうは向こうの都合があるみたいで、例えば、情

報がこれから共通テストの科目になるというので、その対策をしようみたいなことを、ずっと数学教育学会で話してきたのだけれども、数学教育学会の人たちは「分からない」と言うのですよ。「分からない、要らない」って言うのですよ。だから、もう完全にそういう都合みたいなものではねられるのであれば、最後は理屈ではないなというところが出てきて、心理学を本格的にやろうという話ではないのですけど。でも、授業も、どのように授業を行ったら子どもたちは楽しい云々という話が、結構ぶっ飛ぶのですけども、そうであれば、木村拓哉にでもやらせておけば良いとかという風に、斜に見ているのが私だったりするのです。

柊：そうですね。前、そういうので、司書のようなロボットの声を出せば、どのような人が中に入っても信頼感のある司書になれるのではなかろうかみたいな話を、少し調べていたことがあるのですけど、なかなか、実験環境が整わずに、面倒くさくなって終わりましたが、確かにこれ、同一のアバターで、中が別の人で、ボイスチェンジャーでボイス合わせてとやると、信頼感はあるけれども、数人がシフトで回しているようなキャラクターとかも作れるかもしれないですね。

小泉：そうですね。そこは、ヒューマンインターフェースの観点も関わるような気はします。こちら側の話としてはね。

柊：ちなみに、私のほうの話ですと、そういうキャラクターって、例えば用途に合わせて何十とか存在するはずなのですけど、どのように検索するのかというのが、このキャラクター、この人に対する先生として最適なキャラクターが、例えば、木村拓哉とかもいるわけです。木村拓哉嫌いも当然いるわけで、例えば今日の授業のメンツを見て、今日はこのキャラクターがベストですという風にコンピューターが出してくるためには、何がいるのか。

小泉：検索パラメーターですね。

柊：パラメーターとして何がいるのかみたいな話のようになってくると、図書館学ですね。完全に図書館の考え方です。あとは、同じようにアバター以外にもワールドというか 3D 空間ですね、Hubs だったら、今この画面に映っているようなもの。例えば、外の風景でも雨が降っていたり、季節が変わっていたり、気温がどうだとかというような、そういう細かい要素が当然あるはずなのに、それを検索して、もしくは好ましい状態に、最も好ましい状態にするというのは、どういう検索キーがいるのか、もしくは情報がいるのかという風に考えるというところを、ちょっと今考えていて、そうすると、私たちの分野になるという感じですね。

小泉：僕は身振り手振りとかを、コンピューター側の方に持っていくとどういうキャラクターづけ、表情の作り方とか。だから、さっきのユーザーローカルがウェブサービスで提供しているわけですが。

柊：どれのことです。

小泉：ユーザーローカルという会社が、ウェブサービスで提供しています。だから、ユーザーローカルで探してみてください。

柊：ビッグデータ×人工知能というところですね。

小泉：人工知能技術を使った無料 V チューバーシステムを提供開始というプレスリリースが 1 月 28 日付で出ているのですよ。ユーザーローカル人工知能技術を使った無料 V チューバーシステムを提供開始というのがあります。

柊 : ああ、出ていますね。

小泉 : そこにある “<https://vtuber.userlocal.jp>” というところが、そのサービスで、カメラを許可すれば、カメラの前で動くと、それに反応してアバターが動くという。

柊 : ウェブでこれを作ったのか、ご苦労ですね。Unity ですかね、裏で動いているのは。

小泉 : それっぽいのですよね。ありがたいのは、これを zoom とか、YouTube のライブにくっつけられるというのと、キャラクター自体は自作ができると、自作したキャラクターを当てられるという話と。

柊 : でも、これ、すごいですね。リップシンクとまぶたがあって。眼鏡を取らないと駄目ですけど。リップシンクとまぶたと物理演算も結構やっていますね。

小泉 : 指手の動きもあって。前でクロスするのはダメですけども、その場で反対側ではなくて右なら右側で、上下に動かすとか、指の動きとかというのは、結構頑張りますって、頑張っていてやってくれていますね。

柊 : なるほど。

小泉 : ここの表情なんかでも、普通の顔がベースになっているものと、微笑んでいるものと大笑いしているものがベースになっているものといって、同じキャラクターで動かしてみても、やっぱり大笑いしているものとかをベースにすると、ちょっとわざとらしいなという印象があったりする。だから、ここは、もうインターフェースの世界なのだろうなと思って。

柊 : こういうの、出したのか。

小泉 : できるだけ、ヘッドマウントディスプレイとか持っていると楽しいのだけれども、公教育の場に持ってくるということになれば、そういうものがあるべく要らないものがないなと思って。これは、今濱田に遊ばせています。「面白い」と言っています。では、しばらく遊んでみて、あなたのところで配っている、GIGA スクール端末で、どれくらい重いとか、ちょっと試しておいてという感じです、今は。

柊 : 最近、何かいっぱい出た感じなのですかね、これ。この手のものは。

小泉 : 情報量としては、かなりインパクトの大きかった話なので、これくらいしかないのではないかな。あまり、こっち方面に明るいわけではないから、それほどひどくうとくもないので。あまり、これ以外のものは見ないですけどね。

柊 : どこかが開発して、有料公開したりしているのは、よく見ていたのですが。この辺は、確かに。このユーザーローカルぐらいのクオリティのものを仮想空間にずらりと並べるとうるさい気はするのですよ。仕事にならない気がする。

小泉 : あと、たくさん並べたら重くなったりしてね。

柊 : そこは、スマホが熱くなるだけなので、それは置いておくのですが。どうなのでしょうね、ここまでの、Mozilla の Hubs を。

小泉 : はい。

柊 : この Mozilla で手と手先と、何か線の少ないデザインで並んでいる分であれば、わちゃわちゃいっても授業になる感じはするのですが、ユーザーローカルクラスのもので、わちゃわちゃいると、ちょっとうるさいかもしれないです。

小泉 : 夜中のアニメ番組みたいな絵面になりますよね。

柊 : そうですね。そうね。教師にはこれくらいの高精細系は要るかもしれないけれども、学生はここまで要らないのではないかなという気がします。逆にマイナスになるのではないかなというような気もします。

小泉 : 実は、そこは姿がなくてもいいかなぐらいで思っているのですよ。姿もないし、名前が誰だか分からなくてもいいというかな。名前が分からなくていいというのは、間違っても恥ずかしくないから。

柊 : 姿がないと、教師側がやりにくくないですかね。

小泉 : それはあると思います。

柊 : 学生同士の姿はなくて、学生から見るともやとした影が、同じ先生を見ているでいい気はするのですよ。

小泉 : そうそう。だから、正体が分からないのだけれども、シルエットはあるとかね。テレビ東京にそうした番組がありますよね。観客が黒いの。

柊 : ありますね。

小泉 : オーディエンスが黒くて、出演者が顔だけあって、首から下がアニメってやつですね。そう。黒かったらいいか。

柊 : 黒か影ですね、影ではなくても、もやとした何かですね。

小泉 : うん。

柊 : 私は煙のほうがいいかなとは思いますが。動く方向が辛うじて分かるけど、どこが頭かよく分からないぐらい。そうすると、学生たちは集中するかなという気はしますね。

小泉 : そうか。私は、丸、点々ぐらいの顔とか。

柊 : 丸、点々って、何か怖くないですか。よく、そういうので、VR系のクラスターとかの霊とかで、よくそういうのが流れていますけど。

小泉 : そうか。

柊 : 何か、目がいっぱいあるのは怖いなっていうのは。

小泉 : 目か。

柊 : 自分、後ろとかを適当に見回しているような、あとシルエットとかって、人間の形って結構センサー、Kinectの一番新しいAzure Kinectとかを触っていたのですけれど、あれですら、今でも結構裏表間違えます。そうすると、下手にリアルなキャラクターで、前にいる学生の背中がぐるりとこちらを向くとか、そういう気持ち悪いことが起きかねない。起きると嫌なので、やっぱり、顔よりもシルエットか煙かなと思います。

小泉 : シルエットが一番よさそうな気がするかな、今の話を聞くと。ちょっと盲点でした。でも、シルエットはいいですね。

柊 : 教員側からは、顔の向きが全部分かるように、それこそ、にこにこマークぐらいになっているとかとなると、反応も分かるし、表情も出るようにしておいて、表情も分かるしというような感じですかね。

小泉 : 意外と、誰も手を付けてなさそうなのは、教師が授業をするときに、生徒の表情って何が、どのような表情をしていれば、やりやすいのかとか。

柊 : 我々はよく、表情で、よし説明追加しようとなっているので。

小泉 : なるなる、うん。

柊 : そこが分からないと、VRの意味がないという感じかと。

小泉：そうね。今日は、こちらは何時ぐらいまでですか。

柊：一応、もう終わっています。17時半までなのですよ。

小泉：でも、かなり押ししましたよね。

柊：かなり押ししましたので、このようなものでいいのかなという気はします。

小泉：そうでしたか。本学だと完全閉館が今19時になっているので、授業がないので。18時あたりから、あと15分ぐらいすると、閉館に向けての案内の放送があります。

柊：なるほど。うちもそこまで長くやっていると、アルバイトの学生たちが悲鳴をあげ始めるので。録画用の管理系をやっている学生たちが、こちらには数人いらっしゃるのです。

小泉：お疲れさまです。どうも、すみません、ありがとうございます。

柊：いいえ。取りあえず、ちょっと情報交換させていただいて、確かにHubsは無料でいけるのかどうかを確認しつつ、うまくいったら、小泉先生の方に連絡して、何ならVR空間で会いましょうとかいう形で進めていこうと思います。

小泉：そうですね。

柊：ちなみに、先生、ヘッドマウントディスプレイとかってお持ちですか？

小泉：持っていないです、これからね、必要に応じて買ってしまおうかなと思っているのですよ。私費にするか、研究費にするかというのも、いよいよ考えが難しくなっている。

柊：なるほど。

小泉：それなりにいろいろインスピレーションというか、学校の中動かすのにも、いろいろなインスピレーションがあつて。例えば、職務発明とか、職務著作とか出てきますよね。でも、個人研究費が少ないのであれば、それを職務ということではどの程度貢献するかと考えると、著作権とか、特許とか、もう、大学側がもらわなくていいのではないかと思います。

柊：なるほど。

小泉：今、柊先生の後釜として、知的財産権に携わっています。

柊：そうなのか。そちらの方をやっているのですね。

小泉：そうそう。だいぶ、昨今のコロナにおけるSARTRASの話とかで、大分仕事が増えてきて、あまつさえオーナー変わって、大学の名称が変わるでしょう。新しい大学の名称ができるわけです。それから、育英館ドットエーシードットジェイピーとURLが変わるので、今度は育英館って名前が意外とありふれていたりするものだから、大学はないのだけど、鹿児島とかに、鹿児島育英館高校とかがあったり、山口のほうに育英館っていう学習塾があったりするので、商標登録をすることになりましてね。

柊：そちらをやるのか。

小泉：育英館と、あと、ロゴと取りあえずします。だから、それで知財とかを結構動かしている中で、もう、特許とか、著作権を実施権だけ、実施権と管理の契約だけしておいて、教員はそれ持って歩いた方が、ここ研究環境として学者天国になってくるのではないかなと思っています。

柊：そうですね。

小泉：どうせ大学側で権利を持っても、何かあるのではないかなという。

柊：その辺は、ちょっと後日にしましょう。アバターの間でコソコソと話す感じで。

小泉：はい。

柊：分かりました。

あとは、メタバース系は今はいいか。ゲームとかは、学生がかなり、「これメタバースに使っていますよ」とか言うのですけどね。

小泉：Unity は、個人的には物理シミュレーションでやりたいというか、今、うちのゼミ生は 2 人いて、それこそ Steam の話をしました。3D プリンター等使って部品を作って云々という話をしているわけです。CAD とかも。例えば、そういうの、自動車みたいなところに昇華させて。あと、張江先生は、飛行ロボコンと言って、飛行機のシミュレーションとかをやっているのですけれども、だから、それを MATLAB 系の言語を使ってシミュレーションを作ったら Unity 上で動くのではないかなと、Unity 上で動かすとかはありなのではないかなと思っています。だから、今ちょっとそっち側に走ろうとしています、学生の指導としては、Unity も、多分することになるだろうなど。

柊：Unity 楽しいですよ。

小泉：そうですか。

柊：Unity あると空中での手の動きとか計算とか、結構自動でやってくれるので。手の位置をずっと追いかけて続けるカメラとか、結構作りやすいのですよ。サーボ 2 個くらいつないで、角度合わせて、多少いじって角度ずらすと、手をずっと追従するようなのが作れたりするので。

小泉：昔、Microsoft DirectX でやっていたことですね。

柊：そうですね。Mac 経由なので、うちは Unity でした。

小泉：そうか、なるほど。

柊：Unity に Mac の開発環境を経由させて行うとかをしていました。うちは Unity と Arduino です。

小泉：Arduino はうちでも使っています。

柊：使っていますよね。学生は、カメラの動きとかがさらに自由になって、ムービーシーンとかをシームレスに入れるからと言って、Unreal Engine のほうを最近勉強し始めていますけど。

小泉：いろいろやりたいと思うけど、分かりますよね、それはね。

柊：確かに映像作品という形に最終的に持っていくとなるとアンリアルとかのほうが確かに Unity よりはいいかもしれないですね。

小泉：そうですね、こちらは完全に物理シミュレーションで考えていたから。

柊：ちょっと、その辺も。もうそろそろこちら時間も押してきていますので、後日、その辺の話をしましょう。ちなみに、Hubs の方にも、スペース作ったりしていますか。

小泉：いや、まだです、これから。ちょっといろいろ理由があって、3 月まで動けない。

柊：了解です、ではその辺、こちらでいろいろ調べてみます。

小泉：ありがとうございます。

柊：それでは、お疲れさまでした。ありがとうございました。

小泉：ありがとうございます。それでは退室します。

柊：はい。

() 内＝編集者の追記

CHUBU UNIVERSITY
2022年2月18日

中部大学国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光2021年度

私達のSDG s 活動報告

中部大学CAAC 国際ゼミ生+サポーターズ

担当教授 羽後静子

研究生 足立晃久 飯田知恵子 小林 勉 富田泰弘
野上秀之 野田美智子 松本建夫 脇田武司

CHUBU UNIVERSITY

私たち国際ゼミ生の活動は、SDG s にコミットしています。

CHUBU UNIVERSITY

活動報告

春日井市とケローナ市の友好の輪を広げよう！！

1. ケローナ産ハスカップを春日井に
2. Goddesses of the Universeを春日井に
(宇宙の女神)

CHUBU UNIVERSITY

活動報告

春日井市とケローナ市の友好の輪を広げよう！！ 中日新聞2021年5月15日

ケローナ市はカナダの方々住みたい都市ナンバーワン！！

CHUBU UNIVERSITY

ケローナハスカップ農場について

CHUBU UNIVERSITY

CHUBU UNIVERSITY

ハスカップジャム

食べたいなあ

ケローナ産 北海道産

CHUBU UNIVERSITY

ハスカップ試供品完成

こんなに身体にいいのよ

■ハスカップの効果

ハスカップ
目の健康をサポート
骨や歯を丈夫にする
貧血予防
美肌効果

中部大学ロゴマーク

協力
中部大学 応用生物学部 食品栄養科学科
教授 根岸 晴夫
2020年11月

CHUBU UNIVERSITY

勝川ホテル 松波シェフ監修 試食会



ハスカップ入りデザート

CHUBU UNIVERSITY

清水屋本店にて試験販売開始 (中日新聞2021年6月20日)



ハスカップ メレンゲで香る

製作協力 恵那 銀の森

CHUBU UNIVERSITY

ハスカップの試食会

羽後CAACゼミ研究生 2022.1.20



宇田さん 4月からコロナ留学。頑張ってください！！

CHUBU UNIVERSITY



2. Goddesses of the Universeを春日井に (宇宙の女神)

CHUBU UNIVERSITY

活動の基本方針

私達は設置の実現に向け、次の内容を基本として活動しています。

1. 活動の主体は市民の会であり、本大学は積極的に支援をしていく。
2. 女神像の設置時期は、2021年の姉妹都市40周年記念行事に合わせ設置する。
*コロナの影響で設置時期が遅れている。
3. 女神像の製造、設置はできる限り春日井の手によって作る『オール春日井』を目標に設置を目指す。

↓

国際ゼミ生は、女神像設置実現のために活動を続けています。

CHUBU UNIVERSITY

Geert Maasと Goddesses of the Universe

Geert Maas

国際的に高く評価されているアーティストのGeert Maasは、さまざまなメディアで2次元および3次元の作品を発表されて活動されています。彼の作品は彫刻、絵画、レリーフ、そして金属芸術で表現されています。Geert Maasはオランダで生まれ、そこでハーグの芸術アカデミーに参加し、1979年、家族と共にカナダのブリティッシュコロンビア州ケローナに住所を移されました。

Goddesses of the Universe (宇宙の女神)

宇宙の女神は人生の喜びであり、女性に歓喜とインスピレーションを表現しています。異なる高さに配置されたアルミニウムと銅の球は惑星を象徴しています。これらの球の上にそびえ立つのは、様々な高さのアルミニウムの柱の上に座っている、三様の頭で飾られた鋳造青銅の記念碑的な彫刻です。



CHUBU UNIVERSITY

「Goddesses of the Universe」を春日井に！ (経緯)

○2019年3月、中部大学ケローナ訪問団とケローナの教育関係者・市民約60名がケローナの創始者家族のハープ田中氏と「友情の輪」製作者ゲイツ・マース氏と懇談。

○これまで交流をささえてくださった人々への感謝と次世代の姉妹都市交流を担う若者たちへ、持続可能な姉妹都市交流としてのメッセージ、そして 姉妹都市交流40周年記念として「Goddesses of the Universe」(以後、女神像と言う)を春日井市内で製作・設置してはどうかとの提案がなされました。

○訪問団帰国後、女神像の設置に向け活動がスタートし現在に至っています。

CHUBU UNIVERSITY

朝宮公園水鳥モノメントの跡地 Or 市役所周辺に設置予定



えうご期待ください！！

春日井市姉妹都市ケローナ（カナダ）におけるワイン・ハスカップ観光プロジェクト プレゼンテーション

脇田：私は CAAC——中部大学のシニアコース——の研究生の脇田でございます。今回は、私たちの SDGs の活動報告ということで、持続可能な観光 2021 年度のケローナプロジェクトということで今やっておりますので、ご説明をしたいと思います。8 人おりますが、私、脇田が代表して発表をさせていただきます。私たち、国際ゼミ生の活動は、SDGs にコミットさせていただいております。3 番と 11 番と 17 番ということで、3 番の「全ての人に健康と福祉」、11 番目の「住みやすい、住み続けられるまちづくり」、そして、17 番の「パートナーシップで目標を達成しましょう」ということで、このもとにコミットさせていただいています。活動報告といたしまして、2 つ分かれていきます。ケローナ産ハスカップを春日井にということと、もう 1 点は、Goddesses of the Universe を春日井にということ、この 2 点を我々は春日井とケローナの友好のためにやっていこうということで、今動いております。

それでは、活動報告といたしまして、春日井市とケローナの友好の輪を広げようということで、ポスターを見ていただければ、ケローナ市の雄大な大自然がおわかりかと思いますが、本当にケローナ市は、風光明媚で気候も温暖で定年後に住みたい土地のナンバーワンの場所でございます。

これは、春日井市の伊藤市長です。それから、ケローナの市長がオンラインで会合をされた様子がここに書いてあります。ケローナ市は、1981 年、春日井と姉妹提携を結びました。本来は、カナダはワインで有名でございますけども、近年、ハスカップという果実を作って地元の産業が大変頑張っておられるので、我々も、ハスカップを輸入して、ぜひ、春日井も一緒に姉妹都市として頑張りたいと思っています。

これが、ハスカップの農場です。ご紹介をさせていただきます。これは代表的な農家のトミーさんといわれる方なのですが、日系 3 世の方でございます。この方のおじさんが最初に始められて、今現在は、家族経営でされています。ハスカップの農場は、今ケローナに 20 ヶ所ぐらいあるかと思いますが、徐々に、知名度もあげてこられているようです。

ハスカップは、日本では、今、北海道の限られた地域で生産されておりますけども、カナダ産ハスカップは、北海道産とロシア産をケローナで掛け合わせたハイブリッドでおいしい果実であります。これが、実は現地で 5 月、6 月の収穫時の一時期だけ、スーパーで生のものを売っておられるみたいです。ただ、水分の多いので、生で販売するのはごく限られた時期かなと思います。

この写真は、ケローナ産ハスカップでありますけども、右が北海道産ハスカップということで、見た感じも大変違います。ケローナ産のほうが 3 倍ぐらいの大きさで、果樹として

も大変甘い。ブルーベリーと比べると、ちょっと落ちますけれども、大変おいしい果実です。これをケローナでは、一生懸命、ワインに次ぐ商品に仕上げていこうと考えられておられるみたいです。

これは、20年の11月に、生のフレッシュなハスカップをハスカップジャムとして完成させたものです。これは、中部大学の応用生物学部食品栄養科学科の根岸晴夫先生が11月に完成させた大変斬新なデザインで、これを皆さんに作っていただいて、ご協力をいただきました。

次が、ホテルプラザ勝川のシェフパティシエ松波政文氏監修の試食会の様子です。松波シェフが、ハスカップに大変関心をもってくださって、ご協力いただきました。作っていただいた、このハスカップ入りデザートが大変おいしく仕上がっています。ホテルプラザ勝川の松波シェフは、2016年世界料理オリンピックのナショナルチームに参加され、日本チームは、レストラン・オブ・ザ・ネイションズ部門で銀メダル、カリナリーアート（ワールドディスプレイ）部門でも銀メダルを受賞されています。私どもの考えに賛同していただいて、こういう試食会を開催できました。

続きまして、清水屋本店さんでハスカップ製品の試験販売を開始しました。2021年の6月20日のことですが、これは、恵那の銀の森さんのご協力のもと、ハスカップメレンゲというものを発売させていただき、完売いたしました。市内の方々には大変ご好評をいただきました。これは、6月の20日の『中日新聞』が取り上げていただきまして、さらに知名度が上がりまして、あちこちからお電話をいただきました。

これは、ハスカップの試食会の様子です。今年度の研究所の予算で新しく現地から取り寄せて、試食会をやっている様子でございます。これは、2022年の1月20日、ついこの間のことですが、これも皆さんにおいしく召し上がっていただきました。特に、今回は国際学科3年生の宇田さんに参加していただきました。実は、彼女は、今年の4月より語学留学でケローナに出発される予定でございます。語学留学と同時に、インターンシップもされる予定です。現地では、ぜひ、中部大学、そして春日井の知名度を上げていただくと同時に、このケローナハスカップの生産者の方にもお会いいただいて、ぜひ、さらなるご協力をお願いしたいですし、みんなで友好の輪を広げられたらいいと思います。

それから、このプロジェクトの2番目の活動として、**Goddesses of the Universe**——宇宙の女神でございますけれども——これを何とか春日井に持ってくる、ということがあります。この像は、ケローナに設置されているものですが、このレプリカをぜひ、春日井のほうに持ってきて、さらに友好の輪を広げようということにコミットさせていただいています。

活動の方針につきましては、ここに書いてあるとおりで、私たちは設置の実現に向けて、次の3点を基本として活動しています。まず、活動の主体は市民の会であり、中部大学は

積極的に支援をしていく、2 番目に、女神像の設置時期は、2021 年の姉妹都市 40 周年記念行事に合わせて設置する。これは、コロナ禍の影響で 2 年ぐらい遅れているような現状でございますが、ぜひ、何とか設立に漕ぎ着けたいと思います。そして、最後の一点は、設置はできるだけ春日井市の手でということで、オール春日井での設置を目指す。CAAC の国際ゼミは、このように女神像設置実現のために活動をしています。

それでは、女神を作られた芸術家のゲイツ・マース (Geert Maas) さんについて、少しご紹介をしたいと思います。彼は、2 次元及び 3 次元の作品の制作を中心に活動されています。彼は、彫刻とか、絵画とか、レリーフ、そして、金属芸術などで表現をされています。オランダに生まれて、ハーグの芸術アカデミーを出られ、1979 年に家族とともにカナダのブリティッシュコロンビア州に移られて、現在もそこにおられます。

そして、この宇宙の女神という作品は、ご覧いただければおわかりと思いますが、女性を表しているわけですが、神のインスピレーションを表現されたそうです。そして、異なる高さに配置されたアルミと銅の球体は惑星でございます。そして、高さの異なるアルミ柱、その上に三体、それぞれの向きが違いますけども、こういう表現で宇宙を表して、宇宙に向かって我々の平和と友好と優しさを表したと聞いております。

今までの経緯だけ申し上げておきますと、2019 年 3 月に中部大学ケローナ訪問団とケローナの教育関係者・市民約 60 名が、ケローナ姉妹都市提携の立役者ロイ・田中さんのご子息であるハープ・田中氏と「友情の輪」制作者ゲイツ・マース氏と懇談をしました。そのときに、ぜひ、この女神像を春日井に作りたいということになったのが始まりです。「友情の輪」というのは、今から 3～4 年前に春日井市の市役所に設置をされたものです。

これまで交流を支えてくださった方々への感謝と、次世代の姉妹都市交流を担う若者たちへ、姉妹都市交流の 40 周年記念をして、この女神像をぜひ春日井市内に作っていききたいと提案をされたものです。そして訪問団の帰国後、女神像の設置に向けた活動が本格的に始まったということでございます。

その後、ようやく春日井市での設置の具体案がまとまってまいりまして、現在、春日井市の市民の会と春日井商工会議所有志、そして市役所のご協力をいただき、実現の目処が大方ついてきました。コロナ禍の影響で随分遅れてはおりますが、設置場所については、今のところ朝宮公園、もしくは市内のどこかでと案を練っております。これは、朝宮公園と市役所を結ぶ緑道でございますが、その一番終着点にこのオブジェがありますが、これが 2 月に解体をされました。ここに設置するか、もしくは市役所の周辺に作るかということが、今市民の会と春日井商工会議所、そして、我々ゼミでいろいろ話し合っておりますので、乞うご期待をいただければありがたいと思います。

そういうことで、ポスターセッションは終わりということですので、どうもありがとうございました。

コロナ禍におけるニューツーリズムの考察

ー中部地方の宿泊施設と「ワーケーション」ー

STUDY ON NEW TOURISM IN COVID-19 PANDEMIC:
ACCOMMODATION AND "WORCATION" IN THE CHUBU
REGION

渋谷 誠明（中部大学国際関係学部）

呼春（中部大学国際人間学研究所・院生）

SHIBUYA, Shizuaki and Huchun

本プロジェクトの方向性

- ・2020年度より「Sustainable heritage tourism in Malaysia」+「内モンゴルにおける草原観光の季節的変動」が合体。
- ・「アジアにおいて地域に根ざした、気づかれなかった観光資源の発掘」という共通課題の追究。

⇒コロナ禍で海外現地調査不可に。

⇒この機に日本のオルタナティブツーリズム（ニューツーリズム）の基礎研究を実施？

⇒コロナ禍で可能なオルタナティブツーリズムは？

コロナ禍のニューツーリズム

- ・マイクロツーリズム：新型コロナの流行をきっかけに感染防止の観点で広がった、自宅から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光を中心とし、地域の魅力の再発見と地域経済への貢献を念頭に置いた旅行形態。
- ・ワーケーション：リゾート地や地方部など、普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得を行うこと。あるいは休暇と併用し、旅先で業務を組み合わせる滞在のこと。

⇒最近では短期間の観光というより「遠隔地への移住」で地域の関係人口を増やす試み？実態は？



ホテルの「ワーケーションプラン」

- ・大都市のシティホテルにおいて、ワーケーションというよりはむしろテレワークの場所を提供するケース。
- ・大都市圏周辺部が遠隔地の天然温泉のあるホテル等で、比較的長めの滞在を想定したケース。
- ・「ワーケーション」イメージ：大都市と都市周辺部以遠の様相がかなり異なるか？
- ・「ワーケーション」を使用しつつ、基本的にはコロナ禍で減少した客足を少しでも取り戻そうとする試み？

「ワーケーション」？

- ・総務省「情報通信白書」サイト：ワーケーションは「リゾート地などで休みを取りつつ（または引越して）テレワークをする働き方を指す」と記される。
- ⇒移住も視野に入れた概念？通常の観光概念と異なる？
- ・地域（自治体）と関連事業者には、ワーケーション市場の拡大による関係人口の増加と地域活性化や事業化の可能性への期待がある（田中・石山、2020）

中部地方におけるインバウンド観光の 季節的変動に関する一考察 —台湾からのバスツアーを中心に—

A STUDY ON THE SEASONAL VARIATION OF INBOUND
TOURISM IN CHUBU AREA, JAPAN:
FOCUSED ON THE BUS TOUR FROM TAIWAN

澁谷 鎮明（中部大学）

SHIBUYA, Shizuaki

* 2019年度日本観光研究学会大会にて発表済

1.はじめに

- ・本報告は、①中部地方を訪れる外国人観光客の季節的変動と、②それによる地域の観光地への影響の一端を明らかにしようと試みるものである。その際に、以前より行われている、中部地方を周回する台湾からのバスツアーの動向を手掛かりに研究を進めることとする。
- ・観光の季節変動については、観光研究の中で以前から取り扱われてきた基本的なテーマ。
- ⇒オフシーズンやハイシーズンの存在と収益のリスクなど
- ⇒スキーや海水浴など季節性の強いレジャー
- ⇒これらのレジャーに対応した民宿村、スキー集落形成など地域への様々な影響

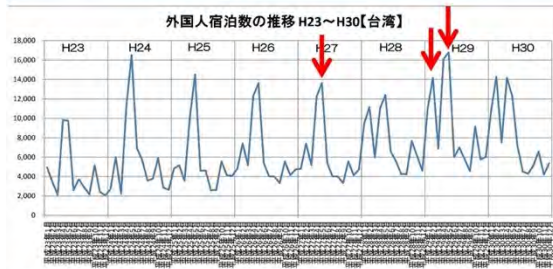


図2 高山市における宿泊者数の季節的変動(台湾)
(高山市観光統計、2019より)

1.はじめに

- ・このような季節的変動は後述のように、黒部立山アルペンルートが開通する時期に台湾からの観光客集中が要因。
- ⇒人気の黒部立山アルペンルートを通過するバスツアーが4-5月に集中
- ・休暇の時期だけではなく、外国人観光客の嗜好や文化社会的背景に関わる？
- ⇒理解しにくく、予想がつきにくい現象であるとも言え、日本のインバウンド観光研究において詳細に追究すべき課題の一つではないか。
- ⇒「いったいなぜこの時期に来ようとするのか？」

2.中部地方のインバウンド観光とバスツアー

- ・張郷ほか（2013）・澁谷（2014）：太平洋側から日本海側を周回する台湾や香港からの団体ツアーが多数訪れる。
- ・観光関連業者によると、2005年の愛知万博開催、2007年の東海北陸自動車道の全線開通の時期に、立山黒部アルペンルートが台湾の観光客に人気となり、現在のようなツアールートが形成され、それ以降台湾では人気のコース（澁谷ほか、2015）。
- ・図3に示すように、アルペンルート、北陸の温泉地、そして主として名古屋にある免税品店がコアとなる目的地であり、歴史、自然景観、体験などのバランスをとりながら、各地の観光目的地を組み込んだルートが設定される（澁谷ほか、2015）。⇒香港、中国大陸、韓国のツアーも？

走吧！去體驗一下
大自然四季變化的感動！
<http://www.alpen-route.com/tw>

立山黒部アルペンルートの台湾向けパンフレット:「雪の大谷」2006年頃より台湾で高い評価。

⇒「雪の大谷」が見られるのは、日本のゴールデンウィークに合わせた除雪が済んだ4月末から5月末。⇒この時期に台湾からのツアーが集中。



台湾・香港からのバス
ツアーの目的地(澁谷、
2014)

3.台湾からのバスツアールートの季節的変動

- ・ところで、このようなバスツアーのルートに組み込まれる観光目的地の中には、冬季に休業してしまい、利用できなくなるものが多い。
- ・中でも、最も重要な立山黒部アルペンルートや、上高地が冬季に閉鎖されてしまうことで、台湾からのバスツアーは、冬季にルート変更を余儀なくされる。
- ⇒ツアーを冬季も維持しようとするれば、新たな目的地が必要となり、ロープウェイ、スキー場での雪遊びなど雪に関連した施設や、商業施設が選択される？

出発地	台北	←台湾からの中部地方ツアーの事例1: 「秋恋阿爾卑斯」(10月出発)
価格	32,800NT\$ (約11万円)	
1日目	台北→中部空港 中部空港→ 牧野の里 →高山温泉 高山泊	
2日目	高山→白川郷→金沢市内(兼六園・東茶屋街)→富山 富山泊	
3日目	富山→称名の滝→ 立山黒部アルペンルート →松本或いは白馬近辺 松本或いは白馬泊	
4日目	松本・白馬→ 上高地 →名古屋(免税店・熱田神宮・栄) 名古屋泊	台湾からの中部地方→ ツアーの事例2 「北陸名花彩燈季」(12月出発)
5日目	名古屋→富山→中部空港 中部空港→台北	
出発地	台北	
価格	29,300NT\$ (約10万円)	
1日目	台北→中部空港 中部空港→高山(古い街並) 高山泊	
2日目	高山→ ロープウェイ・スキ場(雪遊びD) →金沢市内(兼六園・東茶屋街) 金沢泊	K旅行社印より作成
3日目	金沢→白川郷→ 郷土八景 →名古屋(免税店・熱田神宮・栄) 名古屋泊	
4日目	名古屋→ 熱田神宮 → 徳川園 → ジャズドリーム長島 → なばなの里 → 名古屋泊	
5日目	名古屋→中部空港 中部空港→台北	

3.台湾からのバスツアーの季節的変動

- ・このような**冬季用のルートに「スイッチ」**するのは、アルペンルートが閉鎖される**12月**である。そしてアルペンルートが開通され「雪の大谷」ができる**ゴールデンウィーク前(4月)**には、冬季用のルートから、アルペンルートを通過する本来のルートに**再度切り替えられる**。
- ・また図2に示した、高山市の台湾からの宿泊者数の推移をみると、以前は4月だけにピークが認められたが、近年は2月にもピークが見られるのは、春節の休暇とともに、このようなルートの利用も影響してはいないだろうか。

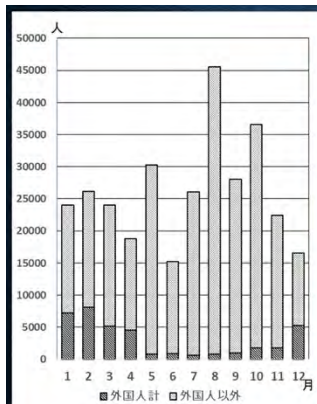


図4 Sロープウェイの外国人客の占める割合 (Sロープウェイ資料により作成)

⇒12~4月まで外国人客が増加する。

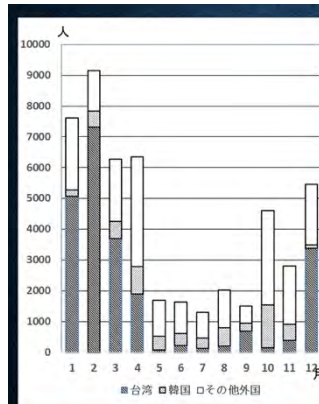


図5 Sロープウェイの国籍別外国人乗降客数の推移 (Sロープウェイ資料により作成)

⇒12~3月の台湾からの乗降客の多さ。

4.季節的変動のある中部地方の観光地：奥飛騨地域の事例

- ・これは、前述の台湾からの団体ツアーが、冬季に閉鎖されるアルペンルート等の代わりにSロープウェイを訪れているためであると思われる。本来このロープウェイは夏季に利用客が多い観光施設であったが、**台湾からの団体ツアーが訪れることで、冬季の利用者が増加している**。
- ・またSロープウェイの利用とともに、台湾からのツアーが「雪遊び」の時間をとることが多く、この地域のスキー場ではそのような施設を新たに設けており、地域の観光の動向にそれなりの影響を与えつつある。

5. おわりに

- ・中部地方に多く訪れる台湾からの団体ツアーは、バスでの移動を伴うが、一部の重要な観光地が冬季閉鎖されるために「冬季用ルート」を持っており、12月と4月に切り替えが行われる。
- ・奥飛騨地域では、代替観光地となるSロープウェイにおいて、12月から3月に台湾からの観光客が顕著に増加しており、それに伴って「雪遊び」の場所も設けられるなど、それなりの影響がある。特に一度の多くの外国人客がもたらす**団体ツアーの季節的変動**は、観光地側への影響を与えやすいものと思われる。

アジアのオルタナティブツーリズム研究プロジェクト 自由懇談

澁谷鎮明（国際関係学部国際学科教授）：フムチル先生、こんにちは。

フムチル（内モンゴル大学蒙古歴史学系准教授）：こんにちは。今、別室で呼春君のポスター発表聞いてきました。

澁谷：どうでしたか。

フムチル：研究テーマは非常に面白いと思いますし、こういう旅行関係の専門知識を身に付ければ役に立ちますね。内モンゴルの今の旅行産業や観光産業はひどい状態ですから。

澁谷：そうですか。

フムチル：だから、そういう専門知識をもった人材が必要なのですが、今回の発表では、事例が少ないから、その辺を指摘しておきました。事例を増やしてバリエーションを付けたら、実態に近づけるのではないかと思います。

澁谷：ありがとうございます。

フムチル：学校周辺地域の中国人が何を求めて海外に旅行するのかということを研究したら、旅行者の心理を利用した、資源開発ができるのではないかと思います。

澁谷：岡島さんが入って来られました。

岡島健（中部大学国際・地域推進部国際連携課長）：呼春さんの説明を聞こうと思ったのですが、もう終わっていました。

澁谷：そうですか。内モンゴルからメールいただきました。内モンゴルの学生さんたち、日本に来られるかもしれませんね。

岡島：そうですね。まだ、ちょっと詳しいことが分からないのですが、彼らも、さすがにかなり待たせてしまって申し訳ないので、できるだけ早く来られるようにしたいですね。ガンダルさんから日本語と中国語でメールをいただきました。

フムチル：私も、この前、アスハンに会ったのです。日本語の試験を受けに来て、それが通ったかどうか分からないけれど、一応日本語が前より、だいぶまくなりました。

岡島：そうですね。皆さん、日本語の授業、オンラインですけど、すごく頑張っていていらして。

澁谷：そうですね。オンラインでここまで上達するって、私思わなかったのですが、なかなか皆さん頑張ってくれました。

岡島：はい、頑張ってくれています。

澁谷：大学院の授業もちゃんと受けていますね。リモートで。大変だと思いますね、本当は。

フムチル：そうですね。でも、今朝、ニュースを見ていたのですが、3月1日から、何とかなるといような気がしているのです。もう一つ、先生にちょっと聞きたかったのです。今度、また数人入学希望者がいるのですが、どうすればいいかなという話を聞きたかったのです。

澁谷：多分、うちの大学院にリモートで受け入れるのは、今のところ難しいかもしれませんが、来られるのであれば、やり方はあるのではないかと思います。

フムチル：そうですね。私も3月1日から日本が、開放するという事になったら、行けることは行けると思うのです。ただ、面接などは多分、オンラインでやらなくてはならないと思います。

澁谷：そうですね。

フムチル：中国は、まだ開放してないので、開放することにしても、コロナ禍で、先生たちが、こちらにきて対面で面接するのは、ちょっと無理かなと思います。もし、リモートが難しいのだったら、必ず行くのですが、もし、その両国側からの、特に日本が留学生を受け入れることが可能になったら、面接をオンラインでやってみるかなと、先生と相談したかったのです。それは、私の個人的なことですが。

澁谷：多分、大学院のほうで許可が出れば、協定があるので、リモートの面接もできるのではないかと思います。

フムチル：そうですね。

澁谷：ただ、今となって、いつごろやるか問題もちよっとありますね。

フムチル：そうですね、ここしばらくコロナ禍になってしまったので。

澁谷：今、ぜひ行きたいというのは、何人ぐらいでしょうか。

フムチル：4 人です。もし、リモートでできればという話もしたのですが、そのときリモートでも構いません、まずリモートでも参加して行けるようになったら、そのときに行くという感じでした。

澁谷：そうしたら、岡島さんにも、この前お話をしましたけど、ちょうど呼春君もいますけどね。3 月中旬ぐらいに、うちの大学院の話を大学の紹介も含めてしたらどうかと思います。zoom でと考えているのですが。そこで、その時間までには大学院の決定が間に合わないのですが、紹介だけでもできるかなとは思っています。

フムチル：私も、学生達には、そのことを伝えています。ただ、本来ならば、2 月 20 日に、学校が始まるのだけど、一昨日から、突然、新たな感染者が増えてきて、きょうは、もう 30 人近くになっているのです。

澁谷：そうですか。

フムチル：学校の学生たちは、既に切符を買っていたのですが、それを全部返金してもらって、家に待機するということになっているのです。でも、zoom などでするのだったら、ほとんどの人が自宅からできるので大丈夫だと思います。いつ学校が再開するかは分からない。取りあえず、私たちもオンライン授業になる方針になっています。

澁谷：ちょっと、思うのですが、日本に來たい子がいるとして、例えば、現在の状態では中国よりも日本のほうが感染者数がものすごく多い状態ですね。内モンゴルの学生たちがこの状態で来る、来ようと思うかなということを考えてしまいますね。

フムチル：若者たちは、あまり、これを気にしていないのですよ。

澁谷：気にしてない。

フムチル：感染しても、どうせ治るから、という感じです。

澁谷：そうですか。そうなのかもしれないけども。

フムチル：長期的に見てもインフルエンザみたいに、人類と共生するというのは、みんなそう考えているみたいです。

澁谷：そうですね。

フムチル：だから、自分の体をよく鍛えて、感染しても、すぐ治るようにする。そうするしかないかなと思います。ずっと、困っていても、なかなか前に進まないですから。人生の雇用関係ってというのがあって、日本に行って何々の勉強をして、もしくは日本で働きたいと

か、そういうふうを考えている人たちもいるのです。だから、コロナだけでは人生の計画を変えることにもならないですから。

澁谷：そうですね。そうか、なるほど。岡島さん。中国からの学生さん、内モンゴルからの学生さんが入ってきたときに、ワクチンの問題とかはあるのですか。

岡島：まだ政府の決定が分からないのですが、前のときは、中国のワクチン、シノヴァクですか。

澁谷：はい。

岡島：それを認めていなくて、待機期間が長めになっていたのです。2回ワクチン打ったという証明書があれば、待機期間も短いということだったのですが。入ってこれないことはなかったのですが。今回はどういうふうになるのか、細かい発表がなくてわからないのです。ただ、ワクチンを打っていないからとか、中国のワクチンが認められないから入国できないということは、恐らくないと思います。

澁谷：それはないと。

岡島：ただ、待機期間が長くなったりとか、そういう不都合はあったりするかもしれないです。

澁谷：あとは、もう一つ、以前と比べて、待機期間が短いのですよね。

岡島：短いです。長くて7日だと思います。

澁谷：なるほど。そうすると、そこにかかる費用もだいぶ楽になりますね、以前よりは。

岡島：そうですね、ひょっとしたら自宅待機も、それで可になるかもしれないので、そうすると、到着したときに検査をして陰性ならば、24時間以内なら公共交通機関でも移動できるという。そうすると、高いハイヤーで移動しなくてもいいので楽です。

澁谷：そうですね。

岡島：いろんな条件が楽になるかもしれないです。以前、14日間必要だったときよりも、大分、恐らく安くなるのではないかと思います。

澁谷：分かりました。

岡島：どういう順番で入ってこられるようになるのかは分かりません。以前は在留資格認定証明書の古い人からでしたから。今回どうなるのか、留学生は15万人ぐらい入ってこれていないという話もあるので。そのうち、5,000件が上限では、さらにほかの入国者も含めるとなると、順番待ちになって時間がかかる可能性はあると思います。

澁谷：なるほど。

岡島：まだ、全然詳しい通達がないので分かりません。

澁谷：4人の院生さんは9月入学なので、次の9月になる前に卒業になりますね。

岡島：そうですね。

澁谷：9月入学になると思うのですが、確か、修論の提出時期が早いのですよ、9月入学の人は。

岡島：何月ぐらいなのですか。

澁谷：5月末とか、6月。それでも来るか、という問題もあると思います。

岡島：それは、やはりご本人たちに来たいかと聞いた上でないと。前は、それでも来たいとおっしゃっていたような気がするのです。

澁谷：そうですね。僕は、そのときにガンダル君にメールを打ったのですが、来る意味があるのかという話だったですね。先々日本にいるなら意味がある、という返し方をした記憶があります。例えば、日本の博士後期の大学院に行きたいならば、協定校入試はないですから、日本で試験受けるしかない。

岡島：そうですね。

澁谷：そうすると早めに、少しでも早めに来ておいて受けるという選択肢があるかなと思ったのと、もう一つは、日本にある資料を使おうとしている場合には、来たほうが得だろうというふうにお話をした記憶があります。

岡島：そうですか。ガンダルくんは来たいのではないかと思います。これだけ待って、本当に来たいのですというメールでした。

フムチル：そうですね。今までオンライン授業に参加してきた、この4人だと、多分、みんな来たいし、これからも数年間日本にいたいのではないかなと思います。博士後期に入るにしても、あるいは日本で就活したいという考えを持っているかなと思いました。

澁谷：はい。

フムチル：もう一つは、ずっと日本に行かずに日本の大学の修士号を取ったときに、中国の教育法では認定はするのですよ。それに問題がないかどうかという話で、これは恐らく中部大学のほうが、中国の在日、駐日、中国大使館などと、何らかのやり取りをしないといけないと思います。日本に行っていないのに——パスポートを見ると分かりますが——一度も行っていないのに、日本で学位を取ったといっても認定してくれないですから。

澁谷：なるほど。

フムチル：そうした問題もあります。博士前期課程が認定されなければ、内モンゴルでも博士後期課程には入れないし、就職活動のときに国で認定されていない外国の学位は認められないですから。

澁谷：そうですか、なるほど、それ重要ですね。

フムチル：そうですね。もし、それが認定されるのだったら、もしかしたこの博士後期に入る人もいないかもしれませんし。

澁谷：だとすると、修士号のためにも来たほうが良いという考え方もありますね。

フムチル：そうですね、一度も日本に行っていないのに、この修士号はどうやって手に入れたのかということになります。なぜ、こういうことを言っているかというと、タイかベトナムだったかの大学からコロナ禍の間に、学位を取った人がたくさんいるのです。それはお金を払えば、学費がもらえてしまうので、それで博士号を持ってきて大学に就職したりする人もいます。それを防ぐためにも中国の教育部から文科省に対して、新しい規則ができて、もし、卒研をする前に、最低どのくらいの期間留学先の国に滞在していなかったら、学位は認められないという規則があるのです。

澁谷：なるほど。

フムチル：だから、認められなければ、もう、かわいそうじゃないですか。

澁谷：そうですね。あとは、指導するほうから考えたときに、やはり来たほうが楽ですし。

フムチル：そうです。もちろん。

澁谷：そうですよね。修論とかは、かなり個別指導的になっていくので、これが、あれがと言えないと、結構つらいですね。見ていて、来てもらったほうがいいな。

フムチル：そうだと思います。

澁谷：いろんな意味でそうですね。岡島さん、いつごろ来られそうでしょうかね。この感じではかなりかかりますか。

岡島：分からないですね。3月1日からなので、恐らく来週中には政府からの方針が出ると。それからすぐゴーなのですが。でも、彼等は、割と在留資格認定証明書が古い人たちなので。

澁谷：そうですね。

岡島：大分、早いかもしれない。もし順番なら、早く入っていいことになると思います。

フムチル：そうですね。在留資格が与えられたときから計算することになったら、多分、順番的には早いかもしれないですね。

岡島：早いです。

フムチル：恐らく、そういう基準があるでしょうね。どっちが先にとというのは。

岡島：そうですね。

澁谷：ないと困りますものね。

岡島：入国者は留学生だけでもなさそうですし。

澁谷：お話できてよかったです。

フムチル：私もずっと先生と、このことについてお話ししようと思っていました。でも、年度末だから、先生も恐らく忙しいだろうと思って、メールはしてなかった。

澁谷：メールしてください、いいですよ。呼春君、発表してどうでしたか。

呼春：自分の意見を紹介しました。

澁谷：紹介できましたか。

呼春：はい。

澁谷：まさか、フムチル先生が来るとは思わなかったかな。

呼春：はい。そうです。

澁谷：びっくりしたでしょう。

岡島：呼春さんは、フムチル先生に教えていただいていたのですか。

フムチル：私の学生です。

岡島：そうですか。

澁谷：そうなのですか。

フムチル：はい。

澁谷：それは知らなかった。

フムチル：私、あまり、大して教えていないのですが。何を教えたのでしたっけ。観光心理学みたいな、そういう授業を教えた気がしますね。でも、クラスの担当、担任ではあった。

澁谷：クラス担当は大事ですよ。

フムチル：はい、呼春君と、よくお酒を飲んでいました。

澁谷：そうなのですね。呼春君は、早く来ていてラッキーでしたね。

フムチル：そうですね。

澁谷：それなりに大変だとは思いますが。

フムチル：ちょうど、私、早稲田にいたとき、彼東京にいたので。

澁谷：そうでしたね。

フムチル：そこで、東京で会ったのですが、今日、聞いてみたら、日本語はそのときより大分上手になりましたね。

澁谷：そうですね。

フムチル：はい。

澁谷：みんなも、そう思います。

フムチル：はい。

澁谷：去年、試験受けたときに、すごく苦労していたので、彼は。心配していたのですが、全然、問題ないですね、今は。

フムチル：そうですね、日本語は結構うまくなりましたね。だから、私も聞いていてうれしかったです。

澁谷：それは何よりです。

フムチル：はい。急いで帰って来るよりは、ずっと日本にいて、日本に生活してもいいですよ、ここに。

澁谷：きょうのウリハン先生、あまり質問が出なくて申し訳なかったんですけど。

フムチル：いいえ、大丈夫です。彼女は、総合討論の後に、会社で用事があると言っていましたので。

澁谷：そうですか。修士号を取ってイギリスから帰ってきたばかりですか。

フムチル：そうなのです。

澁谷：素晴らしいですね。

フムチル：でも、マネジメントを専門に学んだのですが、観光学ではないので、あまり専門的な話はできなくて申し訳ないと私に言っていたのです。でも、私も、なかなか準備する余裕がなかったので、彼女に頼んだら、引き受けてくれたので、私もありがたかった。

澁谷：でも、マレーシアの人の発表と、彼女の発表で、何となく全体像が見えた気がするのです。

フムチル：世界各地の事例というか、そうですね。

澁谷：ちょうど反対みたいな感じでよかったと思います、本当に。

フムチル：そうですね。でも、この前、ウリハンが私に言っていたのは、内モンゴルの観光業というのは、コロナ禍がなくても全然ダメだって。

澁谷：そうなのですか。

フムチル：これ、どうにかしないとして。

澁谷：そうですか。

フムチル：はい。中国のほかの、特に東南部の地域に比べると、全然観光業がダメなのです。

澁谷：そうですか。

フムチル：はい。後進地域です。

澁谷：国内から遊びに来る人がいそうですけど、そういうわけでもないのですね。

フムチル：内モンゴルには夏の間に1ヶ月、2ヶ月ぐらいは観光客が来るのですが、ほかの季節ではあまり来る人がいないのですよ。しかも夏が短いし。

澁谷：確かにそうですね。季節産業ですね。なるほど。

フムチル：自然環境が一つのメインだけれども、やはりこういう面での人材がなかなかいないから、それは最も大きな問題かなと思いました。

澁谷：なるほど、なるほど。そうか。

岡島：澁谷先生は、内モンゴルに行かれたことはありますか。

澁谷：何度も、呼んでいただいたというか、行きました。フムチル先生にお世話になりました。

フムチル：いいえ。

岡島：やっぱり観光もなさって。

澁谷：いろんな人にいろんなところに連れていってもらいました。

岡島：そうですか。

澁谷：4～5回は行ったのではないですかね。

フフムチル：そうですね。私が内モンゴル大学に来てから、先生が、多分、3～4回ぐらい来たのではないかと思います。その前にも、来ていたという話しも聞いています。

澁谷：はい、そうですね。

フフムチル：このコロナ禍が何とかなったら、またぜひ、来てください。岡島さんもぜひ、いらっしやってください。

岡島：そうですね、ぜひ行きたいです。

澁谷：ぜひ。

フフムチル：あまり見るものもないのですが。歴史とか、そういうものの痕跡があまり残っていないし、もともと遊牧民の居住地域という、それと海に遠いところなので、あまり都会とか、そういうのを昔から築いた歴史がないので、お寺は数件ぐらいあるだけで、古い町とかも全然ないのですよ。

澁谷：でも、前に柳谷先生と一緒に内モンゴルに行ったじゃないですか。

フフムチル：はい。

澁谷：柳谷先生は食べ物おいしいと。また行きたいと言っていましたよ。

フフムチル：確かに観光しに来る人は、たまに食べるものだからおいしいかもしれないですね。

澁谷：内モンゴルは肉だけじゃなくて、農業地域もあるので、ちょうどバランスがいい気が個人的にはします。

フフムチル：食べ物はいろいろありますよ。内モンゴルには、漢民族も多く暮らしているので。

澁谷：そうですね。

フフムチル：中華料理という漢民族の食文化は、本当にいろいろありますから。モンゴル人みたいに、肉ばかりじゃないですから。

澁谷：ヨーグルトもおいしかったですよ。

フフムチル：はい、そうですね。

澁谷：非常によかったです。あれは、牛乳系ですか。

フフムチル：はい、牛乳を発酵させた。

澁谷：なるほど。

フフムチル：ヨーグルトとか乳製品と、肉食と、あとは中華料理。

岡島：食べ物おいしいのはとても大事だと思います。

フフムチル：そうですね、それは一つの農牧折衷帯としての強さですね。

澁谷：ですよ。泊めてもらった内モンゴル大学のホテルでしたっけ。

フフムチル：はい。

澁谷：あそこの1階の食堂の食事でさえおいしかったという記憶があります。

岡島：いいですね、中部大学の食堂よりいいのでしょうね。

岡島：中部大学も悪くはないですけどね。

フフムチル：でも、日本にいたころは、あまり食堂の食べ物はおいしいというふうな感じはしていなかったのですが、こっちに帰って来て日本料理屋さんに行くと、昔の東北大の食堂で

出ていたものばかりなのです。私も作るのですが、材料がないから仕方がなく、たまには食べに行くのですが。

澁谷：そうですか。

フムチル：とんかつや厚焼き玉子とか、から揚げとか。あと、鯖の塩焼き。大体大学の食堂で出ていたものです。

澁谷：そろそろ時間ですかね。5時半までですね、もう終わっているのかな。

フムチル：そうですね、5時半までだったら、5分押しています。

澁谷：じゃ、フムチル先生、どうもありがとうございました。

フムチル：ありがとうございました。

澁谷：また、3月中旬ぐらいにお願いします。

フムチル：はい。こちらこそ、よろしくお願いします。

澁谷：はい、じゃ、これで出てよろしいかと思いますので、お疲れさまでした。

フムチル：お疲れさまでした。

澁谷：呼春君も、お疲れさん。

呼春：お疲れさまでした。

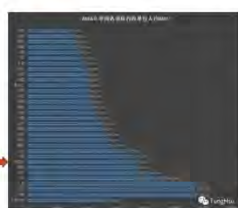
() 内＝編集者の追記

中国周縁地域からの訪日観光に関する研究 —内モンゴル自治区を事例として—

国際人間学科 国際関係学部
名前：呼春 学籍番号：KN21001

はじめに

内モンゴル自治区は経済発展し、人民の生活水準の向上と余暇が増加している、そのため、海外への観光旅行をする人々が多く見られるようになった。日本への観光客も増え、特に中国の新しい休日制度改革の推進に伴い、長い休みが減り、短い連休が増えている。そのため多くの観光客が、距離が近く、文化の差が大きい日本を旅行へを選択するものと思われる。



2016年の中国各省級行政単位の1人当たりのGDP



データによると、2019年には4時間以内の旅行先が中国人観光客の最も人気のある選択肢となっている。2019年の訪日客数は中国が20%でトップを占め、次いで韓国が14%、米国が11%となっている。

研究目的

本研究では、中国周縁地域からの訪日観光の現状を明らかにする。中国からの訪日観光客は日本における観光学的研究で注目されている。しかし、中国の地方ごとの訪日観光の状況は十分に調べられていない。そこで中国の地方都市など「周縁地域」からの訪日観光の状況について研究したい。具体的には訪日客の規模と変化、日本観光イメージ、訪日時の観光行動などを明らかにしたい。事例として、内モンゴル自治区研究対象地域とする。

研究方法

研究テーマに関する研究や各種資料を分析しつつ、訪日観光経験者へのインタビューを利用して内モンゴル自治区の訪日旅行を明らかにする。分析の際に、内モンゴル自治区の訪日旅行と上海・北京など訪日観光先進地域との比較対照から、その特性や地域差を見出す。

内モンゴル自治区からの訪日観光経験者の事例（インタビュー）

<インフォーマットの属性>

- ・内モンゴル自治区オルドス市在住
- ・女性、20代、大学生
- ・2名での個人旅行
- ・個人ネット予約で手配
- ・9泊10日の日程



インフォーマットの観光旅程		
1日目	オルドス市→北京→関西空港→大阪道頓堀	大阪泊
2日目	大阪市内観光（心斎橋など）	大阪泊
3日目	大阪ユニバーサル・スタジオ（USJ）	大阪泊
4日目	大阪水上バス→サンタマリア号	大阪泊
5日目	大阪→東京都内観光（銀座、六本木など）	東京泊
6日目	渋谷でショッピング→SHIBUYA SKY	東京泊
7日目	原宿でショッピング（supreme、X-Large、Bapyなど）	東京泊
8日目	浅草寺→台場→新宿	東京泊
9日目	東京→神戸市内でショッピング（柿本商店など）	大阪泊
10日目	大阪→北京→オルドス市	韓国

まとめ

中国内モンゴル自治区からの個人旅行者へのインタビューによると、若者層が日本旅行の主力になりつつあるようである。団体旅行でも自由行動のある旅行製品が人気を集めている。春は桜、夏は海、秋は紅葉、冬はスキー、温泉などの観光資源が評価されて、四季を通じて日本旅行は人気であるという。

インタビューによると、日本への個人旅行をする人々は、20代の若い女性が主力で、日本は女性に非常に人気のある目的地である。たとえば、温泉、医療観光、ドラッグストア、女性向けホテル、カプセルホテル、和服、和食料理、茶道などは、いずれも女性が好む観光体験である。

中国周縁地域からの訪日観光に関する研究：内モンゴル自治区を事例として プレゼンテーション

王 瑩雪（国際人間学研究科博士後期課程 3 年）：これから国際人間学研究科の呼春さんから、「中国周縁地域からの訪日観光に関する研究：内モンゴル自治区を事例として」という面白い本で発表していただきます。それでは、どうぞ。

呼春（国際人間学研究科博士前期課程 1 年）：こんにちは。中国の内モンゴル自治区出身で、今中部大学の国際人間研究科で勉強している博士前期課程 1 年生の呼春と申します。よろしくお願いします。私のテーマは、「中国周縁地域からの訪日観光に関する研究：内モンゴル自治区を事例として」です。

先に簡単に、内モンゴルを紹介します。内モンゴル自治区は略称内モンゴル、中国北部に位置する内モンゴルの総面積は 118.3 万平方キロメートルです。内モンゴル自治区の常住人口は 2,405 万人です。現在、内モンゴル自治区は経済発展し、人民の生活水準の向上と余暇が増加しています。そのため、海外への観光旅行をする人々が多くみられるようになっています。日本への観光客も増え、特に中国の新しい休日制度改革の推進に伴い、長い休みが減り、短い連休が増えています。そのため、多くの観光客が、距離が近く、文化の差が大きい日本を旅行先として選択するものと思われます。

これは、JIMC のニュースです。題目は、中国人最新訪日意識調査結果発表、コロナ後も中国人の訪日意欲は旺盛、日本は「行きたい国ナンバーワン」に、というものです。このグラフは、2016 年の中国各省行政単位の 1 人当たりの GDP です。グラフによると、内モンゴルは、全国で第 7 位です。ですから、内モンゴルには、大きな海外旅行への潜在力があります。このグラフは 2019 年の中国のトップ 10 の海外旅行者の人数比を示したものです。データによると、2019 年には、4 時間以内の旅行先が中国人観光客の最も人気のある選択肢となっていることがわかります。2019 年の訪日客数は、中国が 20% でトップを占め、次いで韓国が 14%、アメリカが 11% となっています。

私の研究の研究目的です。本研究では、中国周縁地域からの訪日観光の現状を明らかにすることです。中国からの訪日観光客は、日本における観光学の研究対象として注目されています。しかし、中国の地方ごとの訪日観光の状況は、十分に調べられてはいません。そこで、中国の地方都市など、周縁地域からの訪日観光の状況について研究したいと思います。具体的には、訪日観光客の規模と変化、日本観光のイメージ、訪日時の観光行動などを明らかにしたいと思います。事例として、内モンゴル自治区を研究対象地域とします。

次に研究方法です。研究テーマに関する研究や、各種資料を分析しつつ、訪日観光経験者へのインタビューを利用して、内モンゴル自治区の訪日観光旅行の状況を明らかにします。分析の際に、内モンゴル自治区の訪日旅行と、上海・北京など訪日観光先進地域との比較対照から、その特性や地域差を見出す予定です。

これは、内モンゴル自治区からの訪日観光経験者の事例です。インフォマート属性としては、内モンゴル自治区オルドス市在住の20代の女性で大学生です。2人での個人旅行をしています。旅行は、個人ネット予約で手配し、9泊10日の日程です。これは、インタビューのスケジュール表です。

以下、まとめです。中国内モンゴル自治区からの個人旅行者へのインタビューからは、若者層が日本旅行の主力になりつつある様子が窺えます。団体旅行でも自由行動のある旅行製品が人気を集めています。春は桜、夏は海、秋は紅葉、冬はスキー、温泉などの観光資源が評価されていて、四季を通じて日本旅行は人気であることがわかります。

インタビューによると、日本への個人旅行をする人々は、20代の若い女性が主力で、日本は女性に非常に人気のある目的地であるそうです。例えば、温泉、医療観光、ドラッグストア、女性向けホテル、カプセルホテル、和服、和食料理、茶道などは、いずれも女性が好む観光体験とのことでした。以上です。ご清聴ありがとうございました。

自由懇談

フムチル（内モンゴル大学蒙古歴史学系准教授）：ありがとうございます。

王：何か質問はありますか。

フムチル：日本語だいぶうまくなったね。呼春君。

王：上手ですよ。なんか前回発表した時より、上手になりましたね。

フムチル：王さんは、まだ会社ですか、今。

王：会社って。

フムチル：前回、私が日本に行ったときも会ったんですよね。

王：そうですね。会社もまた、やっています、ぎりぎりですけど。

フムチル：いいですね。

王：いやいや。

フムチル：呼春君の研究テーマ自体は、面白いテーマだと思うのだけれども、ちょっと、今回の発表では事例が少ないというか、1人の例を示しただけですね。これから、どんどん事例とかバリエーションを増やしていったほうが、もっと実態に近づけるのではないかと思います。

呼春：分かりました。

フムチル：呼春君は、内モンゴル大学の私の学生なのです。

王：そうなんですね。

フムチル：クラス担当教員だったのです。2019年から2020年の間に、私が早稲田大学で訪問学者だったときに、彼も東京にいたんですよ。

王：そうなんですか。

フムチル：ええ。東京の言語学校から、私が澁谷先生に紹介して、中部大学に入ったのです。

王　：そうなんですか。内モンゴル行ってみたいです。
フフムチル：ぜひ、いらっしゃってください。
王　：先生と一緒にいくって決まっているのに、コロナになって行けなくなったんですよ。
フフムチル：そうですね。
王　：行きたいですね。
フフムチル：私も、皆さんが来るのを待っています。
王　：ぜひ。
フフムチル：コロナの後はいつ来ても、私は待っていますので。
王　：ありがとうございます。
フフムチル：内モンゴルの大草原と羊肉でごちそうしますよ。
王　：まだ、一度も行ったことがないので、行ってみたいです。
フフムチル：王さんの出身は天津でしたね。
王　：そう、天津です。ただ、うち、満州、もともと満州で、私は北京だったのですが。
フフムチル：満州族ですか。
王　：そうです。満州族です。はい、それでは、そろそろ、以上でよろしいでしょうか。
フフムチル：大丈夫です。
王　：じゃ、また、よろしくお願いします。

（　）内＝編集者の追記

飛騨高山

高山市におけるコロナ禍の影響と ポストコロナの持続可能な観光

2022.2.18
高山市飛騨高山プロモーション戦略部

飛騨高山

1. 高山市の概要

■人口推移(推計)

[実績値: 国勢調査(年齢不詳分を除く)]
[推計値: 高山市推計]
※基準日は10月1日

人口減少、少子高齢化が今後も続く見込まれ、地域の経済・社会への大きな影響、コミュニティの衰退、まち全体の活力低下等が懸念される。

飛騨高山

1. 高山市の概要

■雇用の状況

「労働力人口の将来推計」

2015年(H27) → 2045年(R27)
労働力人口 ▲17,165人 (▲34.4%)

■産業構造

[市内総生産: H26岐阜県市町村民経済計算結果]
[事業所数・従業員数: H26経済センサス(公務を除く)]

市内総生産 3,526億円
事業所数 6,600件
従業員数 48,853人

観光消費額 H31/R1年:1,013億円 (H30年:934億円)
観光波及影響額 H31/R1年:2,147億円 (H30年:1,979億円)
[H31/R1年観光統計]

飛騨高山

1. 高山市の概要

■有効求人倍率の推移

・有効求人数は増加傾向にあったが、コロナ禍で急減(対前年▲10,280人)
・有効求職者数は減少傾向にあったが、R2は増加(対前年+2,465人)
・有効求人倍率は上昇傾向にあったが、コロナ禍で急下降(対前年▲0.58倍)

飛騨高山

1. 高山市の概要

■日帰り・宿泊別 観光客の推移

※日帰り
※宿泊
※合計

飛騨高山

1. 高山市の概要

■外国人観光客の推移

平成31年外国人宿泊者数 国・地域別割合

飛騨高山

3. 観光戦略

■八次総で掲げる施策の実施 検討事項の具現化

■新型コロナ感染症を踏まえた 今後の観光のあり方

■今後の観光戦略に向けて

- 観光関連データ収集の強化
- 観光客ニーズ把握の強化
- 行政・団体・事業者・市民の役割分担の明確化
- 関係者が同じ考え、方向に向かって観光施策をすすめる

■今後さらに求められる視点、キーワード

- 滞在型・周遊型観光
- 文化資源・自然資源(様々な旅行形態)
- 地域資源の活用方法(付加価値、体験、手段)
- 持続可能な観光地づくり(ルールづくり、人材の確保) など

飛騨高山

3. 観光戦略

■八次総で掲げる施策の実施 重点事業

1. 教育旅行に係る調査の実施

- 教育旅行の申込は、年間90,000人前後で推移
- 教育旅行の誘致は、将来のリピーター獲得や移住につながる取り組みとして期待
- 若年層の高山への認知度が他の年齢層よりも低い(H29GAP調査)
- R2にコロナで先行・日程変更や中止が相次いだ
- コロナでの状況変化について学校、旅行会社に調査

2. サイクルツーリズムの推進

- H29に環境負荷軽減、健康増進、交通渋滞緩和、観光振興などを目的とした自転車活用推進法が施行
- 観光客が古い町並とその周辺に集中する傾向。支所地域への誘客と周遊性向上
- サイクルツーリズムの実証実験
- 支所地域を中心とした観光資源を自転車で巡るコースづくり

3. 飛騨民俗村再整備事業

- H30飛騨の里の申込は154,000人(最盛期の1/5)
- 開設から45年が経ち、施設の老朽化がすすんでいる
- H31 飛騨民俗村再整備構想を策定
- R2~R11(10年間)にわたり、施設の整備(遊歩道、家屋等)や体験メニューの充実

3. 観光戦略

■ 8次総で掲げる施策の実施（重点事業、検討事項）

4. 奥飛騨温泉郷活性化事業

- ・ 全国の温泉地ランキングにおいて2年連続満足度1位に選ばれている
- ・ 宿泊者数、宿泊者数が減少傾向（宿泊施設稼働率約25%※高山市市街地と比べ低い）
- ・ R3年度「奥飛騨温泉郷活性化構想」を策定予定
- 交通拠点としての整備
- （中津地区は、市の夏の玄関口として、新穂高地区は、山岳拠点として駐車場等の機能の整備）
- 個性ある5つの温泉地の更なる魅力の向上等

5. スキー場のあり方の検討結果に基づく対応

- ・ 市営スキー場は、温暖化による営業日数減や施設の老朽化により、今後大規模な資本的修繕が必要
- ・ スキー場を取り巻く環境の変化等から、市営スキー場の目指す姿が求められている
- ・ 隣接する2つの市営スキー場の現状、課題整理
- ・ 廃止した地域を中心とした地域振興策の検討

検討事項

魅力的な観光地づくりに向けた取り組みの検討
高地を活用したヘルスツーリズム
法定外税（宿泊税）導入の検討

3. 観光戦略

■ 新型コロナウイルス感染症 経済対策事業

1. 産業団体等消費活性化策支援事業補助金（第1・2・3・4弾）

市内産業団体等が主体となって取り組む消費活性化策を支援

土産品組合や旅館組合などがプレミアム付き商品券、割引などの取り組みを実施中（現在は、まん延防止等重点措置により中止中）

補助限度額 500万円 補助率 2/3以内

事業期間 令和3年9月～令和4年3月31日まで（※第3弾）

2. 教育旅行誘致促進事業補助金（第1・2弾）

行先変更、期間変更による教育旅行誘致及び地域内での消費拡大

高山市では、その相乗効果を狙い、宿泊で来訪する学生等（引率者を含む）に1人あたり1千円のクーポン券を配布し、市内での消費喚起を促進

事業期間 令和3年8月1日～令和4年2月28日まで（現在はまん延防止措置により中止中）

県の「教育旅行の宿泊に1人あたり2千円を助成」する制度と併用可

3. 体験プログラム利用促進事業

滞在期間の増加や観光の質の向上による観光客誘致・魅力発信

高山市内に宿泊する観光客に対して、1人あたり3千円（外国人は6千円）の体験プログラムで利用できるクーポン券を発行

事業期間 令和3年12月1日～令和4年3月31日まで（現在はまん延防止措置により中止中）

3. 観光戦略

■ これからの取り組み

1. 松本高山Big Bridge構想

中部山岳国立公園の地域資源を最大限活用し、上質で多様な利用と滞在を提供する「世界水準のデスティネーション」を目指す

組織：環境庁、岐阜県、長野県、高山市、松本市、両市内の観光協会、バス事業者、山小屋事業者等

内容：高山市と松本市の両市街地を繋ぐ横断ルート＝松本高山Big Bridge構想と位置付け、大自然を満喫できるサステナブルツーリズムに取り組む

国内外からの山岳観光をはじめとする滞在型観光を目指す

2. 魅力ある観光地づくり調査

コロナ禍による観光客の行動変容等を調査・確認し、短期、中長期的な観光戦略の基礎資料とする

調査項目：GAP調査（旅行者と地域の意識の差、旅前と旅後の差、移動手段、滞在時間など）

観光客の受入態勢（宿泊施設の適正なキャパシティ、泊食分離のニーズなど）

その他（上町と下町の回遊性向上、若者の旅行ニーズ、受入状況など）

まとめ

- ・ H31年まで、インバウンドをはじめ頭懸に観光客入込数が伸びてきたが、コロナによって観光客数が半減し、高山市の観光産業全般が今までの取り組みの検証と、次の手をどう打つべきかを模索している
- ・ 高山市における「持続可能な観光地づくり」として、市民、観光関連団体、事業者、行政がともに同じ方向性を持つ必要性が今更には求められている
- ・ 高山市が持つ自然環境、歴史文化の魅力が市民が理解し、将来にわたって守り受け訪客に伝えられるまちづくりを目指す

4. 海外戦略

■ コロナ禍におけるインバウンドへの取り組み

1. Dreamingアクション

高山への訪問を想起させる、高山を忘れさせない取り組み

徹底した情報発信

- ・ Facebook等SNSによる継続的な情報発信（Visit Hida Takayama）
- ・ YouTube動画の作成
- ・ 特設ページの開設、特設ページへ誘導するための広告
- ・ INTO（日本政府観光局）と連携した動画によるライブ配信 等

2. Planningアクション

高山市への訪問のために計画させる取り組み

オンライン商談会への積極的な参加

- ・ アメリカ、イタリア、フランス、台湾等の旅行会社等とのオンライン商談

3. Welcomingアクション

訪問した時につけ加えたい受入環境の整備に向けた取り組み

旅行者に安全で安心であると実感させる

- ・ 徹底した感染予防対策の推進（新型コロナウイルス対策感染防止・おもてなし支援事業補助金）
- ・ 域外からの来訪者受け入れに対する不安や抵抗感の払拭のための異文化理解、多文化共生の促進（「Hida takayama together」Facebookページの開設）
- ・ 医療と連携した実証事業の実施（外国人向けフェススタッフ医療相談窓口の実証実験）

5. 飛騨高山ブランド戦略

■ 目指す姿

飛騨高山ブランドを100年200年先にも飛騨高山のまちづくりを支える礎とするためには、**市民・事業者・行政が本来の飛騨高山の魅力や価値を再認識し、連携して課題の克服に取り組む**ことで、確固たる飛騨高山ブランドを築き上げる必要がある。

↓

- 誇りと愛着を持って生きる飛騨高山の人々によって、持続可能なまちが形成されている。
- 飛騨高山にしかない、飛騨高山だからこそ感じられるものに魅かれ、多くの人が集まってきた。
- 伝統と本物の技に裏打ちされた地場産品が、国内外で広く流通し、人々の暮らしと心の豊かさに貢献している。

5. 飛騨高山ブランド戦略

■ 飛騨高山ブランドコンセプト

飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物
それが「飛騨高山ブランド」

緩やかに流れる高山時間※の中で培われてきた
飛騨高山の風土（気候・地形・景観などの自然資源）や
飛騨人（ひだびと）の暮らし・営み・精神などから生み出される
有形無形の魅力群「飛騨高山ブランド」

「飛騨高山ブランド」は、**人々の期待を裏切らない**磨き上げられた本物であることを約束する

※高山時間…ブランド戦略では、「都会の喧騒から離れてゆったりと過ごすことができる飛騨高山特有の時間」とする。

5. 飛騨高山ブランド戦略

■ 飛騨高山ブランド

飛騨高山の魅力・価値を表現する4つのキーワード

伝統

東西の文化と飛騨高山の風土が融合して生まれた「郷」と「奥ゆかしさ」が宿在する「飛騨高山独自の伝統」を的確に表現するもの

○個別の魅力例
高山祭、地域の祭り、古い町並、伝統芸能、神社仏閣、めだた、旧蔵の節約行事 等

癒し

飛騨高山の自然や環境、景観、緩やかな時間の流れなどが生み出す「癒しの要素」を的確に表現するもの

○個別の魅力例
山岳、森林・樹木、温泉、四季の移ろい、農山村風景、清澄・美、星空、穏やかな時間の流れ、標高差、寄道道 等

人情

飛騨人（ひだびと）の暮らしが育んできた助け合い、支え合いの精神が生み出す「全ての人をやさしく包み込む人情味」を的確に表現するもの

○個別の魅力例
厚い人情、おもてなし、助け合い、郷土愛、飛騨牛、協働のまちづくり 等

匠

飛騨高山の風土と暮らしが育んできた「ものづくりに対する心と技（ものづくりのDNA）」が生み出す「匠による本物」を的確に表現するもの

○個別の魅力例
飛騨の匠、漆台、家具、地酒、伝統工芸品、民芸品、飛騨牛、高山地野菜、米、郷土料理、駄菓子、文化芸術、自然エネルギー 等

6. 高山市が目指す「飛騨高山プロモーション戦略」

① 飛騨高山の魅力（国内外からの観光客に支持される観光資源など）とは**有形無形の魅力群**であり、「飛騨高山ブランド」であるということを市民、事業者、行政が理解する

② コロナ禍により、既存の価値観や人々の行動が変容し、これまでの戦略の延長線上に未来が描けなくなっていることから、次の一手を考え、打ち出す必要がある

③ 飛騨高山ブランドを基軸に、ひと・モノ・サービスの高質化を図り、誇り溢れる市民と国内外から集まる人々が行き交うまちの創造を目指す

高山市におけるコロナ禍の影響とポストコロナの持続可能な観光 自由懇談

原田伸介（イベント学会中部地域本部事務局長）：先ほどありがとうございました。先ほどのお話の中で、実はいろんな取り組みをしてみえることがよく分かったのですが、高山市は、もともとは山の国で、天領で、飛騨の匠と云う、お米が取れないような山ばかりの土地だったので、使役、大工の仕事を税金の代わりにして、奈良や京都で都をつくった。そういう本当に生粋の山の巧なわけじゃないですか。そして全国の寺社だとか、仏閣とかを造ったりしていた。いわゆる飛騨の匠は、外の人間から見ると憧れですよ。海外の方々もそういうふうにいるのだらうと思っていて、さらに、そんな山の中にもかかわらず、おっしゃっていた飛騨春慶や、一位一刀彫などは、実に素晴らしい文化があるのですが、本来だと、そういう根の深い文化をもう一度磨き直してというか、もちろん情報発信も、いろいろされているのですが、特に海外の方々や僕らみたいな年齢になると、そういう根の深い文化に非常に興味がある訳です。新しい物もちろんいいですし、新しい観光資源もあるのですが、そういう根の深い文化をもっと前面に出して、こんな歴史の中で飛騨春慶を継続して来たとか、金森宗和の宗和流が飛騨春慶を全国区にするきっかけを作り今に至っているとか、そんなことを改めて気づくと、ゆっくりゆっくり感動と衝撃が伝わる。そういうふうに入っていて、そういう表現の仕方というのは、高山さんのみならず、自治体の中では割りと少ないと思っています。ですから、根の深い文化を、もう一回磨き直す、育て直す、作り直す、編集し直す、腰の強い観光ができるのではないかと。私は、それが実は本当の意味での持続可能な観光なんじゃないかと思います。毎年、毎年、新しいものを何か出したり、観光資源を一生懸命作ったり、情報発信をしたり、そういうことももちろん大切です、時間が掛ければ明日の飯が食えないという観光業者の思いも痛いほどわかります。

永田友和（高山市飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長）：おっしゃるとおりです。

原田：ちょっとそんなふうに入っているのですが。

永田：ありがとうございます。高山のことを高く評価をいただいて、本当にありがとうございます。今、伝統工芸の一番の問題というのが、特に飛騨春慶なのですが、やはり後継者がいないということが大きな問題です。高山市としては春慶とか一刀彫とかの後継者の方に対して、月 12 万円の生活費を支援したり、受け入れた事業者の方には 5 万円を毎月支援したりすることを、5 年間続ける形で進めています。何年か前からあるのですが、6～7 年くらい前に、金額を上げました。ただ、それでも、なかなか集まらないのです。それでも細々ながら 1 人、2 人、若手の方が来てやってくださってはいます。ただ、やはり一番難しいのは食っていくことができないということですかね。

原田：そうですね。

永田：昔のように売れていかないので、そこが非常に難しいところです。特に飛騨春慶というのは、やはりもともと普段使いで、輪島漆器のような高級品ではないので、その当たりが、本当に難しいは聞いています。ただ、そういったものをしっかり表現しないといけな入と思っはいるので、劇的な変化を与えることは、なかなか難しい。飛騨春慶をやっている

方はだいぶ高齢化は進んでいるということもあって、何とも脱出口が見つからないというのが実情です。

原田：そうですね。実は、私も、サステナブル・トラベル街道というプロジェクトを今進めていて、文化発掘ユニット手仕事組っていうチームを作って、いろいろ取り組んでいます。これは、街道を軸にしながら、その街道の沿線に埋もれている、いろんな文化を掘り起こして、観光の新しい資源にしていこうという取り組みです。先日、地元名古屋ですけども、有松で、一つ行いましたが、有松絞りも、実は非常に後継者不足で悩んでいます。もちろん、有松の売り物は色々なものがありますけれど、そこに新しい感性のエッセンスを加えて、今回は日本産の藍を取り上げました。今日本では2%しか使われていないのですが、もちろん有松でも使っていません。今、ほとんど化学物質で藍は作っています。それには価格の問題や、いろんな問題があります。そしてその藍を使った取り組みの中で、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』の中で、主人公の弥次喜多が有松で有松絞りの手ぬぐいを買うシーンが出て来ることに、たまたま思い至りました。そういう歴史的な背景を再現して、実際に有松絞りの手ぬぐいを作ってみようと思ってみました。歴史時代考証も、大学の先生にご相談しながら、絞技法は蜘蛛絞かもしれないと言いながら試作していきました。そういうものが出来ると海外の方々がすごく反応すると思います。更に、また日本産の藍で作るということになれば、日本産の藍が、実は、抗菌作用があったり、ポリフェノールが入っていたり、今の時代、コロナの時代にその藍の布で口を覆うと、抗菌作用があるとかむしろ健康になるとか、ウェルネスツーリズムみたいな意味も含め、付加価値が付きますよね。それを、新しいサービス・商品として世の中に産地として出していくと、それこそサステナブルな息の長い観光資源の開発ができるだろうなということで取り組んでいます。例えば、高山飛騨春慶も、バックボーンには宗和流の金森宗和がいるわけです。茶室の文化やそういったものを、もう一回飛騨春慶の中に置き直して編集し直していく。例えば、現代のクラフトマンが作るマグカップを金森宗和流の飛騨春慶技術を使い作るとか、あるいはパソコンのボディを飛騨春慶で作ってみる。いわゆる置き直しとか、そういったことで、なんかできる可能性がないかなということを、ちょっと思っています。

永田：そこですね。

原田：もう一回、磨き直したものを、改めて自治体の方々が一生懸命発信する、それで更に発信力が上がるはずですよ。産地関係者の反応も、もっと何か、こんなものができないかとか、日常生活に使えるものが出来ないかという話にならないかと思ったりします。そこはどうですか。

永田：ありがとうございます。本当に現代のマグカップであるとか、そういった商品にカスタマイズしていくようなところというのは、あまり積極的ではない感じなのですね。ただ、以前伝統工芸を担当する係にもいた際に、そういった新しい目線も入れなくてはならないですよ、という話はしていました。しかし、やはり、みなさん年齢が高いということもあって、なかなか、新しい商品というのは難しいですね。何かやらなくてはいけないのかもしれませんが、そういったものは若い人たちに言わないと、なかなか取り組もうという気にはならないですね。あとは、ツアー商品で言うと、体験プログラムのクーポン券を発行しているとかのお話をしました。体験プログラムを作ってくれと、いろいろなところにお話をする中で、ある事業者の方の提案で、春慶の塗りの現場に——普通は、ちり一つ入らない場所

でないといけけないので入れないのですが——入ってみて、一緒に春慶を塗るというものがありました。今回初めて、簡単に塗って製品をもらうというような体験商品を作ったということはあります。

原田：すごくいいですね。

永田：ありがとうございます。民間の方が作った、そういった取り組みは一つあります。体験交流館という場所が高山市の中にありまして、そこで週に1度ぐらい、一位一刀彫を掘っているところを見せたりはしてはいるのですが、外国人の方って買っていかないと、まったく買っていないということです。しかし、そういった現場を見せていくというのは、すごく大事だと思っています。

原田：それは、多分、編集の仕方ですね。例えば、高山のスターボックスに行くと、木彫りで漆塗りのカップが売っています。

永田：はい。

原田：あれは、販売直後 200 個すぐに完売してしまうらしい。

永田：ほお。

原田：そして、ものすごく見た目も格好いいです。スターボックスで販売している事もあるかもしれませんが、高山限定販売で、漆塗りの一刀彫。だから限定品です。ただ、単純に制作の現場を見せるというだけだと、なかなか一般の素人には伝わらないし分かりにくい。

永田：そうですね。

原田：だから、何かそういう表現の仕方をちょっと替えてあげるだけでいいのではないのでしょうか。そういった根の深い文化体験が出来る場所を街道沿いに幾つか作り、滞在しながらそこを中長期で巡る。私達は文化のお遍路と言っています。今年の夏はここを見て、来年はここを見てと言いながら、飛騨街道をずっと完走していく。そういう取り組みをできるといいなと。他にも左甚五郎は高山の人だったという挿話もあるじゃないですか。13 歳ごろまでは、高山に在住していたらしいと聞きました。

永田：そういう伝説もありますけど、嘘か本分か分からないのです。

原田：水無神社には、木彫りの馬があって、そういうのを上手に物語に仕立てて、高山の町を「クラフトの街道を歩こう」と企画する。歩くこと自体が、非常にエコロジーな話ですので、歩くことそのものが観光にならないかなと思っています。従来の様と同じものを見せる、買う、温泉に入る、食べるのもいいですが、今の時代歩くことこそ観光にならないかなというふうに思っていて、それで、サステイナブル・トラベル街道を進めています。中長期で文化のお遍路をしながら街道をめぐる事ができて、そんな情報発信をしていくと、いろんな分野の人が食いついてくるのではないかと考えています。そういう考え方というのは如何ですか。

永田：すごく面白い考え方だと思います。素人考えですが、歩くというのは、確におっしゃるとおりで、私も違う町に行ったら、歩くことで新しい発見があったり、普通にスーパーに入っただけでも、その地でないと売っていないものがあつたりしますね。お魚屋さんのコーナーなどは、絶対高山では売っていないものがいっぱい売ってたりしますので、そういうものを見るのはすごく面白いですね。ちょっと話している内容が違ふかもしれないですが、そういう自分だけの新しい発見を見つけていく旅というような、あなただけの旅作りみたいなイメージのものはすごく楽しいそうだと思います。

原田：日本人って、昔から普通のを面白く変えていくのが得意な人種だと思うのです。何でもない普通のをすごくきらきら光るものに変えてしまう。江戸時代からずっと作ってきているのに、ある時点から、技術の肝心なところを省略して、どれもが同じ金太郎飴になっていってしまっている伝統工芸も見受けられます。効率化、価格の問題も含めて、それがもったいないなと思っています。時代に逆行するのかもしれないですが、「もう一回磨き直して、プロモーションをちゃんとしてあげる」そんなことができないかなと思っています。高山にお邪魔したときには、永田さんをお尋ねしても宜しいでしょうか。

永田：もちろん、お越しくださいませ、ぜひ。具体的な話がどこまでできるかというのは、ちょっとあるのですが。結局、春慶組合さんとかのお考えもあるでしょうし、私は海外戦略課ですけれど、商工振興課が伝統工芸を担当する部署にはなるので、一緒にお話できると良いと思いました。

原田：そうですね。伝統工芸だけではないかもしれないですし、もっと何か新しいものもあると思います。ただ、その土地に深く根差したようなものが、その土地独自の魅力だと思っていて、これは伝統工芸に限らずだと思います。そういうものを、ご一緒に掘り起こすようなことができると、「ゆっくりした衝撃」かもしれないですが、後からの衝撃としては大きい。実はそうだったのかと、「あとで気付く大きな衝撃」みたいなものがある。どうしても観光事業は、最初に驚かせようと思いますし、意外性も大事です。

永田：そうですね。予期せぬ驚きみたいなものがあると、確かに印象が大きく違ってきますよね。よくうちの市で、外国人の方が、我々には当たり前風景にびっくりされる。喜んでもらえるのは、雪。市役所の駐車場に雪を一気に集めて、ものすごい壁を作るのです。それを東南アジアの方々が見て、大はしゃぎしている。あとは、市内散策でも、日本人の墓地というのに、すごく興味を持たれます。

原田：面白いですね。

永田：高山市って京都に似た町並みで、東山寺院群というものがあるのですが、そのあたりに墓地があるのです。そこを中心として回れるような、4 キロぐらいの散策マップを外国人用に作って、それを観案内所に置いたりする取り組みはしていますね。

原田：なるほど。茶の湯の文化はどうですか。姫宗和っていう、金森宗和、宗和流ってもともと彼が京都から持ってきて、高山で浸透した素敵な茶の湯の文化が高山にあるじゃないですか。ああいう文化って忘れられてしまっているけれども、本当はすごく魅力的な気がします。僕は、そういうようなものをもう一度、きちんと磨き直すことがサステイナブルな観光なんじゃないかなっていう気がしますね。

永田：市民の方にお茶の話を聞いても、やはり表か裏が、ほとんどですね。宗和流というと、洲さきさんとかの料亭さんとか、一部の方だけがやっている文化なのかということもありますし、そういう人を探して、かつ、プログラムに組むのは、今は想像できないですね。あとは、ちょっと場所は離れていますが、茶の湯の森っていう施設があります。

原田：面白いですか。

永田：今、閉鎖されてしまっている状態で、お客さんもないのですが、以前は、800 円か 1,000 円ぐらい払って、中に入ってお茶の体験ができました。お茶とちょっとした和菓子を食べられて帰るみたいなのところもあって、そういったところも、インバウンドが回復すれば、また再開できるかと思っています。

原田：そうですね。インバウンドもコロナもあるので、実体験は難しいと思いますが、宗和流の16代の現当主は、元サラリーマンの方が、京都の大徳寺で、得度を受けて受け継いでいらっしやいます。そうすると、京都の文化と高山の文化が改めて一度につながって、プロモーションが可能になる。そういう広がりが出せればいい。切り口を少し編集し直してあげると、情報発信が生きてくるし、SNSやホームページで発信しても、面白いものが作れるような気がしますね。

永田：そうですね。一つ一つ詳しく掘下げていくことが大事なのだと思います。

原田：丁寧に。やはり、人の知らないことをその土地で学んで、楽しいですね。

永田：そうですね、楽しいですね。

原田：僕ら高山のことなんか全然分からないですけど。

永田：いや、よくご存じで。

原田：でも、改めて現地に行き、地元の人に教えていただくと、ホームページやWEBや、SNSじゃ分からない地域の空気感を感じます。先ほどの左甚五郎話なども外から見ると、物語としたり面白いと思うけれども、地元の人には本当に大事にしているのかなと思います。そういう物は実際に行かないと分からないのかな。

永田：そうですね。左甚五郎っていっても、昔の職人の方かなというイメージが強いですが、昔は、いろいろ腕利きの職人の方が——左甚五郎は大工ですが——彫刻を掘った。谷口何とかさんとか、いろいろ見えるので、そういった方のほうが、より高山の人にはメジャーなのかという気はしますね。

原田：でも、京都の知恩院に行くと、左甚五郎の忘れ傘って言って、今でも傘が本堂に置いてありますね。

永田：そうなのですか。

原田：その話は、甚五郎が本堂を作るのですが、あまりきれいに作ると神様が嫉妬するということで、わざと傘を忘れて、「まだ工事は途中ですよ」と言って置いて来る。その「甚五郎の忘れ傘」を観光客が見に行く。

永田：そういうストーリーは面白いですね。

原田：そういうのが、きっと日本人にしても、外国人にしても面白いのだろうなと思ったりします。それと、例えば、近江の三井寺に行くと、竜の彫り物があつて眉間に五寸釘が打つてある、それは、夜な夜な竜が暴れ出して、湖の上で大暴れしたらしい。これも笑い話です。要するに甚五郎が眉間に五寸釘を打って止めたのだという話をするわけです。これも物語です。僕は、その話をお寺の人から教えて頂きましたが、それだけで覚えてしまうのですね。誰かに話をしたくなります、こういうのが多分必要なんじゃないかと思います。せっかく、そういう文化をお持ちの土地なのでそれを磨かない手はないかなと思います。

永田：ありがとうございます。

原田：掘っていくといっぱい出そうな気がして、高山は。

永田：いろんなものが落ちているかもしれないですね。

原田：意外と落ちているような気がしますね。僕ら、外から見ているからそう思うけれども、恐らく中にいる方々は、なかなか気づかない。でも、もしかするとそういうものがいっぱい転がっているかなと。外国の方と、よく話すのですが、そういう話ばかりなのです。「温泉まんじゅうの話はもういい」、やはり歴史文化の話なのです。神岡村なんかでも面白い

じゃないですか。昔は金山、銀山があったりして。これも外国人の方に教えてもらいましたけど、そのお金で高山のまちはできたとか。

永田：そうですね。

原田：外の人に逆に聞かされるとびっくりしたりする。

永田：我々も知らなかった。木材でもっている町なのかと思ったら、そうではなくて、お金がうなるほどあったのは、神岡金山のおかげだというふうには聞きますね、確かに。

原田：そうですね。白山とか修験者の文化っていうのは、地元では如何ですか。富山に連なる白山という霊山があるじゃないですか。ちょっとずれているのかもしれないですが、例えば、大野市だとか、福井市だとか、飛騨市だとか、あの辺というのはずっとつながって、すごく深い白山信仰があります、高山だとどうなのですか。

永田：信仰は、御嶽信仰のほうが強いですね。

原田：そうですか。

永田：宮川沿いに神社というか、御嶽を祭るところがあったりとかして、そこは比較的昔からある。どっちかという、御嶽信仰が強くて、白山信仰の話は、あまり聞かないですね。

原田：なるほどね。

永田：白山にまつわる場所というと、荘川という、高山の西側の白山が見える地域がありますが、そこで白山信仰は聞かないです。どちらかというと、逆に、浄土真宗の高山別院に移る前は、昔白川郷にあって、白川郷から高山に移ってきたという感じなのです。どちらかというと、西側も白山信仰というよりは、そういった仏教の流れのほうが強いというような印象です。

原田：仏教は和紙と関わる文化、白山を通り越前和紙から美濃和紙につながる和紙文化が、恐らく写経と漢字を通じて白山を通してつながって来た。もしかすると修験者が、それを文化としてつないでいったかもしれない。なので、ひょっとすると金森宗和は茶室を作るときに和紙を使ったりしますが、そういう、つながりで新しい切り口を作っていくと面白い。僕は山伏や修験者というのが、昔のインターネットの役割だったのではないかと考えています。

永田：おっしゃるとおりかもしれないですね。

原田：今は、こうやって高山とネットでつながるが、昔は手紙だったり、口伝だったりするじゃないですか、それを出家したお坊さんや修験者が、あそこであんなものがはやったとか、ここではこんないいものがあつたと持ち込んだりした。そんなことをやったのかなというふうに思っていて、特に飛騨の巧が、京都へ出ていくときに、いろんなものを持ち帰ったりしたのかと想像してしまいますね。

永田：でも、そういう想像をするのはすごく楽しいですよ。

原田：楽しいのですよね。

永田：昔の人、こうやって苦労して山を切り開いていったのだとか、本当に、そんなことを考えると、面白いですね。ちょっと違う話かもしれないですけど、高山というか、飛騨の祭りの獅子舞の系統には幾つかあって、その一つに、伊勢神楽があるのです。伊勢神楽が残っている地域は、高山の中でも一部あります。伊勢神楽の流れが途中で別の獅子舞に変わることがあります。高山の獅子は後からできた獅子なので、徳兵衛獅子というのですが、

伊勢神楽は、いろいろなところを回って真似して、地域でできたものだと思うのですが、それに触発されて、いろんな獅子舞ができたという感じなのかなとは思ったりします。

原田：まだまだ、知らないことがいっぱいありそうですね。

永田：たまたま、ちょっとなんかの本を読んだときに、そういうふうを書いてあっただけで、うる覚えの知識です。

原田：安藤広重の絵など見ても、ロープで川を旅人が渡る絵が出てくるじゃないですか。そんな険しい山だったなんて地元の人しか分からない。全然想像もしていないようなことだったので、改めてものすごい山だったなと。だからブランドとしては値打ちがすごくある気がするのです。ほかにはないですね、そんな山深いところは。

永田：東北とかは、どうなのかなと思ったりしますけど。なかなか、ちょっとかわった町ではありますよね。そういった山深いというところもあるし、歴史が意外と古いというところもありますし、飛騨の匠の話ではないですが。あと、もともと京都に似せて作った西の文化で作った町に幕府が入ってきて、東の文化も入ってきて、東西が入り混じるほかにはない、混ざったような町というのが、ちょっと特殊かなと思います。

原田：京都の京極氏が起こした、そこに、金森氏が入ってきた。京都の文化は元々色濃いかもしれません。 もう一つ福井市と話している事があります。福井、越前美濃街道。サステイナブル・トラベル街道の別テーマ。街道には東海道とか、飛騨街道とか、いろいろある。福井美濃街道が面白いと思って、美濃の方々や、福井の方々とはじめています。自治体を福井市と、大野市と高山市と、美濃市と、飛騨市を横につなぐ。縦につなぐのは、昇竜道とか中部圏はあるけれども、横につなぐのがない。中仙道や、美濃街道でつないでいくと面白いかなと思うのですけど。

永田：実は、我々高山市は、越前市さんと姉妹友好都市関係を結んでいます。

原田：そうなのですか。

永田：もともと、やはり金森家の。

原田：そうですね、金森家。

永田：都市提携をさせていただいて 30 年を迎えます。

原田：どんな提携をしていますか。

永田：市民ツアーとか、お互いにそういうものをしている。

可児俊典（中部大学国際・地域推進部課長）：話の途中で申し訳ないです。今回、メールでご案内をさせていただきました地域連携の可児です。

永田：ありがとうございます。

可児：初めまして。

永田：本当に今日は、よい機会をいただきました。ありがとうございます。

可児：私、中部大学の事務で地域連携を担当している可児と言います。高山との連携プロジェクトの関係で、今回ご案内をさせていただいて、お忙しいところ、永田様にもご参加いただきまして、ありがとうございました。貴重な時間をもつことができたと思っています。

永田：ありがとうございます。

可児：4 月から高山との連携・協力を担当させていただき、まだ日が浅いのですが、12 月の飛騨高山学会印象と、今日の感想をお話しさせていただきたいと思います。やはり学生を巻き込んだ活動というのも大事だろうと思います。それは、とても強く感じたところです。

ご存じのように、大学生は4年間経つと卒業してしまい、今回参加の末田先生のゼミ生も、4年生になっているので、持続可能かどうかというところが、非常に難しいところだとは思いますが。飛騨高山学会に行ったときも感じたのですが、学生たちの居場所というか、活動スペースというか、高山には大学がないことはないと思うのですが、いろんなところから大学生が集まってきて、個々の学生と高山との結びつきはあるのです。しかし、学生同士が結びついているか、連携しているかどうかというところが、まだよく分からないし、学生も多分、あまり実感として感じていないような気がしたのです。ただ、高山には、村半という施設があって、そこには地元の若者などが集まって交流している。そういうところに他の地域から来た大学生が関わられるような、何かきっかけというか、チャンスというか、そういったところを市のほうで上手くコントロールしてもらうとか、誘導してもらうとか、プロモートしてもらうと、学生同士がつながるのではないかと思います。それによって、ある意味で持続可能というか、広がりを持てるのではないかという感じがします。

永田：大学生との連携の部分は、私の専門からは外れてしまいますので、ちょっと明確な答えにはならないのですが、高山市として4年制の大学がないというのが非常に弱みで、かつ、やはり大学生に町の中に来てもらえる環境づくりというのはすごく大事なことだと思います。高山に大学はないですが、いろいろな大学の方の知見を生かすという意味で、大学連携センターというものを官民共同で立ち上げたという経緯があります。ですから、大学連携センターの考えは、いかに大学の知恵を活用するかというような感じだと思うのですが、大学生同士が交流していくというようなことも、一つ大事な事かなと思います。ぜひ、そういう形になると面白いなと思います。合宿の場所や、他の大学の学生と交流する場所として、高山市を選んでもらえるということがあれば、すごくありがたいです。

可児：そうですね。フィールドワークをされている先生と一緒にするのもいいのですが、学生だけで高山を訪ねて、そこで他の地域の学生や地元の高校生と自然に交流して行けると、我々大人や、先生やおじさん、おばさんが考えるのとは違うアイデアなどが出てくるような気がしました。多分、そういうことは考えていらっしゃると思うのですけど。

永田：そうですね。飛騨高山学会は何とか開催には至りましたが、今コロナの状況で、なかなか来てもらえない状況なので、思うように動けなくて、どうしようかという状態だと思います。大学連携も、しっかり動けるようになって来たら、そういったことを考えていきたいといけませんね。

可児：蔓延防止が少しずつ解除されて行き来がしやすくなったら、私たちもお手伝いをさせていただければと思っています。

永田：ありがとうございます。

可児：個人的なお話でもいいですか。

永田：どうぞ。

可児：自転車が好きで、実は私もよく乗鞍に走りに行ったり、スキーも好きで行ったりするのですが、先ほどの高山のプロモートの中でサイクリストというのがありました。これはすごくいいなと思って、可能性はあるような気がします。感染のリスクも少ないアクティビティなので、そういったことを、発信していただけると、今右肩上がりです。サイクリストが増えてきていますので、走る場所とか、いろんなシチュエーションを探していることがある

と思います。私もちょっと、こんなことがあるといいなというのは、幾つかありますので、また、それまで別の機会にメールさせていただこうかと思います。

永田：分かりました、また。

可児：魅力あるシチュエーションは、先ほどお話されていた文化的なものとか、伝統文化もありますし、サイクリストの楽しめる場所もあって、それぞれ楽しめると思います。多様な人が訪れて、また、その人たちがつながって、それぞれが魅力を発信することによって、どんどん広がって行くような気がします。

永田：ありがとうございます。

可児：横から入ってすみませんでした。

原田：いいえ、とんでもないです。僕も自転車は面白いと思っていて、自転車やる方々って、止まり木がない。よく町で見かけるのは、しょうがなくコンビニの駐車場でサイクリストがたむろして休憩して、水を補給している。だから、何か集まれる拠点があるといい。

可児：そうです。

原田：作ると、全国から集まりやすくなると思うのです。

可児：おっしゃるとおりです。コンビニで休憩しているのは、本当に走る途中なので。

原田：そうですね。

可児：サイクリングの後に自宅に帰るというのは、実は疲れ切った後の運転で、すごくきついで、本当は宿泊して、その土地のものを食べて、みんなで交流したいというのがあると思います。

原田：そうですね。

原田：ツールド高山ってやっていませんか。

可児：ないと思います。

原田：ないのですね。

可児：ツールド〇〇って人が集まるので、コロナ禍下ではやりにくいと思います。企画運営も結構大変なのです。

原田：なるほど。

可児：だから、そんなに大規模なものでもなくて、本当に10人から50人ぐらいの規模のものを頻繁にやるとか。休憩所を設けたり、怪我の対策をしたりするのが、すごく大変なので、よっぽど面倒見のいいサイクルショップの人とか、そういう人がいないと。朴の木平の「シャレー中西」という宿で、全国からランドナー愛好家が集まるミーティングがずっと開催されています。地理的にも集まりやすく、サイクリングコース、風景、伝統文化など魅力も多くあります。ホームページでも紹介されているのですが、そのぐらいの規模のものですと、当然泊まって夜はみんなで交流をしたりします。

原田：いいですね。

永田：面白いですね。

可児：そうすると、おいしい地酒も飲めるし、加えて、例えば市が関わっていただくと、そこで何かの伝統文化を見るとき、何かの伝統的なものをお土産で買っていかとかいったことも、広がってきそうな感じです。それは自転車だけじゃなくて、何か音楽的なものでもあるかもしれないし、オートバイとかクラシックカーとかかもしれないし。

永田：ありがとうございます。自転車っていうところに目を付けたというのが、やっぱり、もっと自然というのが飛騨高山にはあるので、そういったものを見てほしいということからです。高山の古い町並みだけでなく、滞在期間を延ばしていただくためにも、やはりサイクルツーリズムはすごく大事だろうと思います。ですから、エードステーション的なものというサイクルステーション、そういったものは考えていかなきゃいけないのかなと思います。なかなか、今おっしゃったような大会みたいなものを運営していくというのは、やはり、市とも観光協会でもなかなか難しいのだろうなと思います。

原田：大変だと思います。

可児：そうですね。それは大変だし、難しいと思います。

永田：一応、高山市として既にやっているのは、自転車じゃなくて申し訳ないんですけど、ウルトラマラソンというものです。

可児：さっき映像がありましたよね。

永田：100キロと72キロで2つあって、これも、高山市職員だけでなく、いろんなボランティア団体とかも総出で、3,500人ぐらいを受け入れてやるイベントなんですけど、ものすごい体力を使いながら、ものすごいお金を使いながら、東京の事業者の方に委託をしつつやっているというのがあるので、すごくいいアイデアだと思うし。

可児：そうですね。

永田：それをやっていくに当たっては、やっぱり体制というのは、相当大変だなと思いながらおりました。

原田：美濃市の話ですが、美濃和紙があるじゃないですか。和紙で作った靴下というのが、汗を吸うらしい。洗えるらしい。そこでサイクリストとか、マラソンの人が来ると、その和紙靴下が人気で売れるらしい。

可児：知らなかった。それは買ってみよう。

原田：そうすると、なんか新しい経済産業も興り、そういう人たちが買ってくれて、また履いて話題になることもあるかもしれないですね。

可児：実は去年の秋に、乗鞍に自転車で上ったとき、今までと違うなと思ったことがあります。電動自転車に乗った外国の方グループが多く来ていたのです。電動自転車を乗鞍観光センターで予約して、そこまではバスで来て、電動自転車で上って降りる。それを外国の方がスマホを見ながら楽しんでいました。電動サイクルステーションに10台くらいあったのですが、多分、いつも予約でいっぱいになるぐらい回転がよかったのです。去年の秋に探したら、どこも予約でいっぱいでした。高山にも何件かあったし、松本のほうにも何件かあったのですが、全部予約でいっぱい、驚きました。逆に言うと、それだけ潜在的なニーズはあるということです。高山で泊まって、電動自転車で、例えば周辺の温泉ぐらいまで行って泊まって帰ってくるとか。あと古川のほうの古い廃線の上を走るとか。

永田：神岡鉄道ですね。

可児：そうそう。

永田：ガッカンゴですね。

可児：そういうような雰囲気のものがあると、本当に自然を感じられていいなと思うのは、幾つかあります。またメールで送ります。

永田：分かりました。ありがとうございます。おっしゃるとおりですね。私も、実はeバイクを体験させてもらっていて、本当に今まで乗鞍のスカイラインなんて、自転車で上ったことはなかったのですが、私みたいに体力がない者でも、何とか1時間半か2時間ぐらいかけて上り切れたので、あれは、すごく面白いなと思います。

可児：すごいですよね。経験した人にしかわかりませんよね。

永田：ええ。皆さん苦労しながら上っているところを追い越して、楽々追い越していけると、確かにすごい魅力だなと思いました。あれはいいですね。すみません、ありがとうございます。

古澤礼太（中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授）：貴重なご発表、ありがとうございます。別のグループで観光客の滞在日数について話をしていました。

原田：海外のお金持ちの方は長いのではないですか。特にヨーロッパのパケーションは長いですね。本当のお金持ちって、それこそ1週間とか2週間とか、そういう単位で泊まる方もいらっしゃると思います。

古澤：ただ、それが、やはり白川郷と下呂なんかを回ってということで、ある程度コースが組まれてしまうので、2.5ぐらいなのだという話だったような気がするのです。

永田：そうですね。どうしても、いろんな場所を見たくなるところはありますし、我々もそれをPRの材料にしている。3つ星街道による、松本から金沢にかけての連携であるとか、そういったところはやっています。ただ、いかに、その中でもいかに高山に長く滞在してもらうかというところが、やはり大事だと思うので、おっしゃるとおりです。

原田：3つ星街道ってどういう街道ですか。

永田：ミシュラングリーンで3つ星を受けた観光地が松本、高山、白川郷、金沢というふうにあるものですから、そういうルートでバスを使ったりしながら抜けるルートということです。

古澤：私、こう平うどんが大好きで、毎朝こう平うどん食べます。

原田：こう平うどんって、なんですか。

古澤：変なうどん屋があるのですよ、朝6時から開いている。私に飲み屋でその店のことを教えてくれた観光客は「まずい」って言っていました。

原田：まずいのが売りなのですか。

古澤：まずいというか、ものすごくしょっぱいのですよ。辛いのですよ。でも、だんだん攻略法がいろいろ見えてきました。つゆとは別にお湯をはったどんぶりに入った麺を釜揚げうどんのように食べる方法を「ゆづき」っていうのですが、これだとしょっぱさは軽減できます。でも、行き始めるとやめられない。ホテルの朝食とか1,000円とか2,000円とかするじゃないですか。本当、数百円でおなかいっぱいになるのですから最高ですよ。

永田：そうですね、最初はハードルが高いかもしませんが。

原田：ぜひ一回。ゆづきね。

永田：ええ。

原田：まずいので思い出しましたが、昔はアンカレッジの空港にあるアンカレッジうどんというのは、世界一まずいうどんと言われて。

古澤：それはまずそうですね。

原田：南回りで夜中に着くと、夜そこで食べるしかなくて、旅行者はみんな、必ずそこでうどんを食べるのだけど、とにかくまず。世界一まずいうどんということで有名になったうどん屋を今思い出しました。

古澤：なるほど。いつか高山で。原田さん、一緒に行きましょう。

原田：ぜひぜひ、まずうどん食べたいな。

永田：決してまずくはないのですが。高山の人にしてみると、三大ソウルフードの一つと言われている。

原田：そういうことですね。

永田：多分、しょっぱいので。高山は雪国で寒いので、どうしても、やはり塩辛いものを求めてしまう。そのおかげで、からいのだと思いますけど。慣れてくると実においしいので、よろしくをお願いします。

古澤：麺が3種類あって、「交じり」とかあるのですよ。「交じり」は、うどん、そば、きしめんの中から2種類選ぶもので、「3色」というのは、うどん、そば、きしめんがすべて入っているのですよ。それを食べているうちに、もう、そのしょっぱさがしみ込んで、きしめんとか抹茶色になるのです。だから、その「ゆづき」っていうやつにしないとちょっと私にはきついんです。

原田：永田さん、これも観光ですよね。僕、これも観光だと思いますよ。

古澤：本当そう。

原田：まずいかどうか、ちょっと置いておいて。でも、こうやって話がゆづきのお話でできると、外の人間から見ると、すごくうらやましいし、そういうのって伊勢行けば伊勢うどんがあつたり、飯田市に行くとならめんっていうソウルフードがあつたりしますよね。それと多分、似たような話だと思うのですよね。「あれ、食べたい、食べたい、食べないと死んじゃうよ」みたいなことを言って、それを求めて出かける。十分観光だと思います。

古澤：僕、年末の30日に行ったのですよ、大雪の中。塩ぶりを買いに。ぶり街道の。

原田：ぶり街道ね。

古澤：駿河屋さんの。

永田：駿河屋さんで。

古澤：本当、1匹買ってやろうと思って大金持っていっただけけれども、切り身があつたから結局、切り身にしましたけれど。

永田：無理はしないほうがいいと思います。年末は高いので、ぶりが。本当にありがとうございます。

古澤：駿河屋の若い社長さん、清太郎さんに「ください、ください」って何度も言ったのですが、やっぱりもらえないですね。

原田：そこが一番有名なのですか、ぶり街道のぶりは。

古澤：駿河屋さん、結構老舗なのですよね。

永田：そうですね、一番の。

原田：一番の老舗なのですか。

永田：一番の老舗のスーパーです。もともとは、やっぱり歴史が古いので、鮮魚屋としての歴史が古いので。塩ぶりの競り市とかのときは駿河屋の関係の方が仕切るみたいなのところがあ

るので、塩ぶりと言えば、駿河屋というのは、高山の人間にとっては常識にはなっているということです。

古澤：いや、おいしかったです。

永田：ありがとうございます。

古澤：大もりラーメンが移転すると言っていました。おばあさんが一人でやっている。

永田：本当ですか。

古澤：多分、もうあそこにはないはずなのですよ、12月いっぱいと言っていたもの。かなり遠いところに行ってしまうので、「誰も、もうお客さん来ませんよ」と言っているのですが、でも、「ひとりでゆっくりやっていきたい」とおばあさん言っていました。

永田：確かに、いっぱいお客さん来ていましたからね、あのラーメン。

古澤：飲んだ帰りにみんな行っていますものね。

永田：そうですね。

古澤：だから、そんな郊外にあっても、絶対人は行かないと思うのですが。

原田：でも、そのおばあさんは、面白いすてきなおばあさんなのではないですか。

古澤：面白くはないけど。

原田：面白くない。

古澤：一生懸命やっていますけどね。

永田：そうですね、

古澤：淡々と。だんなさんが倒れて。

原田：やっぱり観光ってそういう人も大事で、さっき「人観光」なんてどこかに出ていましたけど。あれは歴史的な話だけど、今、現在生きている、とってもすてきな生き方をしている人はいっぱいいるじゃないですか、そういう人は、話を聞くとやはり、会いに行きたくなります。

古澤：そうですね、それはありますね。

永田：話をしてみたいとかね。大体、そういう人って話をすると、また、つながりで面白い人を知っていたりして、その人も訪ねてみようとか、そのお店もちょっと行ってみようとか、そういう観光も本来はあっていいと思うのです。そうすると、人を訪ねていくと2回目、3回目がありますよね。また、話したくなる。

古澤：いや、本当に。ここ4人だけなので、あれですね、そろそろですかね。

永田：ありがとうございます。

原田：また、高山に行ったら、遊びに行きます。

永田：ぜひ、お越しくださいませ。

原田：可児さん、ありがとうございました。いろいろとお話も伺いましてありがとうございます。

可児：いえ、とんでもないです。

永田：ありがとうございます。

() 内＝編集者の追記

中部大学国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光2021^{年度}

2022 年 3 月 31 日 発行

編集責任
発行

柳谷啓子
中部大学国際人間学研究所
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地
電話 (0568) 51-1111

印刷所

中部大学サービス ドキュメントセンター



中部大学国際人間学研究所

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地 中部大学 TEL. 0568-51-1111